

## 1-2 種子植物



ヤマブキシソウ 1996年 佐倉市 大場達之

## 1 千葉県の子植物

千葉県の種子植物は、明治時代から採集されているが、1書にまとめられたのは、1932年に與世里盛春が出版した「千葉県の植物」が最初であり、在来種952種6変種16品種が掲載された。その後1958年に千葉県生物学会が「千葉県植物誌」をまとめ、1490種、3亜種、57変種、43品種、1雑種となった。さらに研究進められて1975年には千葉県生物学会が「新版千葉県植物誌」を出版し、1447種、3亜種、71変種、117品種を報告している。最も新しい千葉県植物誌は、2009年に千葉県史シリーズ・千葉県の自然誌・別巻4として発行され、1437種、4亜種、102変種、130品種、64雑種となった。その後、新産報告や新種の発見があった。今回の評価対象となる在来種は、1565種、8亜種、185変種、215品種、65雑種である。

千葉県に生育する植物の盛衰を見ると、與世里盛春が昭和時代初期に採集したのみの種子植物が数種あり、その後消失した可能性が高い。また、昭和30年代を境にして、水生植物やススキ草地、湿地の植物が急激に減少しており、現在もこの傾向は続いている。一方で、平成時代に入って、地域の自然現況調査などにより、調査地域が広がると共に、千葉県立中央博物館が設立され、植物調査が急速に進展し、新たに発見された希少種や新産地も少なくない。これまでに20万点を超える県内標本が整理され、失われた生育地や、生育数が減少した種子植物が少なからず確認されており、絶滅のおそれがあり、保護を要すると評価された種は増加している。

## 2 評価対象種

- ・評価対象とする単位は、種、亜種、変種、品種、雑種。ただし、品種の中で、白花などの個体変異にあたるものは対象外とした。
- ・千葉県で記録された証拠標本のあるもの、または明確に他と区別できる種で写真記録のあるもの。
- ・千葉県新産種： 今回の改訂に際して現地調査と標本調査を実施し、千葉県から初めての記録となる種子植物が発見された。その中から以下を保護上重要な種子植物として選定した。  
シラカワタデ *Persicaria maculosa* Gray subsp. *hirticaulis* (Danser) S.Ekman & Knutson var. *amblyophylla* (H.Hara) Yonek.  
キタミソウ *Limosella aquatica* L.

## 3 分布情報の収集

評価にあたっては、まず千葉県の種子植物の現状をできる限り正確に把握することを目的として、これまでに存在する千葉県内の種子植物の分布に関する情報を収集した。

千葉県レッドデータブックー植物・菌類編 2009年改訂版に用いた情報（植物標本、写真、文献：学術文献、地域フローラ、植生調査の報告、環境アセスメントの報告書、野外調査の記録等）約60万点と、その後の文献記録、千葉県立中央博物館収蔵庫の標本記録約20万点を用いた。これらのデータには重複があるので、それは省いて、カウントした。これらのデータは、分類群ごとに、3次メッシュ（2万5千分の1地形図を縦横10等分したもので、約1km四方）のデータをまとめた。保護すべき植物の選定基準としては、分類群ごとに記録されたメッシュ数を、地理的広がりを知る基礎とした。

## 4 評価の方法

ランクの評価は、環境省のレッドリスト判定基準における定量的要件（基準B）を参考にした。環境省に基準では、生育面積や生育個体数を判定の基準に用いているが、千葉県産の全ての種子植物について、現在生育している個体の数や生育地の広がりを確認することは、非常に困難である。また、過去に生育が確認された個体群が現在も存続しているかを、全種について確認することも非常に困難である。そこで、今回の改訂にあたっては、生育面積を3次メッシュ数と読み替えることとし、現在までに得られたデータから、それぞれの分類群ごとにメッシュ数を算出し、基準Bを用いた。その結果、2021年時点で、100メッシュを超えた分類群は原則としてランク外とした。

千葉県で生育が確認されている種子植物全部について、確認されたメッシュ数を算定し、A～Dのランクに該当するものを抽出し、種の特性や現在の分布状況等を鑑み、評価を決定した。例えば、ここ30年ほとんど記録がない種や、現在、生育地が急速に開発されている種などは、現在の生育状況を加味して評価した。

## 5 情報不足・絶滅のおそれのある地域個体群

### (1) 情報不足 (DD)

- ・ツルアジサイ *Hydrangea petiolaris* Siebold & Zucc.  
千葉県生物学会（編）（1958）によって清澄山に生育すると記載されているが、標本が確認できず、千葉県史料研究財団（編）（2003）においても、イワガラミの誤認である可能性が指摘されており、過去も現在も県内における生育が確認できない。

### (2) 絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)

- ・ノコギリヒゴタイ *Saussurea sinuatoidea* Nakai var. *bosupeninsularis* T.Ohba & Yoko Kimura nov. prov.  
これまでBランクにされていたが、基本種であるタカオヒゴタイ *Saussurea sinuatoidea* Nakai とは外部形態が異なるが、正式に記載されていないため、地域個体

群とした。

ノコギリヒゴタイの根生葉は、広卵形で、先端は尖り、心脚で、縁には粗い鋸歯があって、バイオリン状の欠刻凹入がないことや、総苞は卵状筒形あるいは鐘状で長さ7~11mm、幅7~8mmで、タカオヒゴタイよりも小さいことなどが特徴である。鋸山、君津市宿戸と館山市龍岡に生育しているが、・個体数も少なく、生育地が遷移していることにより絶滅のおそれがあり、保護上重要である。

## 6 保護を要する種子植物の概要と保護対策

現在、千葉県では暖温帯の植物が主に生育している。以前、寒冷だった時に房総半島に侵入し、現在では房総丘陵の限られた場所に生育している遺存植物がある。カツラやシナノキ、ハクウンボクなどがその例である。これらは生育地をしっかりと守る必要がある。特にゴヨウマツやイヌブナのような風媒花のものは、もはや自然状態では種子繁殖ができないので、人工的に交配して保全する必要がある。

保護を要する植物には、生育適地が、湿原のような点状のものがあ、開発によって失われるものがある。コシンジュガヤやクロタマガヤツリなどは、生育地を保全することでしか保護することができない。

北総台地の草原性植物も開発により、生存を脅かされている。かつて馬牧だった所には、草原が残っており、スズサイコやオキナグサのような草原性の植物が生えている。

かつて手賀沼や印旛沼は、ガシヤモクやヒロハノエビモのような水草の宝庫であった。湖沼の汚濁やウシガエルやアメリカザリガニなどの外来生物の影響で、埋土種子由来の株を植えても食害で定着させられない。域外保存で、系統を維持しなくてはならない。

海岸植物も、海岸の開発や砂浜の侵食で、危機に陥っている。砂浜の砂が風で動くようでない、他の植物の侵入を許してしまう。特段の配慮が必要である。

雑木林の林床に生育するカタクリやイチリンソウのようなスプリング・エフェメラルは、林が管理されており、林床にアズマネザサがはびこらないように定期的刈り取りが必要である。保護に際してはそのような管理が行われることが保護に取って重要である。

水田に生育しているかつての雑草で保護を要するアギナシやマルバノサウトウガラシなどは、除草剤の使用を控える。収穫後ロータリー耕をしない。湿田の状態を保つなど、特段の配慮がないと保護できない。

このように保護を要する植物は、生育地が限られているので、様々な施策を取りながら、生育地を保全する必要がある。

## 7 記述様式

### (1) 分類体系・学名・和名

分類体系とその配列は、APG IV (Angiosperm Phylogeny Group (ed), 2016) に、和名は米倉 (2019) に従った。学名は原則として「BG Plants 和名-学名インデックス (YList)」に準拠したが、必要に応じて、個別の文献により修正した。

### (2) 生活形

生活形は以下の略号で示した。

Ch: 地表植物 . E: 着生植物 . G: 地中植物 . H: 半地中植物 . HH: 水湿植物 . M: 小型地上植物 . MM: 大型地上植物 . N: 微小地上植物 . Th: 1~2年生植物

## 8 引用文献

- 天野誠・藤平晃司・軽込勉・三次充和・久本洋子・御巫由紀・尾崎煙雄 (2012) マルミノヤマゴボウ再発見. 千植誌資料 27: 267, 269
- 天野誠・藤平晃司・軽込勉・三次充和・久本洋子・御巫由紀・尾崎煙雄 2012 東京大学清澄演習林でオククルマムグラを発見. 千植誌資料 27: 268
- 天野誠・大内成文 (2013) 東京大学清澄演習林でユウシュランを発見. 千植誌資料 28: 278- 280
- The Angiosperm Phylogeny Group (ed). (2016) An update of the Angiosperm Phylogeny Group classification for the orders and families of flowering plants: APGIV. Bot. J. Linn. Soc.181: 1-20.
- 千葉県環境部自然保護課 (編) (1987) 14 栗山川中流の湿原 In 千葉県自然環境保全地域等適地調査 報告書 II:265-291. 千葉県環境部自然保護課, 千葉市
- 千葉県レッドデータブック改訂委員会 (編) (2009) 千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県レッドデータブック-植物・菌類編 2009年改訂版. 487 pp. 千葉県環境生活部自然保護課, 千葉市
- 千葉県生物学会 (編) (1958) 千葉県植物誌. 525 pp. 千葉県生物学会, 千葉市. 【千植誌 1958】
- 千葉県生物学会 (編) (1975) 新版千葉県植物誌. 567 pp. 井上書店, 東京. 【千植誌 1975】
- 千葉県生物誌 (1999-2022) 千葉県生物学会編. 【千生誌】
- 千葉県植物誌資料 (1995-2022) 大場達之・木村陽子編. 【千植誌資料】
- 千葉県史料研究財団 (編) (2003) 千葉県史 51. 千葉県の自然誌. 別編 4 千葉県植物誌. 1177 pp 千葉市. 【千植誌 2003】
- 千葉県史料研究財団 (編) (2005) 千葉県史 49. 千葉県の自然誌. 別編 2 千葉県植物写真集. 409 pp. 千葉市. 【千植写真 2005】
- 千葉県レッドデータブック改訂委員会 (編) (2009) 千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県レッドデータブック-植物・菌類編< 2009改訂版>. 487 pp. 千葉県環境

生活部自然保護課, 千葉市

- Endo, Y. (1994) Pistil Morphology of *Vicia amurensis* (Luguminosae) and its Allied Species. J. Jap. Bot. 69: 379-382
- Endo, Y. & K. Yashiro (1995) *Carex x takoensis* Endo & Yashiro (Cyperaceae), a New Hybrid from Chiba Prefecture, Central Japan. J. Jap. Bot. 70(5) : 273-279
- 原 寛・佐藤邦雄・黒澤幸子 (1971) 軽井沢の植物. 305 pp. 井上書店, 東京
- 橋本 保・神田 淳 (1981) 野生ラン. 246 pp. 家の光協会, 東京
- 久本洋子・三次充和・築瀬桐子・大石論・天野誠 (2017) 千葉演習林森林博物館所蔵の 1892 ~ 1990 年に最終された維管束植物標本リスト 演習林 (東大) 59: 1-53
- Honda M. (1930) Monographia Poacerarum Japonicum, Bambusoideis exclusis J. Fac. Sci. Tokyo Univ. Bot. vol.3 : 274
- Honda, M. (1937) Nuntia ad Floram Japapniae XXXIII. Bot. Mag. Tokyo 51: 645
- 星野卓二・正木智美 (2011) 日本カヤツリグサ科植物図譜. 778 pp. 平凡社, 東京
- 伊藤 至 (1966) 千葉県のホソバニガナ. 植物採集ニュース 15: 15
- 伊藤 至 (1966) 千葉県植物目録の追加. 千生誌 16(1) : 11-12
- 岩槻秀明 (2009) 野田市でオオハシカグサ発見. 千植誌資料 25: 245-246
- 岩槻秀明 (2013) 野田市でノダイオウを確認. 千植物誌資料 28:273-274
- 角野康郎 (1994) 日本水草図鑑. 178pp. 文一総合出版, 東京
- 川崎 一 (2012) 南房総市富浦町丹生でメジロホオズキを確認. 千植誌資料 27:267-268
- 木村陽子・岩槻秀明 (2010) ヤマククルマバナが千葉県に出現. 千植誌資料 26:259-261
- 木村陽子・岩槻秀明 (2015) サガミトリゲモ (ヒロハトリゲモ), 千葉県に産す. 千植誌資料 29: 287-289
- 大場達之・宮田昌彦 (2007) 日本海草図譜. 114pp. 北海道大学出版会, 札幌市
- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編) (2016) 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp. 平凡社, 東京
- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編) (2016) 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp. 平凡社, 東京
- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編) (2017) 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp. 平凡社, 東京
- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編) (2017) 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp. 平凡社, 東京
- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編) (2017) 改訂新版日本の野生植物 5. 472pp. 平凡社, 東京
- 大野啓一 (2007) 房総半島におけるムカゴサイシンの発見. 千植誌資料 23 : 197-198
- 小滝一夫 (1994) 三石山郷土環境保全地域 所収 千葉県環境部自然保護課 (編), 千葉県自然環境保全地域等変遷報告書, p.114. 千葉県環境部自然保護課, 千葉市
- 内野秀重 (2000) 千葉県未記録のタマブキ類について. 千植誌資料 15: 111-112
- Uehara, K., K. Saiki and T. Ando (2013) *Veronicastrum noguchii* (sect. Plagiostachys, Plantaginaceae, a new species from Japan. Acta Phytax. Geobot. 63(2) : 63-69
- 上原浩一・斎木健一 (2014) 絶滅危惧種イヌミスズカケの概要と保全 千葉県の生物多様性センター研究報告 7: 79-90
- 米倉浩司・梶田忠 (2003-) BG Plants 和名-学名インデックス (YList), <http://ylist.info>
- 米倉浩司 (2012) 日本維管束植物目録. 379 pp. 北隆館, 東京
- 米倉浩司 (2019) 新維管束植物分類表. 357 pp. 北隆館, 東京
- 遊川知久・谷亀高広・L. N. Sook (2009) 東アジア産サカネラン属 (ラン科) の再検討. Bull. Natn. Mus. Sci. Ser. B Botany 35(2) : 57-62
- 谷城勝弘・村田威夫 (1987) 下総におけるフクジュソウ. 千葉生物誌 36 (2): 70-71.
- 谷城勝弘 (1995) 千葉県のスゲ属植物. 新版千葉県の生物, 日本生物教育会第 50 回全国大会千葉大会記念誌 37-50
- 谷城勝弘 (1999) 千葉県新記録のスゲ属植物—アズマナルコ・アサマスゲ・ヌマアゼスゲ・コミヤマカンスゲ—. 千葉生物誌 49(1): 12-17
- 谷城勝弘 (2005) 利根川河川敷の植物—塩分濃度の異なる環境に維持される群落と河川敷の特性—. 千葉生物誌 55(1): 9-16
- 谷城勝弘 (2009) 多古光湿原の植物とその保護について. 千葉生物誌. 59(1): 17-24
- Yashiro K. (2010) *Carex x bosoensis* (Cyperaceae), a New Hybrid from Central Japan. J. Jap. Bot. 85(2): 74-78
- 谷城勝弘 (2010) 千葉県のヒルムシロ科 6 種について. 千葉生物誌. 59(2): 1-7
- 谷城勝弘 (2011) いすみ市中原堰の池底に現れる短期一年草群落. 千葉生物誌. 60(2): 28-32
- 谷城勝弘 (2012) 千葉県初記録のベンケイヤワラスゲ. 千葉生物誌. 62(1): 39
- Yashiro K. (2013) A New Hybrid of *Schoenoplectiella* (Cyperaceae) from Chiba Prefecture, Honshu, Central Japan. J. Jap. Bot. 88(2): 103—107
- 谷城勝弘 (2015) 表土の攪乱で再現した“茂原八積湿原”の断片. 千葉生物誌 64(2):52-53



X マルバオモダカ オモダカ科

2009	X
2017	X
2023	X

*Caldesia parnassifolia* (Bassi ex L.) Parl.

【種の特性】 浮葉～挺水性の多年生草本。葉は単葉で根生。虫媒で水散布。池沼に生える。ヨシ群綱。[Th]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。中国、インド、オーストラリア、マダガスカル。

【県内の状況】 茂原市～長生村周辺で採集された標本が多く残され、千葉市でも記録されているが、湿地の開発などにより近年は記録がない。東京大学には1880年に長生村で採集された標本が残っている。

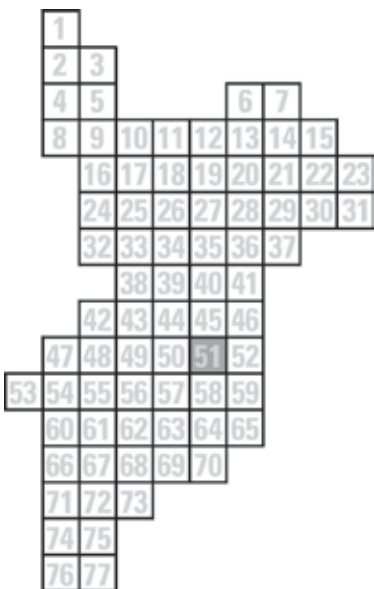
【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。特に水質の維持が大切である。

【文献】 新千植誌 1975：477 / 角野康郎 1994 日本水草図鑑：17 / 千植誌 2003 643,657

【写真】 (左) 2007.8.3 福島県 谷城勝弘 /

(右) 1968.8.23 愛知県 標本:CBM BS-74217

(谷城勝弘)



X ヒンジモ サトイモ科

2009	X
2017	X
2023	X

*Lemna trisulca* L.

【種の特性】 多年生草本。葉は退化し茎が葉状。水媒で水散布。貧養な静水の表面あるいは表面近くに浮遊する。ヒンジモ群団。[HH]

【分布】 北海道・本州・四国。母種のタイリクヒンジモはユーラシアの温帯に広く分布する。

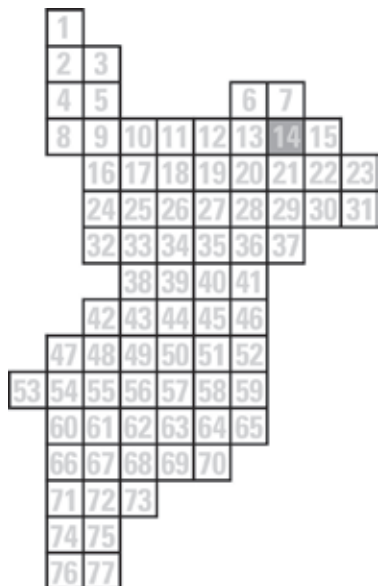
【県内の状況】 神崎町（1935年8月4日 CBM BS-6333）及び鴨川市（CBM BS-182470）の標本があるほか、新版千葉県植物誌では山武市などの記録があるが、近年は全く記録されていない。絶滅した可能性が高い。

【保護対策】 生息地が発見されたら、水質を良好に保つ。

【文献】 千植誌 2003：812,800

【写真】 2001 兵庫県産栽培 谷城勝弘

(大場達之/天野誠)



X ヒメシャガ アヤメ科

2009	X
2017	X
2023	X

*Iris gracilipes* A.Gray

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。5月頃に紫色の花を上向きに開く。虫媒で重力散布。主としてブナ帯の乾いた尾根筋のミズナラ林や半日陰の岩場などに生える。低地遺存ブナ帯要素。[H]

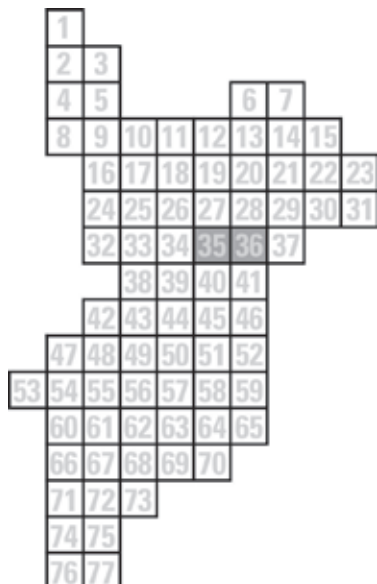
【分布】本州（近畿以東）・四国・九州。

【県内の状況】山武市から1929年と1944年に採集されている。市原市からも報告されているが自生かどうか疑わしい。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千葉県自然環境保全学術調査報告書 1981 / 千植誌 2003 : 703, 694

【写真】1975.5. 長野県大場達之  
(大場達之 / 天野誠)



X イヨトンボ ラン科

2009	X
2017	X
2023	X

*Habenaria iyoensis* Ohwi

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。湿った粘土質の崖の草地などに生える。[G~H]

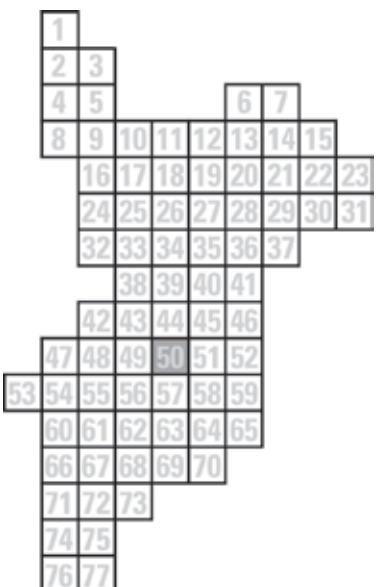
【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州。

【県内の状況】市原市及び館山市（いずれも榎本一郎 採集1961, TI）に産することが知られていたが現在は消息不明である。

【保護対策】どこでも稀な植物で生育地点も少ない。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】伊藤至 1962 千葉県植物誌・植物目録の追加. 千葉生物誌 11(3) : 38 / 千植誌 2003 : 912, 902

【写真】1961.8.20 市原市 東京大学総合研究博物館所蔵標本  
(大場達之 / 天野誠)



消息不明・絶滅 X

X ササバラン ラン科

2009	X
2017	X
2023	X

*Liparis odorata* (Willd.) Lindl.

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生し、2枚で、花時には立っている。花は7～8月に咲き、紫褐色。明るい草地に群れて生える。虫媒で風散布。[H]

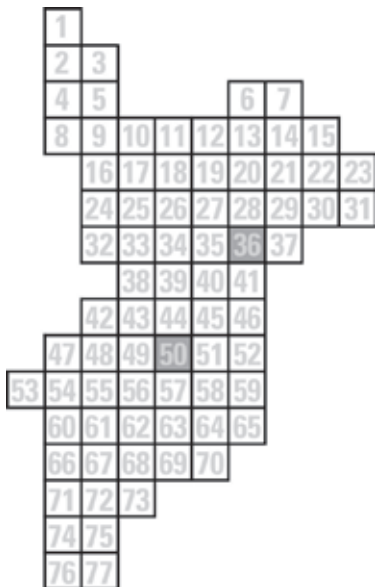
【分布】 本州（千葉県以南）・本州・四国・九州・琉球。台湾、中国南部。千葉県は北限と考えられる。

【県内の状況】 市原市の斜面に生えているのを報告し、その後千葉生物学会の採集会でも確認されている。また1967年に山武市で採集された標本が国立科学博物館に存在する。しかしその後報告がなく、絶滅した可能性が高い。

【保護対策】 かつての生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 角田実 1956 千生誌 6(4)：94-96 及び 11(3)：38 / 正宗巖敬・里見信生 1972 北陸の植物 20(2)：30. / 千植誌 2003：920,908

【写真】 1999.7.20 熊本県 永田芳男 (大場達之/天野誠)



X ヤマトキシソウ ラン科

2009	X
2017	X
2023	X

*Pogonia minor* (Makino) Makino

【種の特性】 小型の多年生草本。地下茎は白く細く地中を横走して分枝し、群れて生える。葉は単葉。花は6月に咲き淡紅色、やや上向きに咲く。虫媒で風散布。草原に生える。ススキ群網。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

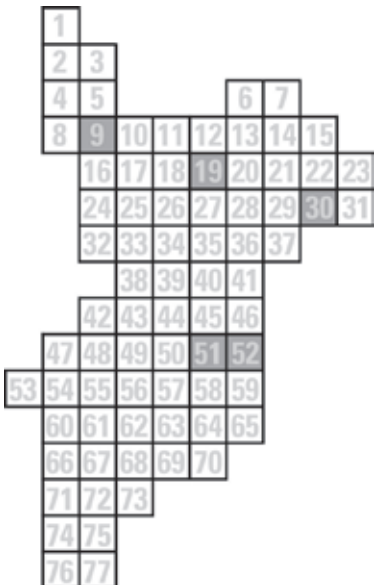
【県内の状況】 新版千葉県植物誌によれば柏市、野田市、成田市、旭市、東金市、茂原市などの記録があるが、詳細な地名は不明である。確かな記録は一宮町（1954）と成田市（1952）である。

【保護対策】 かつての生育環境あるいは類似環境を良好に維持する。

【文献】 新千植誌 1975：445 / 千植誌 2003：915,905

【写真】 1986. 東京都 大場達之

(大場達之/天野誠)



X ミノボロスゲ カヤツリグサ科

2009	
2017	X
2023	X

*Carex albata* Boott

【種の特性】 中型の多年生草本。茎は叢生し、雌雄性の小穂を数個付ける。風媒で、重力散布。花期は、5月から7月。湿地に生育する。[HH]

【分布】 北海道・本州・四国。中国

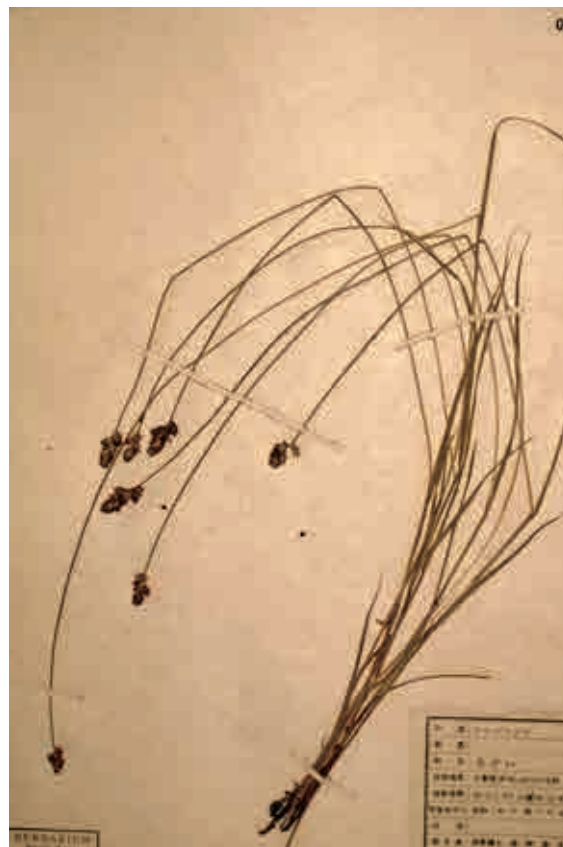
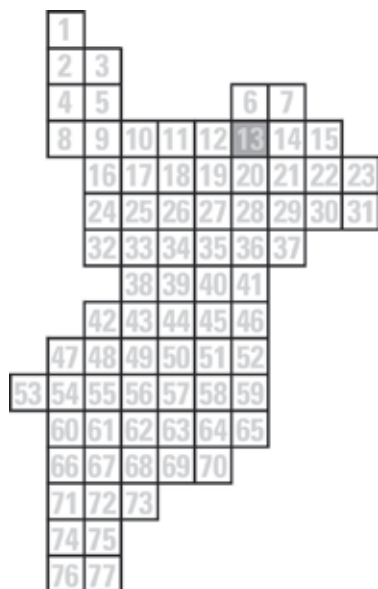
【県内の状況】 神崎町で1927年6月15日に採集された標本(CBM BS-26392)がある。

【保護対策】 生育地の湿地などを良好に維持することが望ましい。

【文献】 日本カヤツリグサ科植物図譜 (2011) 96-97

【写真】 1927.6.15 神崎町 標本: CBM BS-26392

(天野誠)



X ミタケスゲ カヤツリグサ科

2009	X
2017	X
2023	X

*Carex michauxiana* Boeck.

【種の特性】 多年生草本。根茎は短く、茎は叢生する。葉は少数で幅3~5mm。雌性の側小穂は卵球形で、放射状に開出した果胞をつける。果胞は長さ1~1.2cmで狭い披針形、嘴は長い。本来、亜高山帯の泥炭湿地に生える。

[HH]

【分布】 北海道・本州 (中~北部)。千島、カムチャツカ。

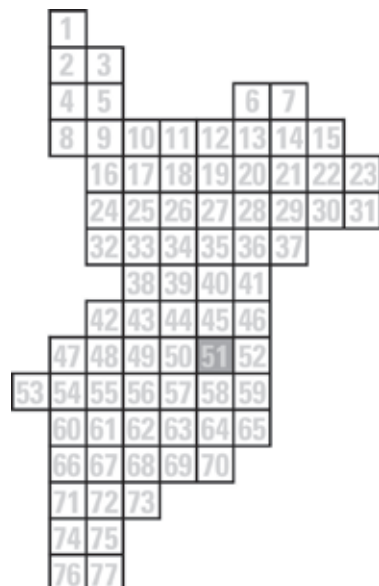
【県内の状況】 本県には記録がなかったが、県立中央博物館による長生高校旧蔵の植物標本群の調査により、長生村における採集標本の存在が確かめられた(天野・斎木: 2006)。長生村では本種の他にヤチカワズスゲなどの寒冷地を生育の本拠とするスゲ類も記録されている。これらはいずれも低地遺存高山要素の種類と判断されるが、近年の土地改変や気候の温暖化により衰退し消滅したとも考えられる。

【保護対策】 旧生育地には埋土種子が残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みることを望ましい。

【文献】 天野誠・斎木健一 2006 アマチュア研究家の採集標本に基づく過去の植物相の復元—長生高校旧蔵植物標本群の解析。千葉生物誌 56(2): 49-55

【写真】 1966.7.10 長生村 標本: CBM BS-226889

(谷城勝弘)



消息不明・絶滅 X

X ヤチカワズスゲ カヤツリグサ科

2009	X
2017	X
2023	X

*Carex omiana* Franch. & Sav.

**【種の特性】** 多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。匍枝はなく、3～5個の小穂をまばらにつける。果胞は開出し、はじめは緑色であるが、熟すと栗褐色になる。上方はしだいに長い嘴となる。湿地性。[HH]

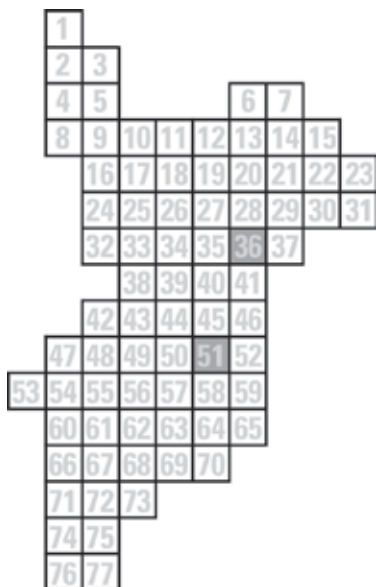
**【分布】** 北海道・本州・四国・九州、南千島。

**【県内の状況】** 千葉県植物誌（1958）に茂原市で採集した記録がある。埋め立てなどによって激減したが、茂原市の東部域には、現在でも湿地や湿地林が点在しており、ヤチカワズスゲの生育可能な環境は多少なりとも残っている。このような場所について精査が続けられているが、近年は発見されていない。

**【保護対策】** 旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みるのが望ましい。

**【文献】** 千植誌 1958：412 / 新千植誌 1975：457. / 千植誌 2003：829,804

**【写真】** 2000.6.10 群馬県 谷城勝弘 (谷城勝弘)



X ツクシオオガヤツリ カヤツリグサ科

2009	X
2017	X
2023	X

*Cyperus ohwii* Kük.

**【種の特性】** 多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。日本のカヤツリグサ属で最も大型。小穂はやや扁平、鱗片は鋭頭。果実は長円筒状で長さ0.8～1.0mm。ヨシ群網。湿地性。[HH]

**【分布】** 本州。日本では福岡県と茨城県に知られている。ただし茨城県の産地では消滅している。インドシナ半島、マレーシア。

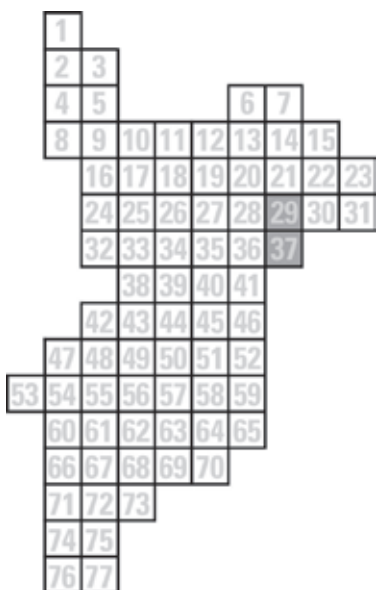
**【県内の状況】** 1991年に匝瑳市で確認された。九十九里海岸から300mほど内側の湿地で、秋の降雨時には30-40cmの冠水が見られた。0.2ha程度の場所にツクシオ

オガヤツリは30株前後が生育しており、高さ1m以上に成長した大型の株も見られた。その後、周囲からの造成が始まり、1995年には埋め立てられて消滅した。

**【保護対策】** 旧生育地とその周辺には埋土種子として残っている可能性があるため、旧生育地周辺の生育可能な環境を残し、一部に表土の攪乱を施すなど、湿所を造成し種の生育を促すことも考えられる。

**【文献】** 谷城勝弘 1992 調査会目録：167 / 千植誌 2003：897,890

**【写真】** 1989.9.10 匝瑳市 谷城勝弘 (谷城勝弘)



X ミスミイ カヤツリグサ科

2009	
2017	X
2023	X

*Eleocharis acutangula* (Roxb.) Schult.

【種の特性】 中型の多年生草本。茎は叢生し、先端に1つの穂を付ける。匍匐根茎は長い。風媒で、重力散布。花期は、7月～10月。湿地に群生する。[HH]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。中国、インド、東南アジア、オーストラリア、アフリカ、熱帯アメリカ。

【県内の状況】 長生村で1934年9月27日 (CBM BS-1399)、1935年9月29日 (CBM BS-1955)、1935年9月29日 (CBM BS-163365) で、採集された標本がある。

【保護対策】 生育地の湿地などを良好に維持することが望ましい。

【文献】 日本カヤツリグサ科植物図譜 (2011) 620-621

【写真】 1935.9.29 長生村 標本: CBM BS-1955

(天野誠)



X イッスンテンツキ カヤツリグサ科

2009	A
2017	X
2023	X

*Fimbristylis kadzusana* Ohwi

【種の特性】 一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。高さ5～15cm、花序は1～3個の小穂をつけ、果実は黒褐色。柱頭は2個。奥山春季が茂原市～長生村八積間で発見した種。湿地性 (海岸性)。ミミカキグサーイヌノハナヒゲ群目。[Th]

【分布】 本州。千葉、東海地方の海岸近くに稀。

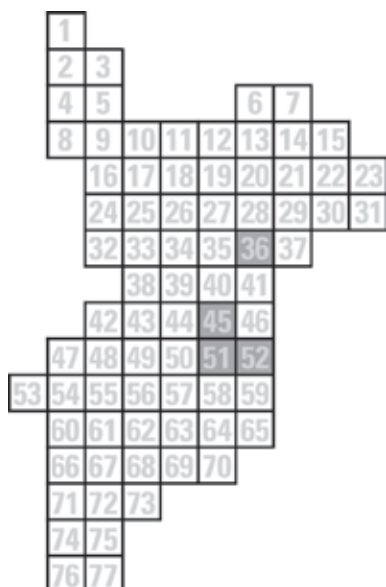
【県内の状況】 九十九里平野南部の茂原市、長生村、一宮町の湿地に生育していた。1956年以降については確認情報もあるが、証拠標本がない。

【保護対策】 旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みることを望ましい。

【文献】 御園勇 1939 千葉県産テンツキ属について、22頁 / 奥山春季 1947 植物採集覚書。植物研究雑誌 21(7-12) : 54 / 千植誌 1958 : 416 / 新千植誌 1975 : 461 / 千植誌 2003 : 862 / 千植写真 2005 : 361

【写真】 1934.9.23 長生村 標本: CBM BS-89466

(谷城勝弘)



X ヤリテンツキ カヤツリグサ科

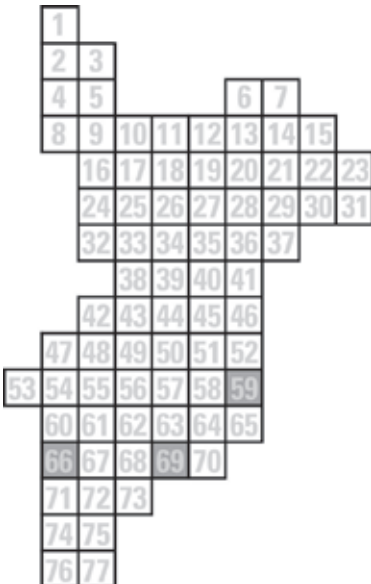
2009	X
2017	X
2023	X

*Fimbristylis ovata* (Burm.f.) J.Kern

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。小穂は普通1個で、鱗片は2列につく。近海地に産する。ワダン-イソギク群綱。[H]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、マリアナ群島。

【県内の状況】1904年に南房総市で採集されたのが千葉県の最初の記録である(MAK-228579)。次いで、いすみ市で採集されている。いずれの産地もその後再確認されておらず、現状は不明である。今後既知産地の海岸近くの原野や草地を詳細に調査することで再発見されるかもしれない。



【保護対策】海岸環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】牧野富太郎 1905 やりてんつき 最北ノ産地. 植物学雑誌 19: 244 / 堀内洋 1996 千葉県に未記録のヤリテンツキの標本を確認する. 千植誌資料 7: 41 / 堀内洋 1996 千葉県に未記録のヤリテンツキの標本を確認する-訂正- 千植誌資料 9: 56 / 千植誌 2003: 861,851,862

【写真】1999.9.24 神奈川県 谷城勝弘 (谷城勝弘)



X シオカゼテンツキ カヤツリグサ科

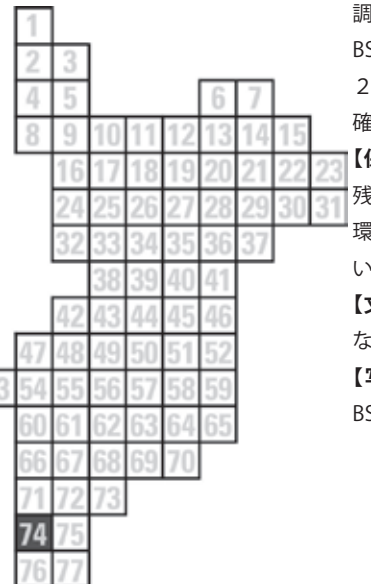
2009	X
2017	X
2023	X

*Fimbristylis spathacea* Roth

【種の特性】多年生草本。根茎は太く、枯死した葉を密生する。葉は硬く扁平。苞葉は1~3個で花序よりも著しく短い。小穂は少数ずつ集まり多数つく。果実は広倒卵形で暗褐色。海岸に生える。クジュウクリテンツキに比べて小穂は多数つき、茎は叢生して株をつくり基部は厚く硬い。

【分布】本州（関東地方以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】本県にはこれまで記録がなかったが、千葉県立中央博物館の標本を調査した結果、館山市（1948.11.20 CBM BS-67577、1953.12.18 CBM BS-179168）の2点の標本が確認された。以降、現地での確認記録はない。



【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みることを望ましい。

【文献】県内での生育状況を記した文献はない

【写真】1953.12.18 館山市 標本: CBM BS-179168

(大場達之/谷城勝弘 追補)



**X クジュウクリテンツキ カヤツリグサ科** 2009 X  
2017 X  
2023 X

*Fimbristylis spathacea* Roth var. *depauperata* T.Koyama

**【種の特性】** 小型の一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。本州西南部から熱帯にかけて散布するシオカゼテンツキの地方型。母種よりも小型で繊細。海岸性。[Th]

**【分布】** 本州（上総、遠江）の海岸。一宮海岸を基準産地とする日本固有変種。

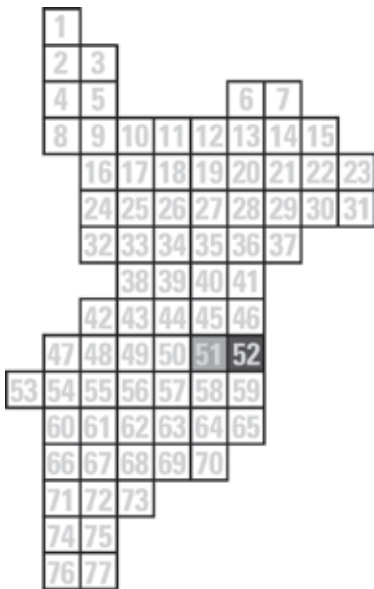
**【県内の状況】** 一宮町で採集した標本（TNS-11120）に基づいて 1955 年に記載された。長生村の海岸に生じ、古くは「千葉県産テンツキ属について」（1939）に記録がある。この中でシオカゼテンツキ *F. cymosa* var. *spathacea* として図示されているものは、小穂の数は少なく全体に繊細であり、植物体各部の計測結果等の記述をみると本変種と判断される。千葉県立中央博物館に長生村（1937 CBM BS-160835）、長生村（1954.9.11 CBM BS-169479）の標本がある。1950 年代以降の記録はない。

**【保護対策】** 旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みる事が望ましい。

**【文献】** 牧野富太郎 1911 しほかせてんつきヲ上総一ノ宮海浜ニ得。植物学雑誌 25 : 229 / 御園勇 1939 千葉県産テンツキ属について . 22 頁 / 奥山春季 1947 植物採集覚書。植物研究雑誌 21(7-12) : 55 / 小山鉄夫 1955 九十九里テンツキ。植物研究雑誌 30:129 / 小山鉄夫 1958 カヤツリグサ科について。千植誌 : 172-194 / 千植誌 1958 : 416 / 新千植誌 1975 : 461 / 千植誌 2003 : 863,870 / 千植写真集 2005 : 345

**【写真】** 1954.9.11 長生村 標本 : CBM BS-169497

(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



**X イガクサ カヤツリグサ科** 2009 X  
2017 X  
2023 X

*Rhynchospora rubra* Makino

**【種の特性】** 多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。花序は茎頂に密生する頭状花序。刺針は上向き粗造。湿地性。ミミカキグサーイヌノハナヒゲ群目。湿地性。[H]

**【分布】** 本州（千葉県以西）・本州・四国・九州・琉球。台湾、インドシナ半島、マレーシア、オーストラリア。

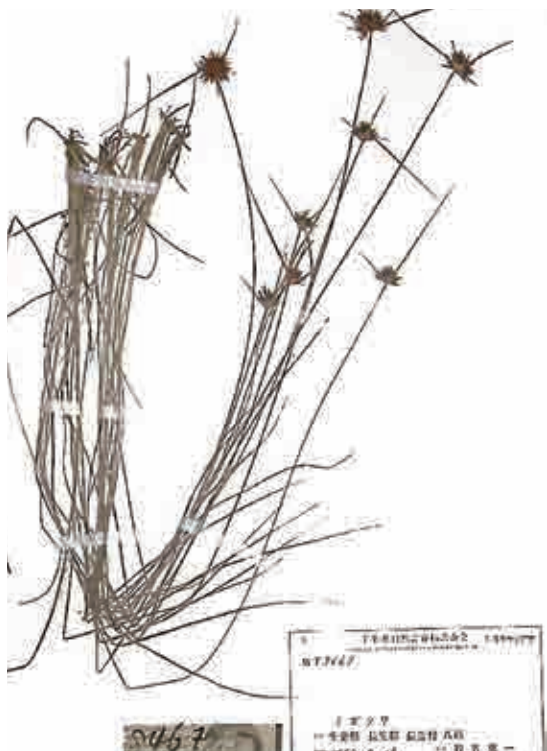
**【県内の状況】** 茂原市（1952.8.23 CBM BS-85026）、長生村（1957.9.29 CBM BS-8667）での発見があるが、その後は生育が確認されていない。この地域にはかつて広大な湿地帯が存在していたが、現在は人口の集中で宅地の造成などによる土地の改変が顕著に進んでおり、本種をはじめとする湿地性種の生育環境は激減した。1980 年代からの詳細な調査においても発見されていない。

**【保護対策】** 旧生育地には埋土種子として残っている可能性が高いため、生育の可能性が高い湿地を保全し、場所によっては表土の攪乱などを施して植生発掘を試みることも考えられる。

**【文献】** 千植誌 1958 : 417 / 新千植誌 1975 : 462. / 千植誌 2003 : 857,850

**【写真】** 1957.9.29 長生村 標本 : CBM BS-8467

(谷城勝弘)



X ケシンジユガヤ カヤツリグサ科

2009	X
2017	X
2023	X

*Scleria rugosa* R.Br.

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。全体が小さく、白色開出毛がある。ミミカキグサイヌノハナヒゲ群目。[H] 湿地性。

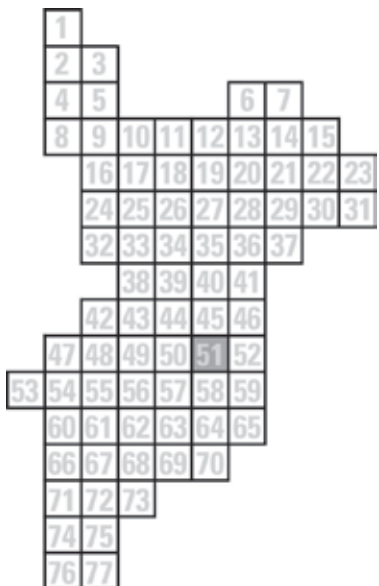
【分布】 本州（千葉県以西）・本州・四国・九州・琉球。湿地にやや稀に生える。

【県内の分布】 千葉県植物誌（1958）に茂原市での産地が記録されている。1980年代以降、茂原市～長生村での継続的な調査においても、本種の生育は確認されていない。この地域では近年宅地開発などによる改変が著しく進んでおり、旧生育地は失われたものと思われる。

【保護対策】 旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みることを望ましい。

【文献】 千植誌 195：418 / 新千植誌 1975：463. / 千植誌 2003：849,857

【写真】 2001.8.10 愛知県 谷城勝弘 (谷城勝弘)



X マネキシンジユガヤ カヤツリグサ科

2009	C
2017	X
2023	X

*Scleria rugosa* R.Br. f. *glabrescens* T.Koyama

【種の特性】 多年性草本。湿地性。葉は単葉で互生。全体が小さく無毛、風媒で、水散布。[H]

【分布】 本州（千葉以西）・四国・九州。朝鮮。

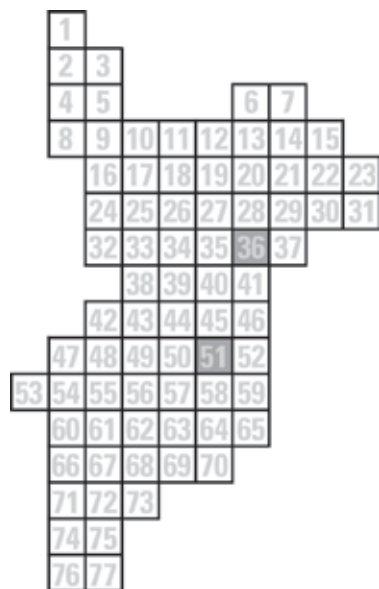
【県内の状況】 茂原市と成東・東金食虫植物群落に記録がある。

【保護対策】 近年は確認されないが、かつて記録された生育地とその周辺域に埋土種子が残っている可能性があるため、本種の生育可能なので湿地環境を良好に維持し、復元を試みる事が望ましい。

【文献】 千植誌 2003：857

【写真】 1958.9.23 愛知県 標本：CBM BS-222840

(谷城勝弘)



**X ヤマトホシクサ ホシクサ科** 2009 X  
2017 X  
2023 X

*Eriocaulon japonicum* Körn.

**【種の特性】**一年生草本。葉は単葉で束生。虫媒で水散布。頭花は帯黒色。総苞片は被針形、頭花より長い同長。葉の下部幅2～3mm。頭花は多花。花床、花弁及び萼は無毛。種子にかぎ毛がない。湿地性（沼畔）。ミミカキグサーイヌノハナヒゲ群目。[Th]

**【分布】**本州（上総、近江）。

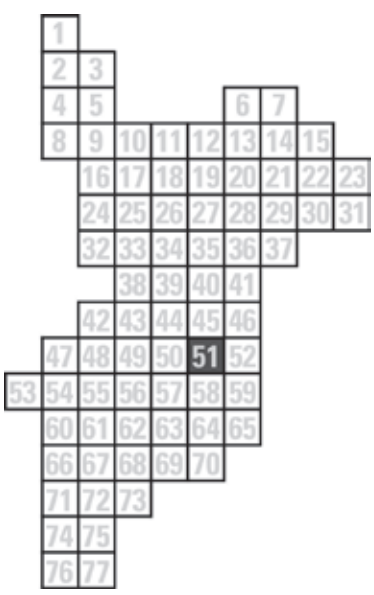
**【県内の状況】**1939年に茂原市、長生村での採集記録が記されている。今日、茂原市～長生村では宅地、工場用地の造成などによる土地の改変が著しく、本種の生育可能な環境が急速に失われつつある。この地域での継続的な調査においても再発見されていない。

**【保護対策】**旧生育地には埋土種子として残っている可能性があり、また未調査地に生育している可能性も考えられるので生育可能な環境を保全することが望ましい。

**【文献】**佐竹義輔 1939 植物研究雑誌 15：628 / 奥山春季 1947 植物採集覚書。植物研究雑誌 21(7-12)：54 / 千植誌 1958：407 / 新千植誌 1975：453 / 千植誌 2003 711,700

**【写真】**1960.10.16 茂原市 国立科学博物館所蔵標本

(谷城勝弘)



**X ヒナザサ イネ科** 2009 X  
2017 X  
2023 X

*Coelachne japonica* Hack.

**【種の特性】**小型の一年生草本。稈は地上をはい節から発根し、葉は単葉で互生。風媒で水散布。花期は8～10月。向陽の湿地に生育し、西日本では干上がった溜池の底に生える。

**【分布】**本州・四国・九州。日本特産。向陽の湿地に生育するが全国的にもまれ。

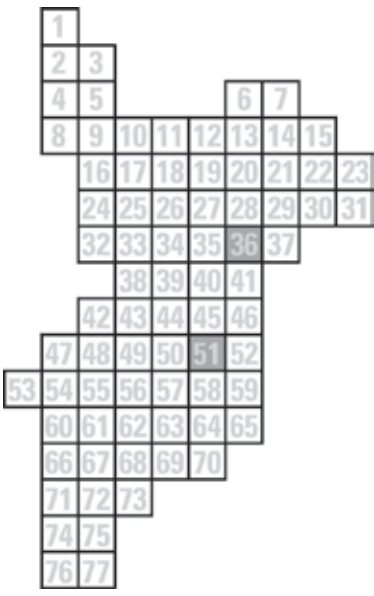
**【県内の状況】**成東・東金食虫植物群落保護地での1927年10月5日（CBM BS-26433）の標本があるが、同地での近年の確認はされていない。ほかに千植誌（1958）に記載されている茂原市～長生村にかけての湿地の記録を最後に近年の分布確認はされていない。小型で目立たなく、またハイチゴザサと間違えられている可能性もある。絶滅が懸念される。

**【保護対策】**生育地の酸性貧栄養湿地・池の環境を良好に維持することが望ましい。

**【文献】**千植誌 1958 / 新千植誌 1975：466

**【写真】**1927.10.5 山武市 標本：CBM-BS-26433

(木村陽子)



X コゴメカゼクサ イネ科

2009	A
2017	X
2023	X

*Eragrostis japonica* (Thunb.) Trin.

【種の特性】水田や低地の湿地に生える1年草。稈高は50～120cmで、束生する。花序は細長い円筒形で、下部は輪生状になる。小穂は3～7小花からなり、護穎は長さ0.7mm、紅紫色をおびる。花期は8～10月。[Th]

【分布】本州（主として中部以南）・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、東南アジア、オーストラリア、インド、アフリカ。西日本では、比較的に見られるが、神奈川県・埼玉県ではまれに分布し、県内でもごく稀で千葉県は分布の端にあたるのだろう。

【県内の状況】松戸市千葉大園芸学部付近に1928～1931年頃の記録がある。その後、

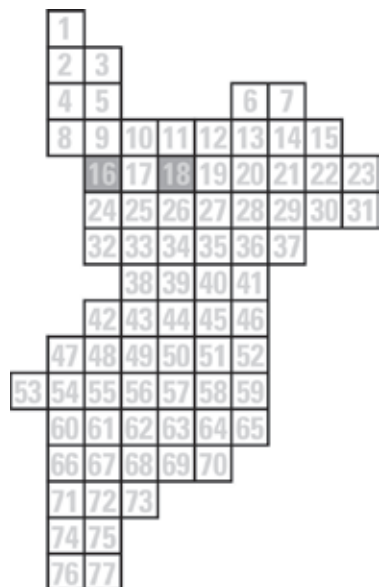
印西市（1969.09.21 CBM BS-135747）の標本があるが、それ以降の情報がない。

【保護対策】低地の湿地、水田近くに生育するので、立地の確保が望まれる。

【文献】本田正次 1933 松戸附近植物目録 千葉高等園藝学校学術報告第2号：61-92 / 新千植誌 1975 466 / 千植誌 2003：737,745

【写真】1969.9.21 印西市 標本：CBM BS-135747

（木村陽子）



X ヒメキンポウゲ キンポウゲ科

2009	A
2017	X
2023	X

*Halerpestes kawakamii* (Makino) Tamura

【種の特性】多年生草本。虫媒で水散布。高さ3～10cm。葉は単葉で互生、卵円形で先端に3個の切れ込みがある。地表に細長い匍枝を延ばして広がる。花は黄色で8月に咲き、果実は9～10月に熟す。海岸の潟湖の汽水域の湿った砂～砂泥地に生え、シバナ群落などの多年生草本群落の前縁、または多年生草本群落の間の裸地に生える。マリテマイ群綱。[H]

【分布】本州（千葉県から青森県にかけての海岸）。本州の固有種。

【県内の状況】一宮町から匝瑳市にかけての九十九里沿岸、一宮川、栗山川などの河口に分布。一宮川河口に産することは古くから知られ、新版千葉県植物誌には匝瑳市、山武市、九十九里町、大網白里市、長生村、一宮町などの産地が挙げられており、かつては九十九里全域に広く分布していたことが知れる。千葉県立中央博物館には1947年、1956年、1957年、1958年に採集された標本がある。最新の記録としては1968年6月30

日に吉川代之助により九十九里（地名は不明）で採集された標本がある。1996年9月の長生村における綿密な調査においても発見されず、また1996年9月～11月にかけての九十九里沿岸のフロラ調査においても、どこからも発見されなかった。河口の改修などによって環境が変化し、県内では絶滅したものと考えられる。潟湖の汽水域における潮間帯上部の限られた生育環境が、護岸などによって失われたことが直接の原因である。生育に好適な環境は潮間帯最上部の傾斜がごく緩やかで、しかも貧栄養で、砂と泥の混合比が適当であることを要し、そのような環境は面積的に限られている。日本のほかの産地でも減少が著しい。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、再生を促すことも考えられる。

【文献】新千植誌 1975：424. / 千植誌 2003：197,205

【写真】2004.6 宮城県 谷城勝弘  
（大場達之／谷城勝弘 追補）



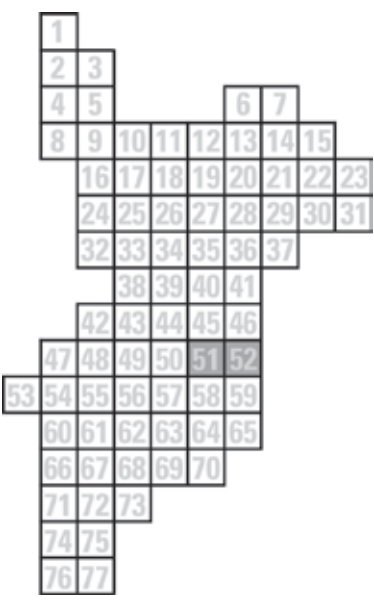
**X ヒメバイカモ キンポウゲ科** 2009 X  
2017 X  
2023 X

*Ranunculus kazusensis* Makino

**【種の特性】** 沈水性の二年生草本、環境によっては一年生、冬から春にかけて茂り夏には枯れるが、熊本市水前寺公園のように冷涼な湧水に涵養されるところでは夏にも存続し多年生となる。葉は3出複葉で互生。通常沈水葉だけをつけるが、キクモのように陸生形となることもある。虫媒で水散布。バイカモに似るが全体小型で特に花柄が1-3cmと短かく、花托に毛がある。水田および周囲の水路、池・沼に生える。熊本市では阿蘇からの湧水地に見られる。バイカモ群団。[HH]

**【分布】** 本州（宮城、千葉、埼玉、山口）・九州。朝鮮。一宮町の水田で採集した標本に基づき記載された種類で、千葉県は基準産地となる。

**【県内の状況】** 九十九里沿岸にのみ知られ、山武市、茂原市～長生村、一宮町などの記録があり、最も新しい標本は一宮町（1935 原寛 T1）と同町（1935 富樫誠 T1）である。



**【保護対策】** 現在消息不明であるが、分布域の精査により再発見の可能性がある。もし残存個体があれば、生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** Makino, T. 1929 J. Jpn. Bot. 4 : 8 / 牧野富太郎 1950 図説普通植物検索表. 11 図版 / Wiegleb, G. 1988 Notes on Japanese *Ranunculus* subgenus *Batrachium*. Act. Phytotax. Geobot. 39 : 117-132 / 角野康郎 (1994) 日本水草図鑑 : 105 / 千植誌 2003 : 198, 206

**【写真】** 2004.5.11 仙台市 谷城勝弘 (大場達之 / 谷城勝弘 追補)



**X バイカモ キンポウゲ科** 2009 X  
2017 X  
2023 X

*Ranunculus nipponicus* (Makino) Nakai var. *submersus* H.Hara

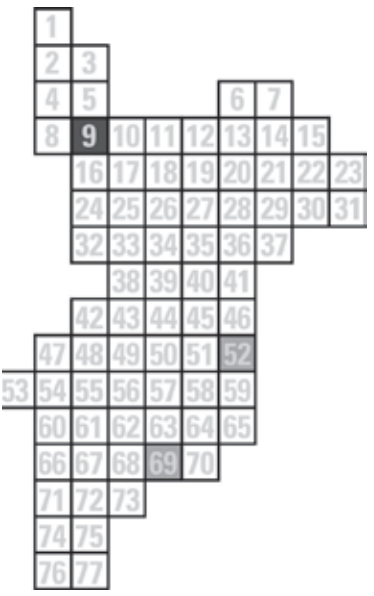
**【種の特性】** 多年生草本。葉は複3出複葉で互生。沈水葉は細かく裂ける。虫媒で水散布。水面に5弁の白い花を咲かせる。花弁基部は黄色である。清らかな流水に生える。バイカモ群団。[HH]

**【分布】** 北海道・本州。

**【県内の状況】** 柏市、鴨川市の記録があるが、近年は観察されていない。絶滅したものと考えられる。

**【保護対策】** 分布域の精査により再発見の可能性がある。

**【文献】** Wiegleb, G. 1988 Notes on Japanese *Ranunculus* subgenus *Batrachium*. Act. Phytotax. Geobot. 39 : 117-132 / 角野康郎 1994 日本水草図鑑 104



**【写真】** 1990. 富山県 大場達之 (大場達之 / 天野誠)



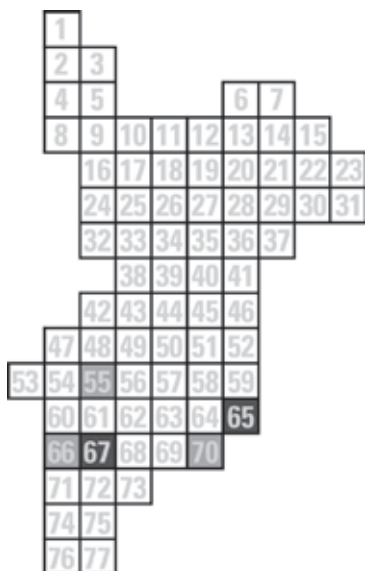
X イワレンゲ ベンケイソウ科

2009	X
2017	X
2023	X

*Orostachys malacophylla* (Pall.) Fisch. var. *iwarenge* (Makino) H.Ohba

**【種の特性】** 通常、直径7cm程度のロゼットを形成する常緑の一回稔性多年生草本。開花前に栄養繁殖する。開花株の高さは10～30cm。海岸の岩場などに生える。かつては茅葺き屋根などにも生えていた。太い主根から細い根を出す。葉は倒卵形で、鋭頭、らせん葉序。葉は全縁で、無毛、多肉。花は秋に咲く。花は密な総状花序につく。花柄は約10mm。花は5数性で、萼片は狭卵形で、鋭頭。花弁は、倒披針形。白色で、長さ約5mm。雄しべの数は10本、葯の色は黄色。離生心皮は5つ。果実は蒴果で、熟すと上部から裂ける。虫媒で、風散布。エゾオオバコーウシノケガサ群綱。[H]

**【分布】** 本州。



**【県内の状況】** 富津市、君津市、山武市、鋸南町、いすみ市などで記録されているが、近年は報告がない。かつては茅葺きなどの屋根に生えていたが近年は見られない。絶滅が心配される。

**【保護対策】** 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

**【文献】** 亘理俊次 1982 日本の野生植物草本Ⅱ：PL.141. / 亘理俊次 1992 芝棟 屋根の花園を訪ねて：97. / 千植誌 1958 372 / 新千植誌 1975 415 / 千植誌 2003 244,250

**【写真】** 1934 山武市 栽培

(大場達之/天野誠 追補)



X タチモ アリノトウグサ科

2009	X
2017	X
2023	X

*Myriophyllum ussuriense* (Regel) Maxim.

**【種の特性】** 水中または湿地に生える多年生草本。茎は分岐せず、葉は節に3～4個輪生する。雌雄異株。雄花も雌花も葉腋に小さな花を1個つける。水中に生えるものは長さ50cm前後に成長するが、湿地に生えるものは10cm程度にしかならない。

**【分布】** 北海道・本州・四国・九州。中国、ロシア東部、北米北部。

**【県内の状況】** 山武市成東・東金食虫植物保護地 (1928.06.28 CBM BS-25218)、長生村 (1934.07 CBM BS-178610 ; 1935.09.29 CBM BS-5534 ; 1937.07 CBM BS-233994)、

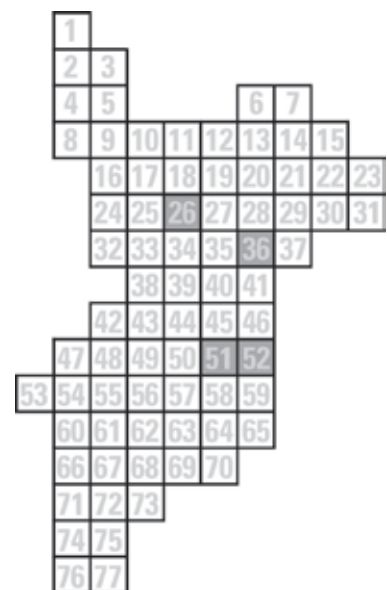
印旛郡印旛沼 (1940.07.21 CBM BS-166047) の標本が千葉県立中央博物館にある。その後は発見されていない。本種は貧栄養の池沼やその岸边を生育の適地とするが、県内の各池沼では富栄養化が著しく進行しており、消滅したと考えられる。

**【保護対策】** 富栄養化の進行を抑え、植物の多様性に富む水域を復活させることが望ましい。

**【文献】** 植物誌 2003 : 405,400

**【写真】** 1940.7.21 印旛沼 標本：CBM BS-166047

(谷城勝弘)

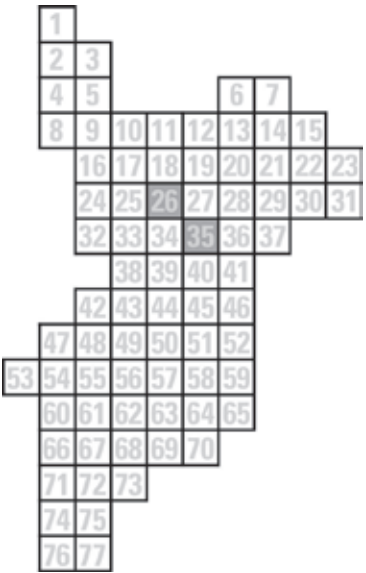


**X ヤマシャクヤク ボタン科** 2009 X  
2017 X  
2023 X

*Paeonia japonica* (Makino) Miyabe & Takeda

**【種の特性】** やや大形の多年生草本。茎は高さ 30～40cm。葉は 3 出複葉で互生。花は白色で大きく 5 月に上向きに咲く。虫媒で重力散布。肥沃で適湿な夏緑林の林床に生える。低地遺存ブナ帯要素。[G]  
**【分布】** 本州（関東・中部以西）・四国・九州。朝鮮。  
**【県内の状況】** 佐倉市と山武市に記録があるが標本は見えていない。  
**【保護対策】** 花が美しいので観賞用に採取される可能性が高く、採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

**【文献】** 新千植誌 1975：423  
**【写真】** 1985 神奈川県 大場達之 (大場達之／天野誠)



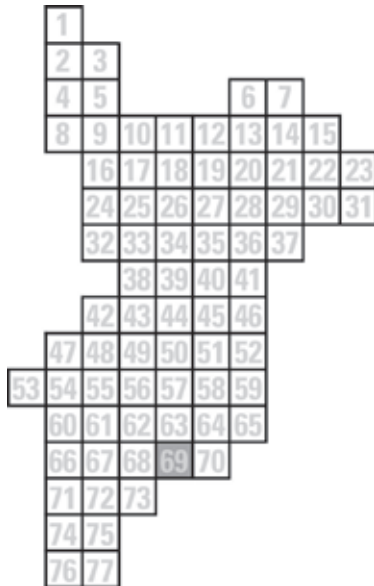
**X コチャルメルソウ ユキノシタ科** 2009 X  
2017 X  
2023 X

*Mitella pauciflora* Rosend.

**【種の特性】** 小型の夏緑の多年生草本。沢沿いの湿った林に見られ、ブナ帯に主として分布する。根茎が発達し、数本の花茎を立てる。葉はほぼ根出葉、長柄がある。卵形で、荒く不規則に切れ込む。両面に剛毛が生える。花序は総状で、頂生する。花は 5 数性。萼片は卵形で、反り返る。花弁は魚骨状で、長さ 2～3 mm、緑色。雄しべは花糸が短く、葯が黄色で目立つ。雌しべは 2 心皮で、離生。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で、水散布。低地遺存ブナ帯要素。[H]

**【分布】** 本州・四国・九州。  
**【県内の状況】** 新千植誌では東大所蔵の清澄山の記録があるが、東大では標本が確認できなかった。  
**【保護対策】** 生育環境を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 千植誌 1958：372 / 千植誌 2003：256, 263  
**【写真】** 1986.4 広島県 大場達之 (大場達之／天野誠 追補)



X エゾノタチツボスミレ スミレ科

2009	X
2017	X
2023	X

*Viola acuminata* Ledeb.

**【種の特性】** 多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で虫散布。日本産のスミレとしては大形で果実期には高さ 40cm に達する。明るい夏緑林から草原に生える。低地遺存ブナ帯要素。[H]

**【分布】** 北海道・本州（中部以北）。朝鮮、中国、ロシア極東部、東シベリア。

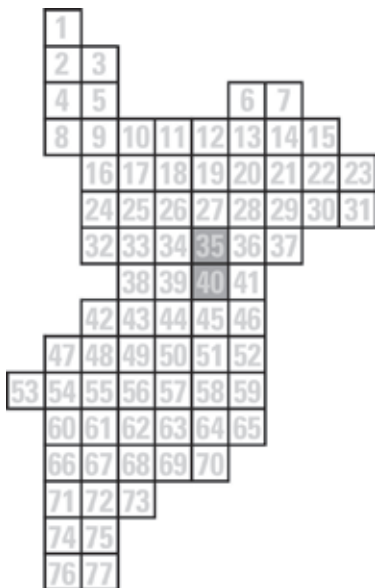
**【県内の状況】** 古くは山武市（1933）と千葉市（1951）からの記録があり、標本は千葉県立中央博物館に収蔵されている。その後いすみ市などからの報告があるがタチツボスミレの誤認と考えられる。

**【保護対策】** 生育環境を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 新千植誌 1975：395 / 千植誌 2003：377, 383

**【写真】** 1975.5. 長野県 大場達之

(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



X オオメヤブマオ イラクサ科

2009	
2017	X
2023	X

*Boehmeria maximowiczii* Nakai & Satake

**【種の特性】** 大型の多年性草本。葉は浅く3裂する。風媒で、重力散布。花期は、8月～10月。林縁に生育する。[H]

**【分布】** 本州・四国・九州

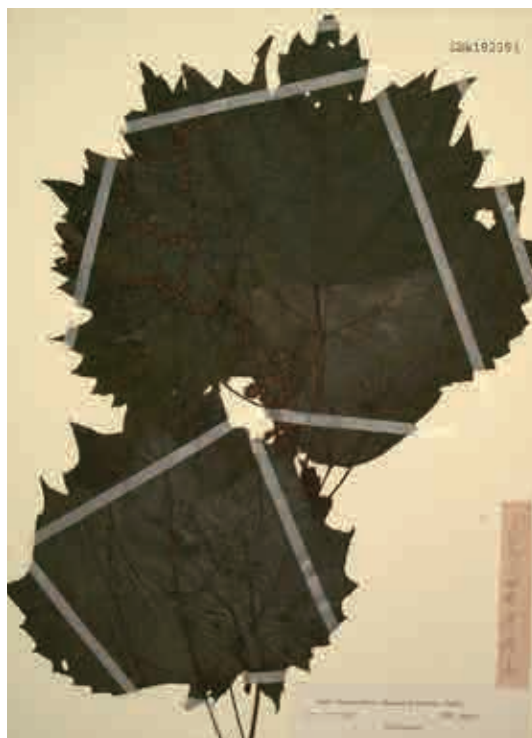
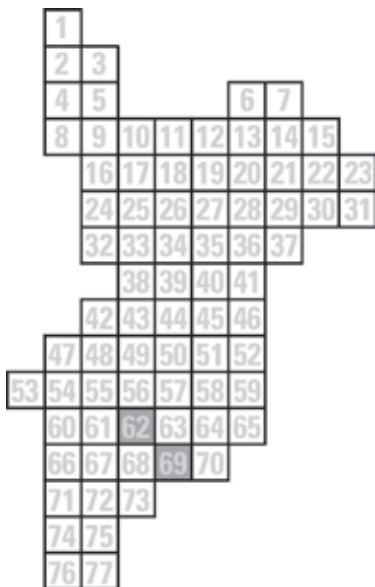
**【県内の状況】** 君津市で 1933 年 7 月 8 日に採集された標本（CBM BS-485）と鴨川市で 1936 年 7 月 19 日（CBM BS-212581）および 1947 年 8 月 23 日（CBM BS-182351）の標本があるが、いずれでも近年の確認はされていない。

**【保護対策】** 生育地の林縁を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 千植誌 2003: 130

**【写真】** 1947.8.23 鴨川市 標本: CBM BS-182351

(天野誠)



**X ミズスギナ ミソハギ科** 2009 X  
2017 X  
2023 X

*Rotala hippuris* Makino

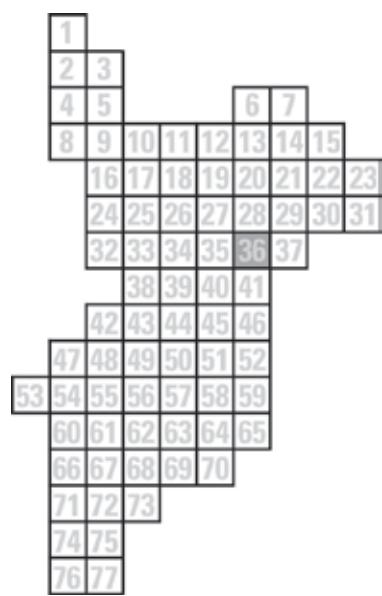
**【種の特性】** 沈水性の多年生草本。葉は単葉で輪生、細かく裂ける。虫媒で水散布。花は水中で咲くので水媒性と考えられる。日本固有種と考えられているが、中国からインドにかけて近似の種類があり、今後比較検討が必要である。池・沼に生える。ヒルムシロ群網。[HH]

**【分布】** 本州（関東以西～近畿）・九州。

**【県内の状況】** 1928年に山武市と神崎町で採集されているが、その後の記録は見られず、絶滅したものと考えられる。

**【保護対策】** 旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるの  
で、生育可能な環境を保全し、回復を試みる事が望ましい。

**【文献】** 與世里盛春 1932 千葉県植物 22 図版/千植誌 2003 :



392, 388  
**【写真】** 1928. 6.16 山武市標本 : CBM BS-25269  
 (大場達之/天野誠)



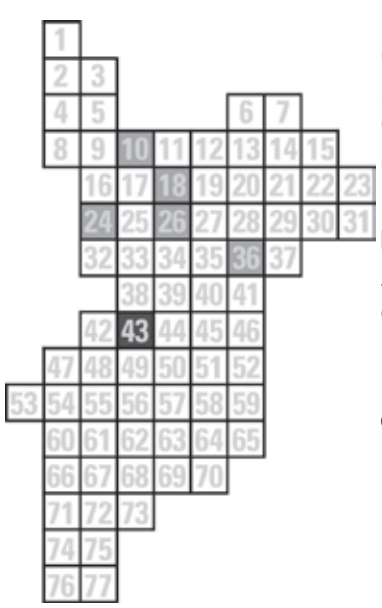
**X ミズタガラシ アブラナ科** 2009 X  
2017 X  
2023 X

*Cardamine lyrata* Bunge

**【種の特性】** 中形の多年生草本。機器は高さ 30～60cm で、花のあと倒伏する、花の時期に、茎の基部から長い匍匐枝を出す。花は 4～5月で白色。花弁は萼片の 2～3 倍の長さがある。虫媒で自散。(H)。水田や湿地に生える。

**【分布】** 本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮・中国・モンゴル・東シベリア・極東ロシア。

**【県内の状況】** 市川市、印旛沼周辺などに知られていたが 1940 年以降記録がない。船橋市の記録もあるが標本がなく確認できない。



**【保護対策】** 絶滅の原因が明らかでないので、残存する他県での生育状態を調べて情報を収集する必要がある。富山県などでは水田に一面に生えているところがあるという。

**【文献】** 寺崎留吉 1933 寺崎日本植物図譜 218 / 千植誌 2003 : 247, 243 / 平凡社版日本の野生植物 II.PL.127 の写真はタネツケバナの誤りと考えられる

**【写真】** 1940.7.21 印旛沼 標本 : CBMBS-166048  
 (大場達之/天野誠)



X ハナハタザオ アブラナ科

2009	X
2017	X
2023	X

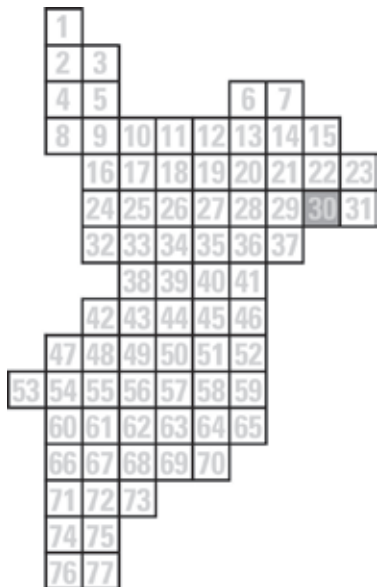
*Dontostemon dentatus* (Bunge) Ledeb.

**【種の特性】** 二年生草本。茎は直立し高さ 15～60cm。葉は単葉で互生。花は6～7月に咲き紅紫色。虫媒で風散布。乾いた岩棚、崩壊地の周辺、砂地、礫地などのオープンな環境に生える。[Th]

**【分布】** 本州（東北、関東、中部）。中国、サハリン、ロシア極東部。

**【県内の状況】** 旭市と東金市で採集された標本があるが、近年の記録はない。限られた環境に少数の個体が生えるだけなので絶滅したものと考えられる。

**【保護対策】** かつての生育地の環境を明らかにする必要がある。



**【文献】** 新千植誌 1975 : 418 / 千植誌 2003 : 250, 243

**【写真】** 2001 茨城県 大場達之 (大場達之/天野誠)



X ムジナモ モウセンゴケ科

2009	X
2017	X
2023	X

*Aldrovanda vesiculosa* L.

**【種の特性】** 食虫浮遊性の多年生草本。葉は単葉で輪生。花は7～8月に開き、5弁で白緑色。虫媒で水散布。貧栄養の酸性の水域に浮かぶ。ウキクサ群綱。[HH]

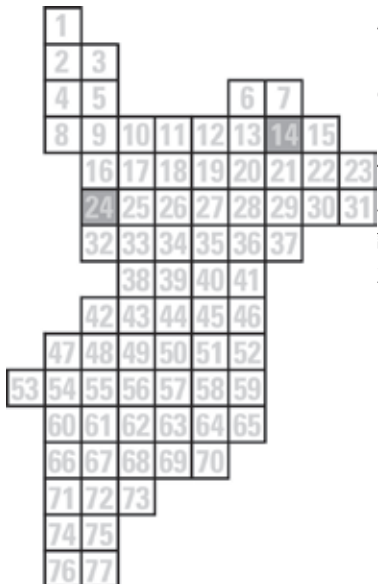
**【分布】** 利根川水域、淀川水域、信濃川水域。アムール、インド、ヨーロッパ。日本の自生地ではすべて絶滅し栽培品が残るだけで、埼玉県羽生市で放流が試みられているが成功していない。

**【県内の状況】** 古くは 1890 年に市川市で採集された標本がある（国立科学博物館 -6293）。また香取市、山武市の報告があるがいずれも絶滅。山武市のもは移植によるものであった可能性が高い。香取市の産地（埋め立てられて現存しない）は、利根川対岸の霞ヶ浦地域には数ヶ所の自生地が知られていたため、それらと一連の分布であったと考えられる。千葉県産のものすべて原産地において絶滅し、栽培個体も残っていない。

**【保護対策】** もし県内産の系統が発見されたら水生植物園のような施設で種の存続をはかることが望ましい。

**【文献】** 佐原町誌 1931 91. 佐原町/腰野文男 1959 佐原市の食虫植物. 佐原総説一シリーズ第2輯. 34頁. 佐原市/小宮定志 1988 ムジナモの分布の変遷と現況、保護方策. 水草研究会会報 33・34 : 25-26 / 千植誌 2003 : 219, 223

**【写真】** 2004.8.11 埼玉県栽培 大場達之 (大場達之/天野誠)





X チョウジソウ キョウチクトウ科

2009	X
2017	X
2023	X

*Amsonia elliptica* (Thunb.) Roem. & Schult.

**【種の特徴】** 多年生草本。地下茎があって群れて生える。茎は直立し上部で枝を分かち、葉は単葉で互生、花は4～6月に咲き、紫色で、主茎の先端に集散状につける。虫媒で水散布。地下に根茎を引き群生する。河川氾濫源の湿原あるいはハンノキ林の下に生える。[G] ヨシ群綱。

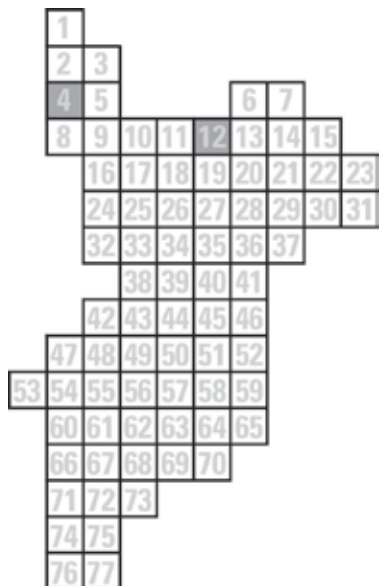
**【分布】** 北海道・本州・九州。朝鮮、中国。

**【県内の状況】** 利根川沿岸の野田市、成田市、我孫子市で採集された標本があるが、1959年以降記録されていない。

**【保護対策】** 利根川の氾濫源の生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

**【文献】** 新千植誌 1975 : 383  
／千植誌 2003 : 462, 454

**【写真】** 2002 茨城県  
大場達之  
(大場達之／天野誠)



X クサタバナ キョウチクトウ科

2009	X
2017	X
2023	X

*Vincetoxicum acuminatum* Decne.

**【種の特徴】** 中形の夏緑多年生草本。茎は直立し高さ30～60cm。葉は対生し長楕円形～卵形。花は6月に咲き、白色で茎の頂端と上部の葉腋につき、小散状花序が集まる。果実は長い袋状。虫媒で風散。普通ブナ帯の夏緑林の林床あるいは、日あたりの好い草地にやや群れて生える。[H]

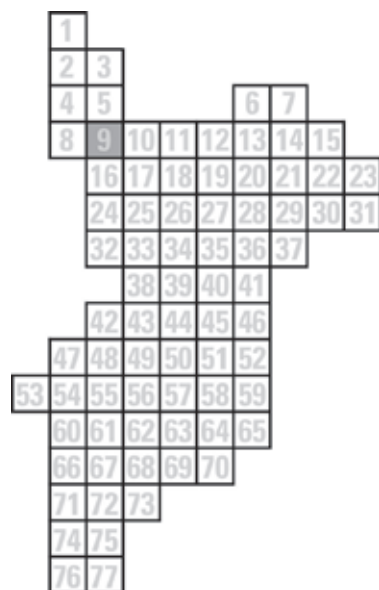
**【分布】** 本州(関東以西)・四国・九州。サハリン、朝鮮、中国東北部、ブリモリア。

**【県内の状況】** 柏市で1967年5月26日に採集されているが、現存するかどうか疑問である。千葉県産は寒冷期の遺存と考えられる。

**【保護対策】** 詳細な現地調査が必要である。

**【文献】** 千生誌 (1968) 17(1-2) : 14 /  
千植誌 2003 : 464, 455

**【写真】** 群馬県 大場達之  
(大場達之／天野誠)



X カイジンドウ シソ科

2009	X
2017	X
2023	X

*Ajuga ciliata* Bunge var. *villosior* A.Gray

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で重力散布。自然～半自然草原に生える。[H]

【分布】北海道・本州・九州。

【県内の状況】県北部のススキ草原に見られたが、現在は記録がない。最も新しい記録は1952年である。

【保護対策】管理されたススキ草原を復元することが望ましい。

【文献】寺崎留吉 1933 日本植物図譜：268 / 若名東一 1933 上総国日向村植物目録 / 千植誌 2003：489, 493

【写真】1928.5.13 市川市 標本：CBM BS-191177



(大場達之 / 天野誠)



X ムシャリンドウ シソ科

2009	X
2017	X
2023	X

*Dracocephalum argunense* Fisch.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。花は夏に咲き青紫色。虫媒で重力散布。乾き気味の自然～半自然草原に生える。北海道では海岸付近の草原に多い。[H] ススキ群目。

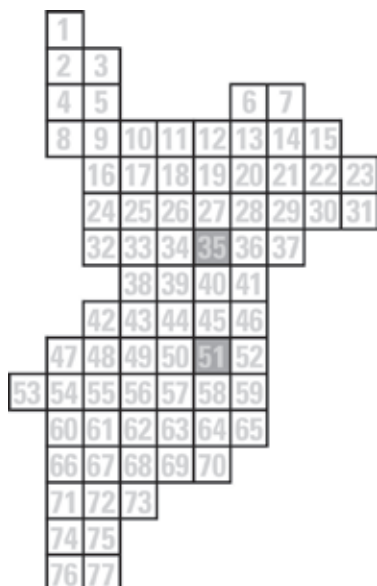
【分布】北海道・本州。朝鮮。

【県内の状況】八街市、長生村、一宮町などの記録があるが、近年は観察されていない。最も新しい記録が八街市の1935年である。ススキ草原の衰退とともに減少したものであろう。

【保護対策】人為的な刈り取りにより管理された半自然の草地进行を保全することが望ましい。

【文献】新千植誌  
1975：376 / 千植誌  
2003：506, 510

【写真】  
1987.6.7. 青森県  
福田洋  
(大場達之 / 天野誠)



消息不明・絶滅 X

X セキヤノアキチョウジ シソ科

2009	X
2017	X
2023	X

*Rabdosia effusa* (Maxim.) H.Hara

**【種の特性】** 多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で重力散布。夏緑林の日陰の林縁に生える。空中湿度の高い谷筋に多く見られる。低地遺存ブナ帯要素。フジアザミ-ヤマホタルブクロ群団。[H]

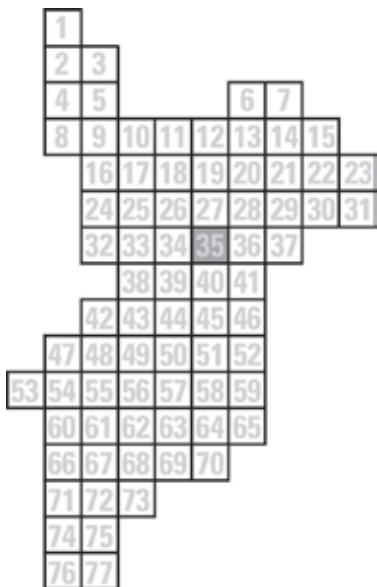
**【分布】** 本州（関東～中部の太平洋側）。それより西では近縁のアキチョウジに置き換わる。

**【県内の状況】** 鴨川市での採集記録があるほか、山武市での採集標本が千葉県立中央博物館に複数あるが、1956年を最後としてその後の記録は見られない。

**【保護対策】** 現在消息不明であるが、山武市などには生育可能な谷津の斜面が多く残されており、今後の精査によっては再発見の可能性は残されている。

**【文献】** 新千植誌 1975：378 / 千植誌 2003：492, 495

**【写真】** 1998 長野県 大場達之  
(大場達之/天野誠)



X コナミキ シソ科

2009	X
2017	X
2023	X

*Scutellaria guilielmi* A.Gray

**【種の特性】** 多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。細い地下茎を伸ばして増える。花は白色で5月に咲く。海岸近くの草地あるいは明るいクロマツ林の下などに生える。[H]

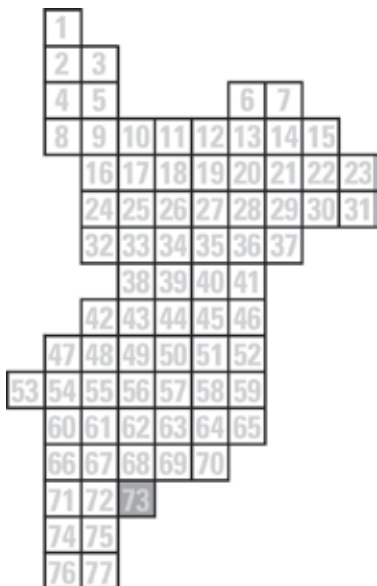
**【分布】** 本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球。

**【県内の状況】** 1937年に南房総市の海岸で採集し、1974年にはその産地が海岸の道路工事で失われたことを報告している。この地点はコナミキの北限産地であった。その標本は千葉県立中央博物館に収蔵されている。

**【保護対策】** 再生は困難であろう。

**【文献】** 浅野貞夫 1951 房州にコナミキ自生す。採集と飼育 13(9)：293-294 / 浅野貞夫 1974 房総半島から消えた東限産地のコナミキ。植物採集ニュース 74：25 / 千植誌 2003：490, 494

**【写真】** 1938.6 南房総市 標本：CBM BS-145052  
(大場達之/天野誠)



**X ナミキソウ シソ科** 2009 X  
2017 X  
2023 X

*Scutellaria strigillosa* Hemsl.

**【種の特性】** 小～中型の夏緑多年生草本。細い地下茎を広げ群れて生える。葉は単葉で対生。花は夏で、上部の葉脇に青紫色の花をつける。虫媒で風散布。海岸の砂浜および湿原に生える。[H]

**【分布】** 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、千島、サハリン、アムール、ウスリー。

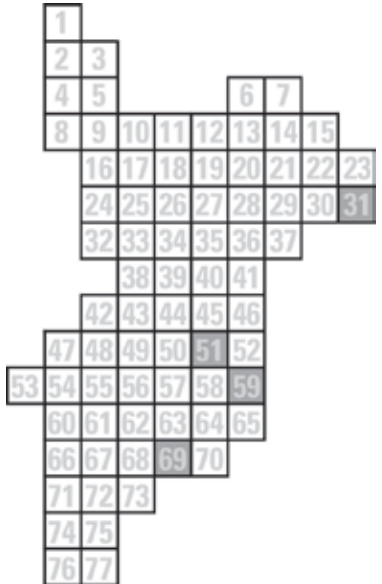
**【県内の状況】** 茂原市～長生村、鴨川市、銚子市での記録がある。

**【保護対策】** 生育環境の海岸を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 千植誌 2003 : 490, 494

**【写真】** 1957.5.29 鴨川市 標本: CBM BS-179725

(大場達之/天野誠)



**X ヒメタヌキモ タヌキモ科** 2009 X  
2017 X  
2023 X

*Utricularia minor* L.

**【種の特性】** 食虫性の多年生草本。葉は羽状で互生。花は淡黄色であるが開花は稀である。虫媒で水散布。タヌキモに似て繊細。貧栄養の酸性の浅い水域に生える。コタヌキモーヒメタヌキモ群綱。[HH]

**【分布】** 北海道・本州・四国・九州。ユーラシアと北米に広く分布。

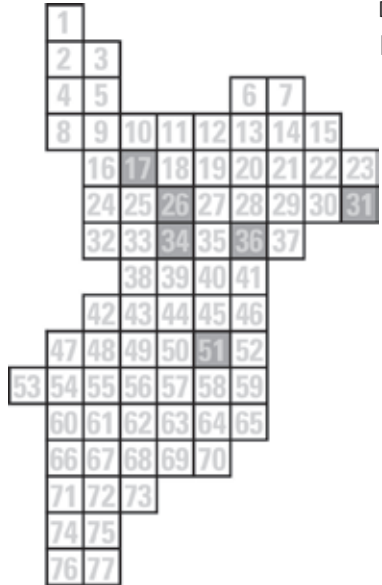
**【県内の状況】** 長生村、山武市 (1951)、銚子市、手賀沼 (1926 大阪市立自然史博物館標本) などから知られているが、近年の記録は見られない。絶滅したものと推定される。

**【保護対策】** 生育環境を良好に維持することが望ましい。特に水質の維持が大切である。

**【文献】** Komiya, S. & C. Shibata 1979 Distribution of the Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ. 9 : 192-195 / 千植誌 2003 : 545, 549

**【写真】** 2004.7 宮城県 大場達之

(大場達之/天野誠)



**X** クチナシグサ ハマウツボ科

2009	X
2017	X
2023	X

*Monochasma japonicum* Makino

**【種の特性】**半寄生性の二年生草本。葉は単葉で対生。茎は地表をわずかに斜上し、葉とともに紫褐色を帯び、細かな毛が多い。花は4～5月に咲き、白色。虫媒で虫散布。夏緑林、特にクヌギ・コナラなどの二次林に生える。[Th] 別名カガリビソウ。

**【分布】**本州・四国・九州。

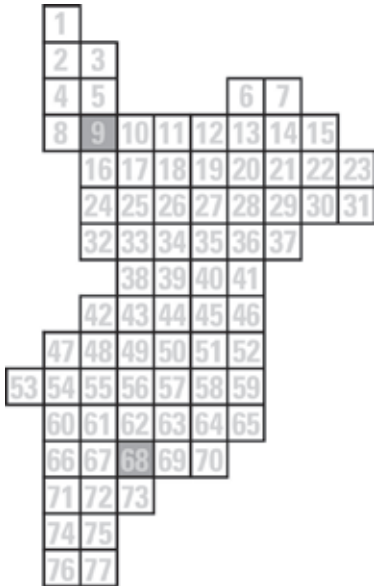
**【県内の状況】**かつては稀なものではなかったが、里山の二次林が管理されなくなってから極めて稀になっている。柏市、松戸市、八街市、東金市、茂原市、鴨川市などからの記録があるが、地名の記述が不足なので、分布図に表示できないデータが多い。

**【保護対策】**生育地の二次林のアズマネザサなどを刈り取り、林床を明るく保つことが望ましい。

**【文献】**篠崎信二郎 1929 東京植物同好会の下総手賀沼採集行. 植物研究雑誌 6 : 362-366 / 新千植誌 1975 : 373 / 千植誌 2003 : 536, 527

**【写真】**1982.5 奈良県 大場達之

(大場達之/天野誠)



**X** ムラサキ ムラサキ科

2009	A
2017	X
2023	X

*Lithospermum erthrorhizon* Siebold & Zucc.

**【種の特性】**高さ40～90cmの夏緑の多年生草本。乾燥した日当たりのよい草原に生育する。根は長倒円錐形で、乾かすと濃い紫色となり、台紙を紫色に染める。茎は円筒形で、剛毛が生える。葉は互生、長楕円形で、3脈が目立ち、両面に荒い毛が生える。葉柄は短い。さそり状花序を頂生および上部の葉腋につける。花冠は白色、花筒は短い、径3～4mmで、喉部に黄色い鱗片がつく。果実は白くて光沢のある小堅果で、ほぼ球形、1花に4つつく。虫媒で重力散布。ススキ群目。[H]

**【分布】**北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

**【県内の状況】**ススキの刈り取り草原に多く見られたが、カヤ刈場が少なくなり、ススキ草地の管理が行われなくなってから激減している。千葉県植物誌には多くの産地が記録されているが、最新の記録は1979年の高塚山での観察と考えられる。清澄山、長南町笠森、鴨川市等の標本

が千葉県立中央博物館に所蔵されている。

**【保護対策】**観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。半自然草原を保全することが望ましい。

**【文献】**川名興・伊藤哲夫 1979 冬虫夏草 14 / 千植誌 2003 : 473, 484

**【写真】**1986 千葉市栽培 福田洋

(大場達之/天野 誠 追補)



**X ハマベンケイソウ ムラサキ科** 2009   
2017 X  
2023 X

**【種の特性】** 中型の匍匐性の多年性草本。葉は、長楕円形から広卵形、青白色で厚い。花冠は青紫色で、釣鐘形。虫媒で、海流散布。花期は、7月～8月。砂浜に生育する。[G]

**【分布】** 北海道・本州。朝鮮、千島列島、サハリン、ロシア（オホーツク海沿岸）。

**【県内の状況】** 銚子市で2008年7月12日（CBM BS-267348）と2008年7月27日（CBM BS-267349）に採集された標本がある。その後、当該生育地に数度、調査に行ったが、消失していた。一時的定着と思われる。

**【保護対策】** 生育環境の海岸を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 鶴岡繁・木村陽子 2008 千植誌 24 226-228 / 米倉浩司 日本の野生植物 5 p.55

**【写真】** 2010.6.15 銚子市 谷城勝弘  
(天野誠)



**X オクモジハグマ キク科** 2009 X  
2017 X  
2023 X

**【種の特性】** 多年生草本。葉は単葉で掌状に切れ込み、互生であるが輪生状に茎の中部に集まりつく、葉はやや扁平な円形で掌状に切れる。花は9～10月に咲き、茎の先に穂状に付き、総苞は長さ12～15mmで、総苞片は5列、筒状花は白色。虫媒で風散布。[G]。ブナ帯の中性～やや乾いた夏緑林あるいはモミ林などに生える。ブナ群綱。

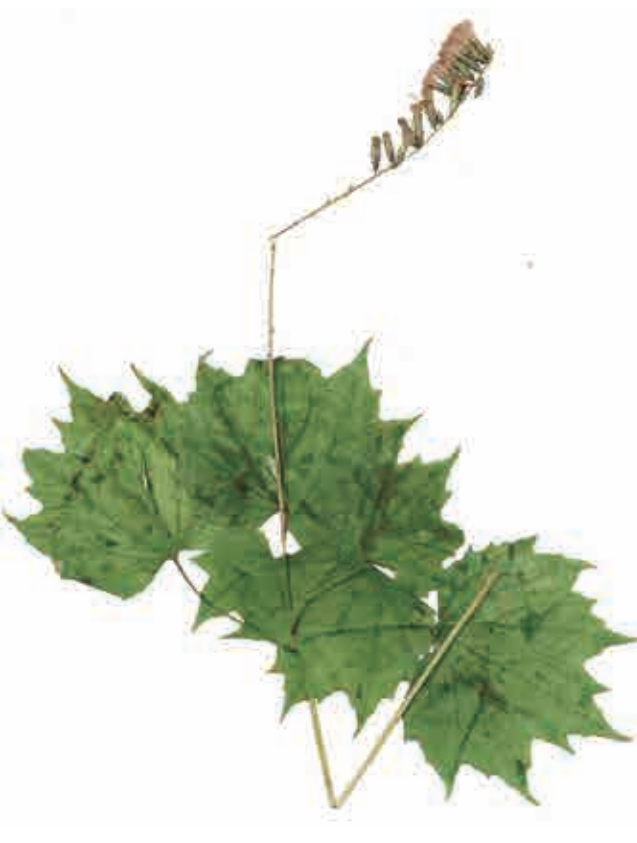
**【分布】** 本州。

**【県内の状況】** 千葉市、東金市と大多喜町での採集記録がある。

**【保護対策】** 生育環境の林床を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 千生誌 1958 : 309 / 千植誌 2003 : 590, 572

**【写真】** 1991.8.26 福島県 標本 : CBM BS-143633  
(大場達之 / 天野誠)



X ホソバニガナ キク科

2009	
2017	X
2023	X

*Ixeris beauverdianum* (H.Lév.) Springate

【種の特性】 小型の多年性草本。ニガナに似るが、葉は茎を抱かない。葉は、線状披針形。頭花1つの小花は5つ。虫媒で、風散布。花期は、5月から8月。湿地に生育する。ススキ群綱。[H]

【分布】 本州・四国・九州。中国、ヒマラヤ。

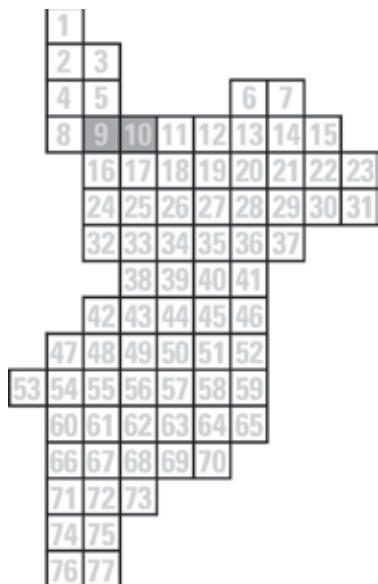
【県内の状況】 我孫子市で1936年6月18日に採集された標本（CBM BS-200425）がある。柏市で1966年に採集した記録がある。

【保護対策】 生育地の湿地などを良好に維持することが望ましい。

【文献】 伊藤至 1966 植物採集ニュース 千植誌 2003 648-649

【写真】 1984.10.15 愛知県 標本: CBM BS-201970

(天野誠)



X タカサゴソウ キク科

2009	X
2017	X
2023	X

*Ixeris chinensis* (Thunb.) Nakai subsp. *strigosa* (H.Lév. & Vaniot) Kitam.

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生し白緑色、へら状倒披針形であらい欠刻または歯牙がある。花は4～5月で、高さ20～40cmの茎を複数直立させて、上部に花を群がりつける。頭花は舌状を20個内外つけ淡紫色、虫媒で風散布。草原に生える。ススキ群綱。[H]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮。

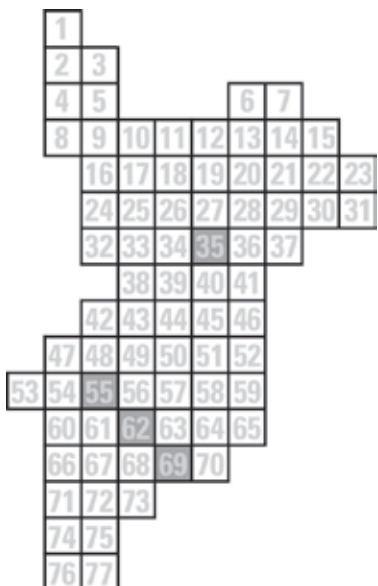
【県内の状況】 清澄山、君津市、鹿野山、八街市などで採集されているが1951年の記録を最後に消息不明。

【保護対策】 千葉県における生育環境が明らかでない。近接他県での生育環境を調べる必要がある。

【文献】 千植誌 2003 : 648, 640

【写真】 1951.5.4 清澄山 標本: CBM BS-95679

(大場達之/天野誠)



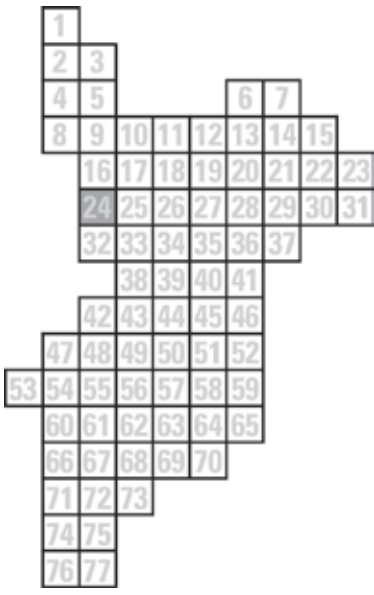
**X ミコシギク キク科** 2009 X  
2017 X  
2023 X

*Leucanthemella linearis* (Matsum.) Vorsch.

**【種の特性】** 多年生草本。茎は直立。葉は単葉で互生し、羽状にやや深く裂ける。舌状花は白色。虫媒で水散布。地下茎を引いて繁殖する。種子はできないといわれる。湿原に生える。[HH]。

**【分布】** 本州（茨城県以西）・九州。朝鮮、中国。

**【県内の状況】** 下総産の標本（K. Okada 1895年10月採集 東京大学）に基づいて命名された。当時の下総は茨城県南部の一部が含まれていたが、千葉県が基準標本産地である可能性が高い、その後県内からは採集されていない。下総のどこで採集されたかは明らかではないが、その頃の採集家の行動からすると、現市川市付近であろうと推定される。



は明らかではないが、その頃の採集家の行動からすると、現市川市付近であろうと推定される。

**【保護対策】** 最初で最後の記録から既に100年を経過しているが、詳細な原産地の究明が必要である。

**【文献】** 松村任三 1899 植物学雑誌 13 : 83  
／北村四郎 1967 日本の野生菊の分布に関する報告．植物分類地理 22(4-6) : 109-137  
／千植誌 2003 : 616, 611

**【写真】** 1979.10.8 岐阜県 標本 : CBM BS-129053

(大場達之／天野誠)



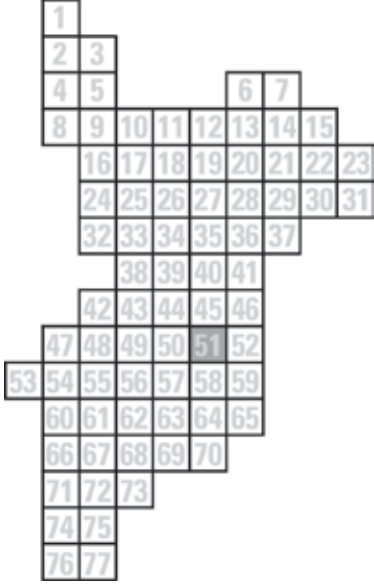
**X フクオウソウ キク科** 2009 X  
2017 X  
2023 X

*Prenanthes acerifolia* (Maxim.) Matsum.

**【種の特性】** 多年生草本。葉は単葉で互生。根生葉は心形～卵状心形で粗い欠刻がある。茎は高さ40～60cmで花序は円錐状、頭花は下垂して咲き、青紫色を帯びた白色。虫媒で風散布。主としてブナ帯のブナ林あるいはミズナラ林の、斜面の動きやすい林床の土壌あるいは日陰の林縁に生え、千葉県のものは寒冷期の遺存的なものか、林木の苗などに付着して移入されたものであろう。[G]

**【分布】** 本州・四国・九州。

**【県内の状況】** 1936年に一宮町で記録しているほか、市原市にもあるというが証拠標本は確認されていない。



**【保護対策】** 生育地の林床を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 千葉県自然環境保全地域等変遷調査報告書 1985／千植誌 2003 : 646, 637

**【写真】** 1990.10.14 茨城県 標本 : CBM BS-108311

(大場達之／天野誠)



X ヒメヒゴタイ キク科

2009	X
2017	X
2023	X

*Saussurea pulchella* (Fisch. ex Hornem.) Fisch.

**【種の特徴】**2年生～多年生草本。高さ80cm以上になる。葉は単葉で羽状に裂け互生。花は8～9月に咲き紅紫色。虫媒で風散布。ススキ草原に生える。ススキ群綱。[Th～H]

**【分布】**北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、サハリン、アムール、ウスリー。

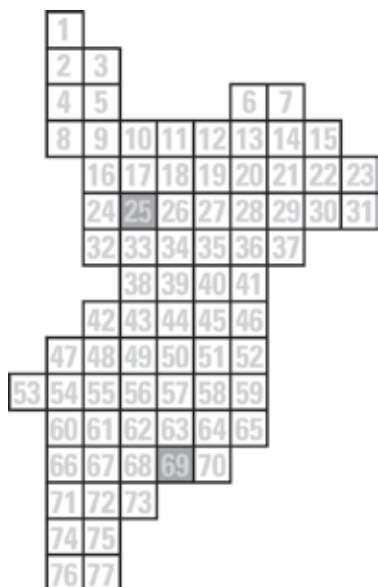
**【県内の状況】**1952年に津田沼付近の大和田（八千代市？）で記録したほか、清澄山の記録がある。

**【保護対策】**刈り取りにより管理された半自然の草地を保全することが望ましい。

**【文献】**久内清孝 1952 植物研究雑誌 27 : 336 / 千植誌 2003 : 574, 566

**【写真】**1955.10.16 神奈川県 神奈川県立生命の星・地球博物館所蔵標本

(大場達之／天野誠)



EW センニンモ ヒルムシロ科

2009	EW
2017	A
2023	EW

*Potamogeton maakianus* A.Benn.

【種の特性】沈水性の多年生草本。葉は単葉で互生～対生、線形。風媒で水散布。無柄で葉縁には鋸歯があり基部は托葉と合着して2～6mmの葉鞘となる。湖沼、ため池、水路等に生える。[HH] ヒルムシロ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。アジア東部。

【県内の状況】印旛沼、手賀沼、佐倉市、柏市、市原市での記録がある。

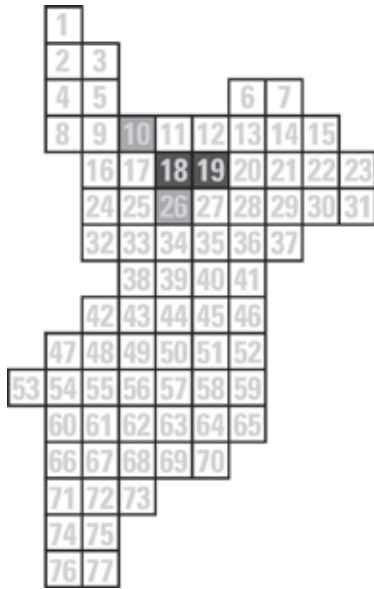
【保護対策】2008年に印旛沼底土の撒き出し実験で発芽したので、

これを維持し将来印旛沼に復元することを期待したい。

【文献】千植誌 1958：432  
／千植誌 2003：664,660

【写真】1964.9.6 印旛沼  
標本：CBM BS-12729

(谷城勝弘)



EW ヒロハノエビモ ヒルムシロ科

2009	EW
2017	A
2023	EW

*Potamogeton perfoliatus* L.

【種の特性】沈水性の多年生草本。葉は単葉で互生～対生。風媒で水散布。無柄で、縁は波打ち、基部が茎を半周以上抱く。湖沼性（稀に河川）の沈水性多年生草本。ヒルムシロ群綱。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。南米大陸を除き世界に広く分布。

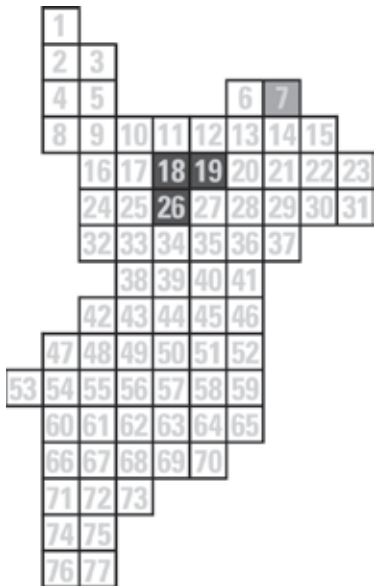
【県内の状況】手賀沼、印旛沼、霞ヶ浦域で生育が確認されてきたが、現在は見られない。旧生育地近くに新たに造られた造成池などにはほかのヒルムシロ科の発芽が時折見られるが、本種は出現しない。水質の汚濁に極めて敏感な種と思われる。

【保護対策】現在は、自然生育地を見いだすことはできないが、2008年に印旛沼底土の撒きだし実験で発芽したので、これを維持し将来印旛沼に復元することを期待したい。

【文献】千植誌 1958：432 / 大滝末男 1975 水生植物の分布と生態。新千植誌：216-232 / 角野康郎 1994 日本水草図鑑：37。 / 千植誌 2003：663,669

【写真】1933.8.25 香取市 標本：CBM BS-552

(谷城勝弘)





## A ゴヨウマツ マツ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Pinus parviflora* Siebold & Zucc.

**【種の特性】**常緑高木。葉は針葉で輪生。風媒で風散布。変種のキタゴヨウは種子の翼が種子と同長以上で本州中部以北の日本海側と北海道に分布する。キタゴヨウと区別するためにヒメコマツと呼ばれることもある。[MM]

**【分布】**北海道・本州・四国・九州（太平洋側）。

**【県内の状況】**かつては房総丘陵に広く分布していたと思われるが、近年急激に減少し、2001年には高岩山、元清澄山、清澄山周辺に75本が確認されるのみとなった。しかし、残っている本数の割には遺伝的多様性は維持されている。

**【保護対策】**房総丘陵のゴヨウマツは自然状態で集団を維持することが困難なほど衰退している。個体の多くが孤立しているため、自殖率が高く発芽率が低い。

こうした問題を解決するため、人工交配が試みられている。また、現存個体の遺伝子を保存するため接ぎ木も試みられている。今後、個体群の衰退の程度によっては、人為的な補強ないしは消滅した生育地への再導入を検討する必要もあろう。

**【文献】**石原猛・佐倉詔夫・蒲谷肇 1983 清澄山におけるヒメコマツ. 清澄 10:1-10 / 房総のヒメコマツ研究グループ 2001 房総半島におけるヒメコマツ個体群の緊急調査. 44 pp. / 千植誌 2003: 78, 81

**【写真】**1998 君津市 大場達之 (齊木健一)



## A ジュンサイ スイレン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Brasenia schreberi* J.F.Gmel.

**【種の特性】**浮葉性の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。群生することが多い。池・沼に生える。若い芽や葉は寒天質に包まれており、これを食用にする。ジュンサイーヒツジグサ群集。[HH]

**【分布】**北海道・本州・四国・九州・琉球。アフリカを除く世界各地の熱帯から温帯に広く分布。

**【県内の状況】**市川市のじゅんさい沼は古くから知られた産地で、そのほか茂原市～長生村、千葉市、山武市、長柄町などから記録があるが、その多くでは絶滅している。2006年9月3日に横芝光町で採集されている (CBM BS-236501)。

市川市のじゅんさい沼は公園化され、ジュンサイが植えられているが、これは一度絶滅したが、東北産のものを導入して復活させたものである。

**【保護対策】**生育環境を良好に維持することが望ましい。特に水質の維持が大切である。

**【文献】**新千植誌 1975: 425 / 天野誠 2007 千葉県立中央博自然報告 9(2): 36

**【写真】**1999.07.01. 長柄町 大場達之 (大場達之 / 天野誠)



## A オニバス スイレン科

2009	A
2017	B
2023	A

*Euryale ferox* Salisb.

【種の特性】 巨大な浮葉性の一年生草本。葉は単葉で互生、著しい刺がある。虫媒で水散布。ヒルムシロ群目。[HH]

【分布】 本州（東北南部以南）・九州。台湾、中国、インド。

【県内の状況】 1980年に一宮町で、1885年に市川市で採られた標本がある。また印旛沼、手賀沼とその周辺には多くの産地が知られているほか、九十九里浜平野でも一宮町のほかに九十九里町などからの記録がある。いずれの地域でも埋め立て、水質の悪化によってほとんど絶滅している。しかし埋土種子から回復する例があり、神崎町などでは保護された生育地が残っている。

【保護対策】 旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みるのが望ましい。

【文献】 齊藤吉永 1967 オニバス消滅の原因. 植物採集ニュース 31: 51-52 / 齊藤吉永 1973 印旛沼周辺のオニバスについて. 千葉生物誌 22(1・2): 35-36 / 新千植誌 1975: 425 / 千植誌 2003: 202,209

【写真】 2002.9.20 神崎町 腰野文男

(大場達之/天野誠)



## A ナガバコウホネ スイレン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Nuphar japonicum* DC. var. *stenophyllum* Miki

【種の特性】 コウホネに似ているが全体に小柄で、主に流水域に生え、流水の強い環境では抽水葉を出さないことが多い。葉身は長楕円形で長さ幅の2~3倍。花柄は細く、花は多く水面に咲く。三木茂(1937)がコウホネの変種として記録した。角野康郎はシモツケコウホネを独立種として記載したが、これはナガバコウホネと同じものと考えられる。

【分布】 本州。神奈川県でも海老名市でナガバコウホネが発見されている。関東地方から東北にかけて、このような形の流水地型のコウホネが分布している。

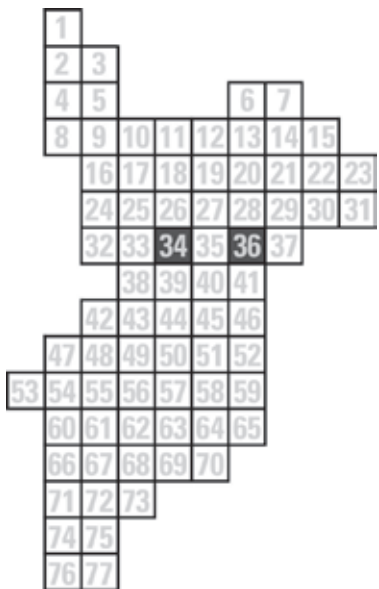
【県内の状況】 都川で最初発見されたが、上流の河川工事のため埋没してしまったので、千葉市の職員が若干の株を掘り出して水槽で栽培していたものが最初の発見で、その後、小野川に多数生育しているのが発見された。しかし小野川では観光船の定期航行のために水位を上げたために危機に瀕している。

【保護対策】 特に小野川については、透明度が低いので水位を下げ、ナガバコウホネの光合成を助けることが重要であろう。

【文献】 三木茂 1937 山城水草誌 82-84 / 角野康郎 2005 コウホネ属新変種シモツケコウホネの発見：産地の現状と保全の重要性 / Kadono, Y. 2006 Acta Phytotax. Geobot. (2006) 57,2, 113-122 / 林浩二 千植誌 2003: 202,209

【写真】 2002.7 千葉市大場達之

(大場達之/天野誠)



## A ヒツジグサ スイレン科

2009	A
2017	EW
2023	A

*Nymphaea tetragona* Georgi

【種の特性】 浮葉性の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。池・沼に生える。ヒツジグサ群団。[HH]

【分布】 本州・四国・九州。北海道にはエゾノヒツジグサが分布。

【県内の状況】 利根川水系と九十九里浜平野に多くの産地が知られていたが、いずれも水質の悪化、埋め立てなどで消滅しており、山間の池に生えるものだけが残っている。栽培のスイレン属のほかの種類が自生状態で見られるが、真のヒツジグサは稀である。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。特に水量の維持が大切である。

【文献】 新千植誌 1975：425 / 千植誌 2003：202,209

【写真】 長野県 大場達之

(大場達之/天野誠)



## A ゼニバサイシン ウマノスズクサ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Asarum. takaoi* F.Maek. var. *hisauchii* (F.Maek.) F.Maek.

【種の特性】 常緑多年生草本。葉は単葉で互生。花は2～3月に咲く。萼筒内面には20本前後の隆起線がある。虫媒で虫散布。ヒメカンアオイに似るが葉の先端が切形であることが違う、この類の分類は再検討が必要である。クヌギ～コナラ二次林あるいはスギ植林などの林床に生える。[G]

【分布】 本州中部（千葉、長野、岐阜、愛知、三重）。

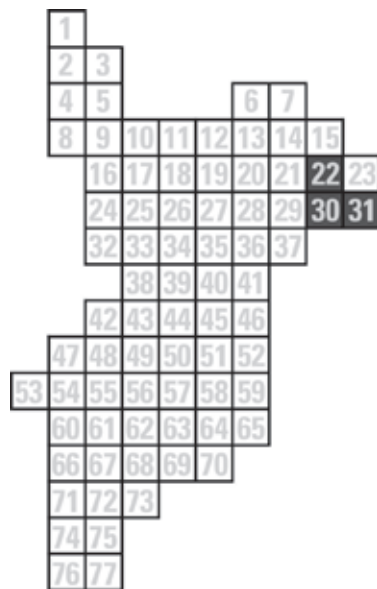
【県内の状況】 1986年に銚子市で発見された。現在銚子市の数ヶ所で確認されている。いずれも極めて限られた範囲にのみ見られ、生育地の改変で個体数が減少している他、好事家の採集により開花個体が極端に減少している。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしない。

【文献】 鶴岡繁・福田泰二 1988 銚子に新しく発見された2種の植物について。千葉生物誌 38(1)：1-4 / 大場秀章・福田泰二・鶴岡繁 1989 千葉県で見出されたゼニバサイシン、特にその意外な分布と分類植物研究雑誌 64(8)：225-231 / 千植誌 2003：214, 211

【写真】 1998. 銚子市 腰野文男

(大場達之/天野誠)



## A ダンコウバイ クスノキ科

2009	
2017	A
2023	A

*Lindera obtusiloba* Blume

**【種の特性】** 落葉性低木。雌雄異株。高さ2～6m。葉は互生、多くは先で浅く3裂する。葉が出る前に花が咲く。頭状花序で、花は黄色い。果実は赤熟する。虫媒で、鳥散布。花期は、3月から4月。山地の落葉樹林の林内や林縁に生育する。[M]

**【分布】** 本州・四国・九州

**【県内の状況】** 君津市で、2004年11月18日に採集された標本（CBM BS-269726）がある。雌雄異株で、個体数が少ないので、存続が危ぶまれる。

**【保護対策】** 生育地を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 改訂新版日本の野生植物(2016) p.84

**【写真】** 2004.11.18 君津市 CBM BS-269726

(天野誠)



## A マイヅルテンナンショウ サトイモ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Arisaema heterophyllum* Blume

**【種の特性】** 多年生草本。葉は鳥足状複葉で互生、中央の小葉がほかの小葉よりも著しく小さい。虫媒で鳥散布。高さ80cm以上になる。偽茎は高く伸びる。平地の湿った林、あるいは河川の氾濫源の草原に生える。[G] 全体緑色。

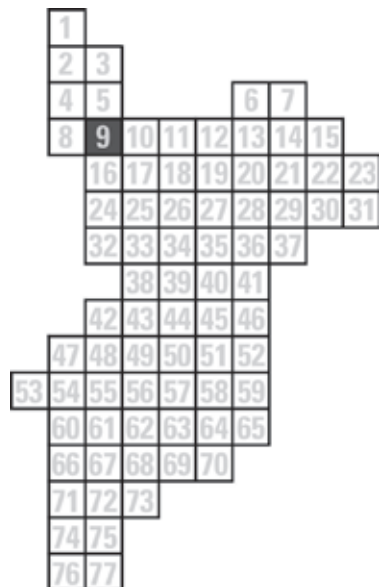
**【分布】** 本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国。

**【県内の状況】** 関東地方では利根川と荒川の氾濫原に生える。1991年に柏市で発見された。

**【保護対策】** 湧水地を取り囲む林全体を保全することが望ましい。

**【文献】** 齊藤吉永 1994 調査会目録  
／千植誌 2003 : 798,811

**【写真】** 2004. 茨城県 大場達之  
(大場達之／天野誠)



A ムサシアブミ サトイモ科

2009	
2017	A
2023	A

*Arisaema ringens* (Thunb.) Schott

【種の特性】 中型の多年性草本。高さは10cmから30cmになる。葉は通常2枚、葉身は鳥足状に分裂し、小葉は3枚。雌雄異株。仏炎苞の形は、馬具のあぶみ状になる。虫媒で、鳥散布。花期は、3月から5月。やや湿った林床に生育する。[G]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮（南部）、台湾、中国。

【県内の状況】 佐倉市で2015年6月29日に採集された標本（CBM BS-366503）と芝山町で1995年4月20日に採集された標本（CBM BS-120159）がある。中央博物館の生態園では、逸出と思われる個体が発見されている。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 811

【写真】 2019.6.18 芝山町 谷城勝弘

(天野誠)



A スブタ トチカガミ科

2009	B
2017	A
2023	A

*Blyxa echinosperma* (C.B.Clarke) Hook.f.

【種の特性】 沈水性の一年生草本。ため池や水路等の底土が泥質の止水域に生える。葉は単葉ですべて根生。風媒で水散布。沈水葉は線形で、長10～20cm、幅3～9mm。花は9～10月に咲く。果実の背稜には突起がない。[HH] ヒルムシロ群綱。

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、東南アジア、オーストラリア。

【県内の状況】 千葉市、野田市、八千代市の報告があるが、標本で確認できるのは市原市（1994.9.5 CBM BS-123631）のみである。従来の記録にはヤナギスブタを誤認したものが含まれている可能性がある。

【保護対策】 ため池や水路の汚濁をなくし、生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958 432 / 新千植誌 1975 : 476 / 千植誌 2003 : 655,644

【写真】 1994.9.5 市原市 標本 : CBM BS-123631

(大場達之 / 天野誠)



## A オオウミヒルモ トチカガミ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Halophila major* (Zoll.) Miq.

**【種の特性】** 小形の海底沈水性多年草。雌雄異株。根茎は白色で細く海底の砂泥土中を横走り、節間は2.5～4cm。節には透明な鞘葉と対生状に2枚の葉をつける。葉は楕円形で1.5～3cmの柄がある。葉脈の下部と葉柄上部はしばしば赤く染まる。側脈は18～22対で、先端が2列するものが多く混じる。葉縁の透明細胞は1列。千葉県産のものでは開花を観察していない。別名ウミコバン。牧野富太郎によって *Halophila euphlebia* Makino (1912) と命名されたが、Kuo, J. et al. (2006) によってインドネシア産の *H. major* (Zollinger) Miq. (1855) と同一種とされた。ほかのウミヒルモ類よりも潮通しのよい外海に面した砂質地に多く見られ潮下帯上部に生える。これまで館山市のウミヒルモ類はウミヒルモ *H. ovalis* (R.Br.) Hook.f. とされていたが、ウミヒルモは琉球以南にのみ分布し、館山市のものはオオウミヒルモとつぎに述べるヤマトウミヒルモの2種であることが明らかになった。

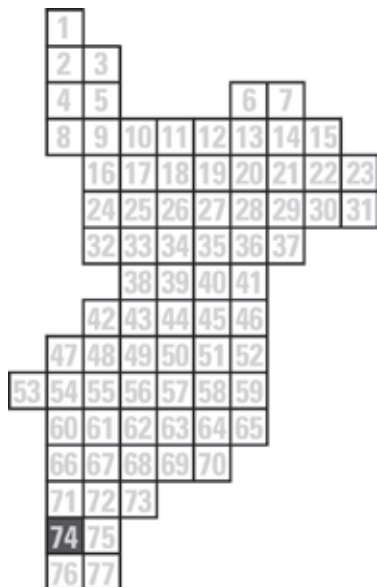
**【分布】** 本州（館山市を北限として、和歌山）・四国・鹿児島・琉球（奄美大島）、太平洋南西部に広く分布。

**【県内の状況】** 館山市にのみ記録されている。

**【保護対策】** 築堤などを行わず、現在の海況の環境を維持する。

**【文献】** 大場達之・宮田昌彦 2007 日本海草図譜 15,64-65

**【写真】** 2004.5 館山市 大場達之  
(大場達之・宮田昌彦)



## A ヤマトウミヒルモ トチカガミ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Halophila nipponica* J.Kuo

**【種の特性】** オオウミヒルモにやや似るが植物体に赤く染まる部分が無く、葉は長楕円形で側脈は8～12対、側脈はほとんど2又しない。また葉縁の透明細胞は細長く3列にならぶ。雌雄異株。花は3枚で透明質、雄しべは黄色。水媒で水散布。(HH)。Kuo, J. (2006) によって新種として記載された。館山市の沖の島はヤマトウミヒルモの基準産地である。オオウミヒルモと異なり内湾的環境の泥質地に生え、潮下帯の最上部に多い。本種は九州から本州北端の陸奥湾にいたる間にも見られるが、これらは雄花の花被が紫色を帯び、葯が紅紫色を呈する。これを別亜種 subsp. *notoensis* Ohba et Miyata という。

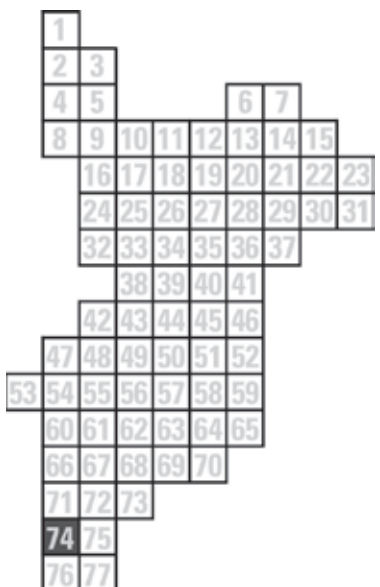
**【分布】** 本州（館山市以西）・四国・九州。

**【県内の状況】** 館山市、館山港のほか東京湾の数ヶ所に分布し、三浦半島にも見られる。

**【保護対策】** 基準産地であることも考慮し沖ノ島の生育地は手厚く保護すべきであろう。

**【文献】** Kuo, J. et al. 2006 Acta Phytotax. Geobot. 57(2):141-144 / Uchimura & M.E. Faye 2006 Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo. Ser. B. 32(3): 131 / 大場達之・宮田昌彦 2007 日本海草図譜 15,66-67

**【写真】** 2004 館山市 大場達之  
(大場達之・宮田昌彦)



**A ヒロハトリゲモ トチカガミ科**

2009	
2017	
2023	A

*Najas chinensis* N.Z.Wang

【種の特性】小型の一年性草本。茎はよく分枝する。葉身は線形で、小さな鋸歯がある。雌雄同株。果実の表面の模様正方形から六角形。水媒で、重力散布。花期は、7月から9月。溜め池や水田に生育する。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。東アジア。

【県内の状況】君津市で、1992年7月16日（CBM BS-202229）に採集された標本のみがある。野田市に記録がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：477 / 角野康郎 1994 日本水草図鑑：17 / 千植誌 2003

643,657

【写真】(上) 2018.7.10 (下) 2020.8.8  
野田市 岩槻秀明

(岩槻秀明)



**A コバノヒルムシロ ヒルムシロ科**

2009	
2017	A
2023	A

*Potamogeton cristatus* Regel & Maack

【種の特性】小型で浮葉性の多年生草本。葉は互生~対生、沈水葉は線形で長さ3~5cm、幅0.3~1.0mm。風媒で水散布。ホソバミズヒキモに似るが果実の嘴（花柱）が長く、また背稜に著しい突起がある。湖沼性。ヒルムシロ群団。[HH]

【分布】本州・九州。朝鮮、台湾、中国、ウスリー。

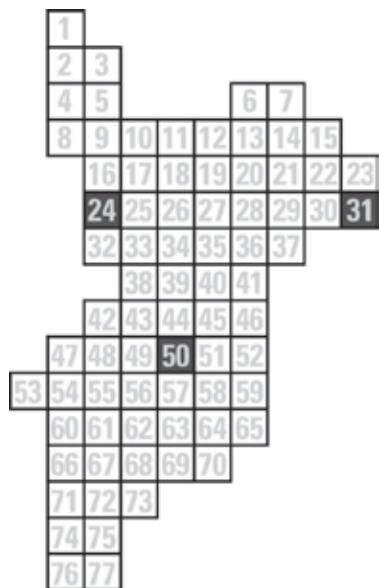
【県内の状況】銚子市、野田市、勝浦市、大多喜町などからの分布が知られる。近似の種類と混同されていることも考えられる。証拠標本の確認できない記録もあるので、今後検討を要する種類である。現在生育は確認されていない。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みることを望ましい。

【文献】新千植誌 1975：478 / 伊藤至 1988 水草三題千生誌 37(1・2)：11-14. / 千植誌 2003 664,660

【写真】1940.6.6 大多喜町 標本：CBM BS-3086

(谷城勝弘)



最重要保護 A

A ミズヒキモ ヒルムシロ科

2009	B
2017	A
2023	A

*Potamogeton octandrus* Poir. var. *miduhikimo* (Makino) H.Hara

【種の特性】沈水性の多年生草本。ため池や水路等に生える。葉は単葉で互生～対生。沈水葉は線形で、長さ3～5 cm、幅0.3～1.0 mm。基本変種に似るが、果実の背稜は全縁。風媒で、水散布。[HH]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、満州。

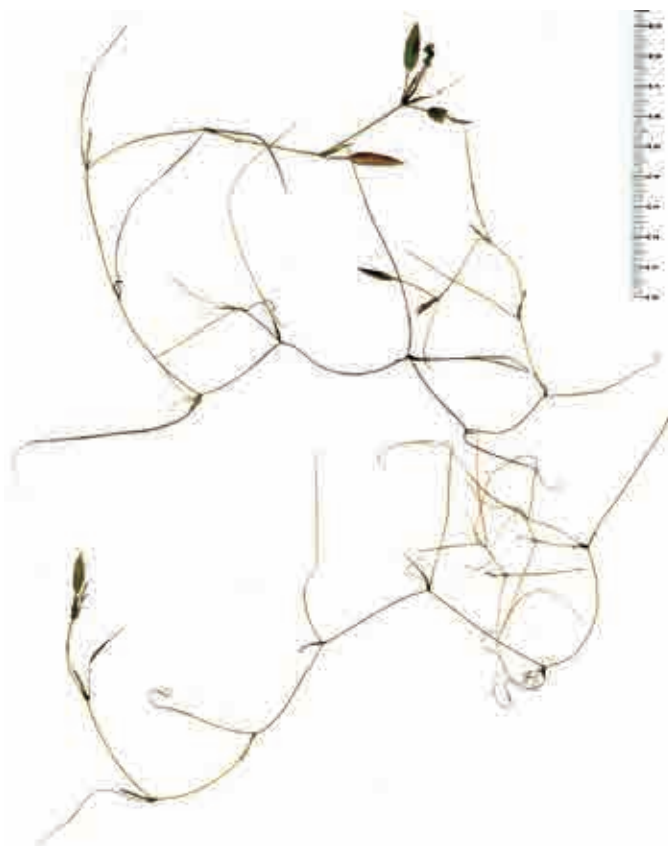
【県内の状況】館山市（1935.6.9 CBM BS-183383）、松戸市（2002.8.14 CBM BS-193364）の標本が千葉県立中央博物館にある。栗山川流域と一ノ宮川流域にも記録されるが、近年は確認されていない。

【保護対策】ため池や水路の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：660

【写真】2004 宮城県  
大場達之

(谷城勝弘)



最重要保護  
A

A シバナ シバナ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Triglochin asiatica* (Kitag.) Á.Löve & D.Löve

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。内湾の潮間帯上部に群生することが多い。塩湿地に生える。ナガミノオニシバ群目。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。北半球の温帯を中心に広く分布する。北海道のものは大形でオオシバナとして区分すべきだとの意見がある。

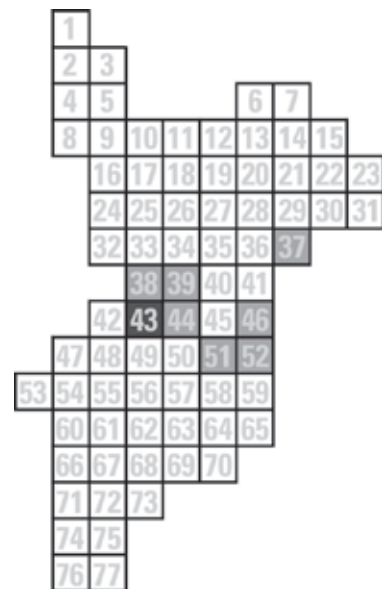
【県内の状況】かつては九十九里沿岸の河口域に多く見られ、匝瑳市、山武市、大網白里市、いすみ市、一宮町、長生村などからの記録がある。九十九里における最新の確かな記録は1968年6月3日の標本である（平塚市博物館標本、九十九里とあるだけで細かな地名は記されていない）。また千葉県立中央博物館には市原市で採集した標本がある（1956年8月5日）。東京湾岸では千葉市、市原市からの記録もある。

現在は埋め立てや河川改修などによって絶滅したと考えられていたが、2003年に市原市の埋め立て地付近に残る旧河川の河床から健全な状態の群落が発見された。

【保護対策】東京湾岸に唯一現存する生育地を厳重に保護することが望まれる。

【文献】新千植誌 1975：477 / 千植誌 2003：659,663

【写真】2004. 市原市 大場達之  
(大場達之/天野誠)



**A タチアマモ アマモ科**

2009	A
2017	A
2023	A

*Zostera caulescens* Miki

**【種の特性】** 多年生草本。根茎の節から多数の根を出す。葉は単葉で互生、先端縁辺部に鋸歯がない。水媒で水散布。雌雄同株。生活史と形態はアマモに似ている。葉を含めたシュートの長さは7mに達し、葉は幅は10～15mmで長さ16～90cm、葉脈は9～11本で中肋の左右に横脈の密集した部分がある。しばしば漂着した葉によってオオアマモと同定されることがあるが、横脈密集ゾーンに注目すれば両種は見誤ることはない。開花期は4-8月。肉穂花序に葯隔突起がない。生殖枝の先端に栄養葉をつけることでアマモと区別される。アマモと同所的に生育するがアマモより深いところに生える。アマモ群目。海底が砂地の潮下帯に生える。[HH]

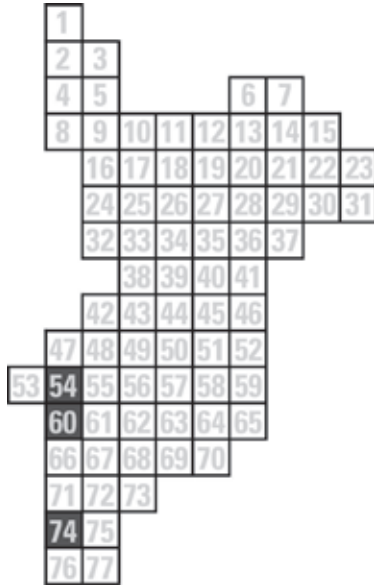
**【分布】** 本州（中北部沿岸）及び・朝鮮半島南部。正基準標本は京都大学（KYO）に保管され、基準産地は「KOREA、Moppo」、1932年に採集。

**【県内の状況】** 富津市、館山湾の潮下帯に生育する。

**【保護対策】** 生育海域における海底の浚渫など環境の攪乱を避けることが望ましい。

**【文献】** Miki, S. (1932) Bot. Mag. Tokyo 46 : 774-788. / Miki, S. (1933) Bot. Mag. Tokyo 47 : 842-862. / Miki, S. (1934b) Bot. Mag. Tokyo 48 : 171-178 / 千植誌 2003 : 657,662 / 大場達之・宮田昌彦 2007 日本海草図譜 9-10,40-41

**【写真】** 2004 三浦半島 未開花株 大場達之 (宮田昌彦)



**A ヒロハノアマナ ユリ科**

2009	C
2017	A
2023	A

*Amana latifolia* (Makino) Honda

**【種の特性】** 小型の夏緑性の多年性草本。肥沃な雑木林の下に生える。地下の球茎から2枚の根出葉を出す。葉の中脈沿いは白色。花は3～4月。花茎には3枚の苞葉があり、1個の白色の花を上向きに咲かせる。花は陽光受けて開く。虫媒で、虫散布。ブナ群網。[G]

**【分布】** 本州（関東～近畿）・四国

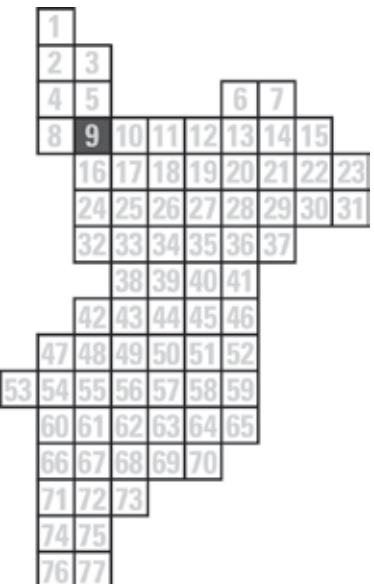
**【県内の状況】** 柏市から報告があるのみである。絶滅した可能性が高い。

**【保護対策】** 県北部の雑木林を精査し、残存個体群を発見する事が望まれる。

**【文献】** 千生誌 1966: 16(1):12 / 千植誌 2003 : 688,682

**【写真】** 1934.3.23 埼玉県 標本: CBM BS-312745

(大場達之/天野誠)



## A ヒメアマナ ユリ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Gagea japonica* Pascher

**【種の特性】** 多年生草本。葉は根生し1枚、幼弱の個体では葉は細く断面多角形の糸状、球茎の充実した個体では葉は平坦。花は4月に咲き、花茎上部に苞葉が数個つき数花をつけ、黄色で、陽を受けて上向きに開く。虫媒で重力散布。地下に黒褐色の球根がある。花は春早くに咲く。キバナノアマナに似ているがはるかに稀。河川の氾濫原の湿った草原、あるいは湿った夏緑林に生える。[G]

**【分布】** 北海道・本州（これまでに知られている産地は東京都志村、埼玉県戸田、筑波山とその周辺、軽井沢、静岡県富士宮市、長野県富士見町、高野山などである）。

**【県内の状況】** 市原市で1970年代に発見された。この産地は1998年春の調査において、ヒメアマナは健在であったがアズマネザサの繁茂で活力が低下し、開花しない状態で、個体数も極めて少ない状態であった。近隣に開発の計画があり、絶滅寸前である。

**【保護対策】** 谷沿いの放置された二次林に生えているので、生育地周辺のアズマネザサなどを刈り取り、林床を明るく保つことが望ましい。

**【文献】** 原寛・佐藤邦雄・黒澤幸子 1974 軽井沢の植物。写真111, 91 / 千植誌2003: 687, 680

**【写真】** 1982. 市原市 平田和弘  
(大場達之/天野誠)



## A ヤエノアマナ ユリ科

2009	
2017	A
2023	A

*Amana edulis* (Miq.) Honda form. *duplexa* Yashiro, Ichihara & Iwase

**【種の特性】** アマナ *Amana edulis* (Miq.) Honda に似るが、雄蕊が弁化して10~20枚の花弁をもつ。花被片の向軸側の先には薬をつけるものが多い。[G]

**【分布】** 本州（千葉県）。

**【県内の状況】** 横芝光町の栗山川河川敷で2009年3月29日に発見された。その時に採集された個体が基準標本となった(Yashiro et al. 2010)。当初は100個体前後が確認されたが、栗山川の自然調査会会員による刈り払い、除草などの管理作業により、現在は1000個体を超える個体数が確認される。

**【保護対策】** 生育地を良好な環境に維持することが望ましい。

**【文献】** Yashiro K., Ichihara Y. & Iwase T. 2010 A New Double-Flowered Form of *Amana edulis* (Miq.) Honda (Liliaceae) from Japan. J. Jap. Bot. 85(5): 333-335

**【写真】** 2011.4.10 横芝光町  
谷城勝弘

(谷城勝弘)



**A オオキツネノカミソリ ヒガンバナ科**

2009	
2017	A
2023	A

*Lyocoris sanguinea* Maxim. var. *kiushiana* Makino

【種の特性】 中型の多年生草本。高さ 50～70cm。鱗茎から花茎を出し、散形花序を付ける。葉は広線形、春に出て、花期の前に枯れる。花はキツネノカミソリより大きく、9～12cm、雄蕊は花被片より少し長い。花期は、9月。湿った林床に生育する。[G]

【分布】 本州・四国・九州。

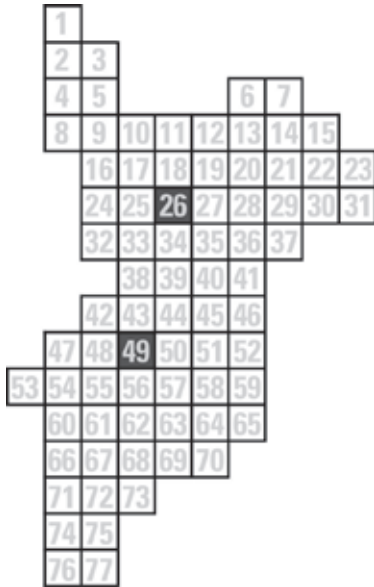
【県内の状況】 袖ヶ浦市で 1995 年 9 月 23 日に採集された標本 (CBM BS-133440) と木更津市で 2019 年 7 月 24 日に採集された標本 (CBM BS-415462) がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 674 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016 247

【写真】 2019.7.24 木更津市 標本: CBM BS-415462

(天野誠)



**A ホソバキジカクシ キジカクシ科**

2009	
2017	A
2023	A

*Asparagus schoberioides* Kunth var. *subsetaceus* Franch.

【種の特性】 中型の多年生草本。高さ 50～100cm。茎は上方で分枝する。葉は、鱗片状に退化し、糸状の葉状枝が 3～7 束生する。雌雄異株。花柄は 1～2mm、花は長さ 2～3mm。虫媒で、鳥散布。花期は、5月～6月。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国 (北部)、ロシア (シベリア以東)。

【県内の状況】 館山市で、2003 年 10 月 25 日に採集された標本 (CBM BS-124140) がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 674 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016 247

【写真】 1997.10.1 館山市 標本: CBM BS-129501

(天野誠)



## A イズイワギボウシ キジカクシ科

2009	
2017	B
2023	A

*Hosta longipes* (Franch. & Sav.) Matsum. var. *latifolia* F.Maek.

【種の特性】 中形の多年生草本。葉は単葉で互生し根生する。花は8～9月。高さ20～40cmの花茎に総状につき淡紫色。虫媒で風散布。[H]

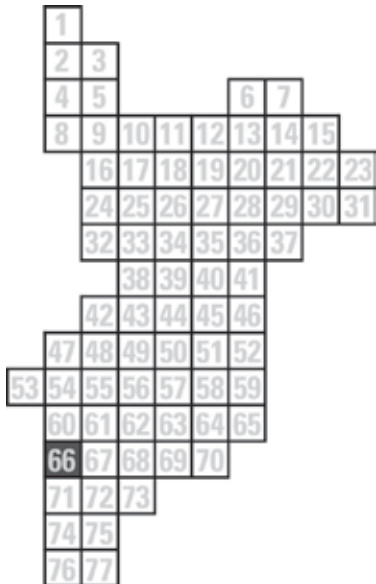
【分布】 北海道・本州・九州。

【県内の状況】 乾いた岩場に生え、県内では富津市に見られる。

【保護対策】 鑑賞目的での採集をしない。

【文献】 改訂新版日本の野生植物 1 2016 251

【写真】 2016.9.2 富津市 木村陽子  
(大場達之/天野誠 追補)



## A ヨウシュンラン ラン科

2009	
2017	A
2023	A

*Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume var. *subaphylla* Ohwi

【種の特性】 小型の多年生草本。葉は楕円形で、1枚か2枚、退化気味で、黄緑色かほぼ白い。花は白く、長さ7～9mm。花期は、5月。虫媒で、風散布。常緑樹林の林床に生育する。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

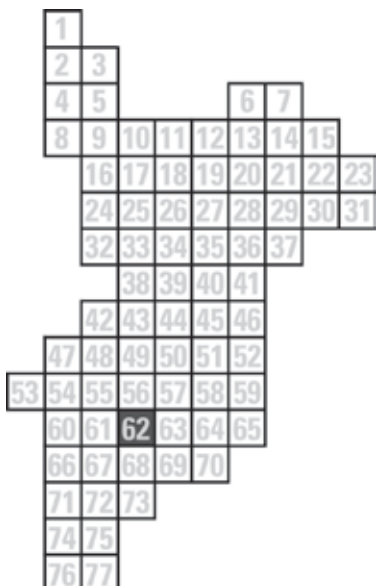
【県内の状況】 鴨川市で2012年5月4日に採集された標本 (CBM BS-325392) がある。

【保護対策】 生育環境の自然林を良好な状態に保護するとともに、観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 千植誌資料 2013 278 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016 189

【写真】 2012.5.4 鴨川市 標本: CBM BS-325392

(天野誠)



A トケンラン ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Cremastra unguiculata* (Finet) Finet

【種の特性】 中型の多年生草本。花茎は1本で高さ30～40cm、根生葉は長蛇円形で縦筋が目立ち、一株に2枚出て地表に広がる。花は5～6月に咲き、側弁は黄褐色で紫色の斑点がある、唇弁は白色で紫色の斑点がある。虫媒で風散布。夏緑林の林床に生える。[H]

【分布】 北海道・本州・四国。朝鮮（済州島）。

【県内の状況】 2003年に木更津市の夏緑樹と照葉樹の混じる二次林ではじめて発見された。個体数は極めて少ない。

【保護対策】 観賞用の採取を行わない。自生地を保全する。

【文献】 保坂誠治・藤平量郎・大場達之・木村陽子 2008 トケンランが千葉県で発見された。千植資料 24：225-226

【写真】 2008. 木更津市 大場達之  
(大場達之/天野誠)



最重要保護  
A

A コアツモリソウ ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Cypripedium debile* Reichb. f.

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で対生、光沢のある葉を茎の先に2枚対生につける。虫媒で風散布。花は5～6月に咲き、深くうなだれて葉の下に隠れる。主としてモミ林の粗腐植層の厚い林床に生える。[G]

【分布】 北海道南部・本州・四国・九州。中国。

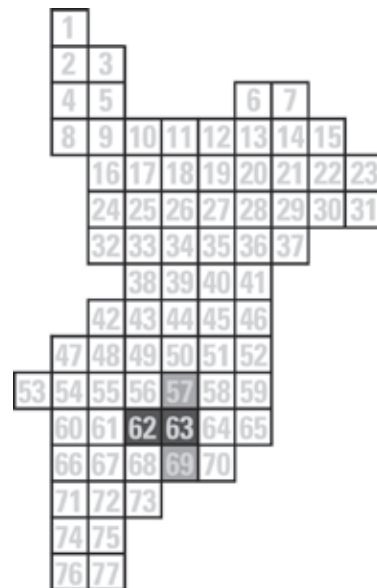
【県内の状況】 清澄山、三石山などに古くから知られているが、もともと個体数が少なく、選択的採取圧もあって少なくなっている。

【保護対策】 生育環境の自然林を良好な状態に保護するとともに、観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 倉田悟 1951 千葉県清澄山のラン科植物。演習林 8：74 / 正宗徹敬・里見信生 1974 北陸の植物 21(4)：63 / 橋本保・神田淳

1981 原色野生ラン：15 (千葉県での写真がある) / 千植誌 2003 910,901

【写真】 1989.4.30 養老溪谷 福田洋  
(大場達之/天野誠)



A セッコク ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Dendrobium moniliforme* (L.) Sw.

【種の特性】 樹木着生性の常緑多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。多肉な茎を叢生し、6月頃香りのよい白～淡紅色の花を咲かせる。巨樹や岩に着生する。[E]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮南部、中国。

【県内の状況】 鴨川市の古木に着生するものは昔から有名であるが、境内が明るくなり乾燥化しているので数は少なくなってきている。そのほか高岩山でも記録されているが少ない。

【保護対策】 観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 倉田悟 1951 千葉県清澄山のラン科植物。演習林 8:74 / 能勢保 1951 千葉県のラン科植物。千植誌基礎資料 1(1):44-50 / 千植誌 2003 922,910

【写真】 宮崎県 大場達之  
(大場達之/天野誠)



A ハチジョウシュスラン ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Goodyera hachijoensis* Yatabe

【種の特性】 常緑多年生草本。茎は地表を這い赤褐色。葉は常緑で互生し、中肋にそって白く刷毛で掃いたような白斑がある。花は9月に咲き、高さ10～15cmほどの花茎を出し、長さ4mmほどの淡褐色の花を密につけ、シナモン様の香りがある。葉に白斑のないものをオオシマシュスランと呼び、ハチジョウシュスランと混生し、千葉県ではこちらの方が多い。[H]

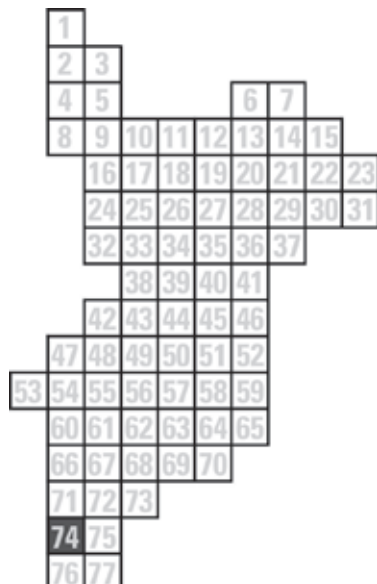
【分布】 本州（関東南部・伊豆諸島）・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】 オオシマシュスランは1998年に御宿町ではじめて記録され、その後2006年に館山市のいくつかの場所でハチジョウシュスランとともに見つかった。気候温暖化による分布の拡大と考えられる。館山市の産地からはハチジョウシュスラン、オオシマシュスランが大量に生育する伊豆大島が指呼の間に見える。

【保護対策】 鑑賞目的などでの採取を行わない。

【文献】 千植誌 2003:918,907

【写真】 2008. 館山市 大場達之  
(大場達之/天野誠)



## A カゴメラン ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Goodyera hachijoensis* Yatabe var. *matsumurana* (Schltr.) Ohwi

【種の特性】常緑多年草。ハチジョウウシスランに極めて近縁の変種で、葉には全体に網目状の細い白斑がある。(H).

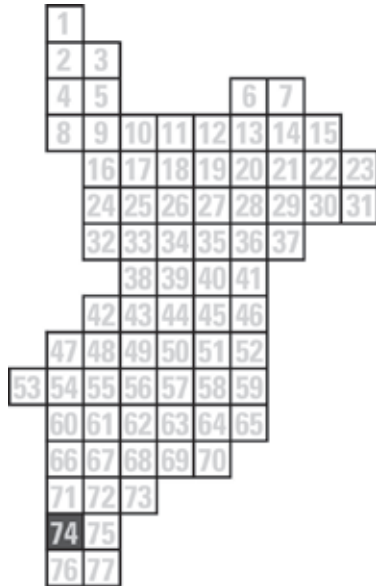
【分布】本州（関東南部・伊豆諸島）・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】2007年に館山市で発見された。ハチジョウウシスラン、オオシマシスランと混生するが個体数は少ない。

【保護対策】鑑賞目的などでの採取を行わない。

【文献】改訂新版日本の野生植物 1 2016：204

【写真】2007 館山市 大場達之  
(大場達之/天野誠)



## A ダイサギソウ ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Habenaria dentata* (Sw.) Schltr.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。高さ60cmほどになる。花は8～9月に咲き白色。湿った草地や土手に生える。[G]

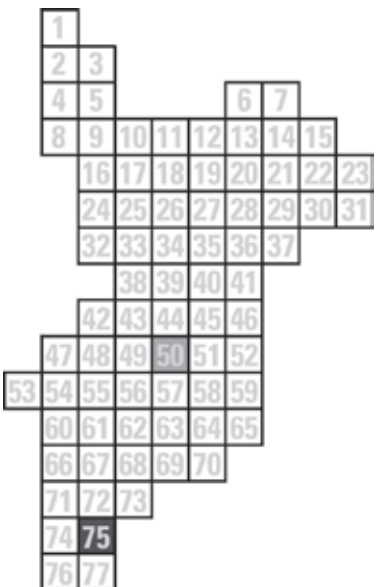
【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、熱帯アジア。

【県内の状況】館山市、市原市（1956）のほか南房総市などの報告があるが詳細な産地は明らかでない。美しい草なので標本は多く残されているが、実際の産地は限られており、同一地点で複数回採集されていることが多い。現在確かな産地は極めて少ない。全体が大形ではなはだ目立った白い花を群がりつけるので観賞用に採取される危険が大きい。

【保護対策】二次的な草地に生えるので、草地の刈り取りを従前通り行うことが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】浅野貞夫 1950 千葉県にダイサギソウ自生す。採集と飼育 12(6)：188-189 / 角田実 1956 千葉生物誌 9(4)：94-96. / 千植誌 2003：911,901

【写真】1985 高知県 大場達之  
(大場達之/天野誠)



## A ムカゴトンボ ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Habenaria flagellifera* Makino

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。群れて生えることは少ない。花は緑色で小さく夏に咲く。葉はややオオバノトンボソウに似る。湿った粘土質の崖や湿地などに生える。[G]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】茂原市～長生村にかけての湿地と成東・東金食虫植物群落地から記録されている。最も新しい記録は2001年である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。既知の産地と同質に見える環境はあちこちに見られるが実際に生育する場所は極めて限られている。微妙な環境の質を要求する種と考えられる。



る環境はあちこちに見られるが実際に生育する場所は極めて限られている。微妙な環境の質を要求する種と考えられる。

【文献】千葉県 1978 第2回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書／千植誌 2003：912,902.

／千植写真 2005：364

【写真】（左）1993.9.2. 山武市 能勢正代  
／（右）鹿児島県 大場達之  
（大場達之／天野誠）



## A オオミズトンボ ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Habenaria linearifolia* Maxim.

【種の特性】中型の多年生草本。茎は断面が円形で高さ40～50cm、葉は単葉で互生。花は8月に咲き、白色で長い距がある。唇弁の側裂片は側方に開出し鋭い鋸歯がある。虫媒で風散布。湿原に生える。[HH]。別名サワトンボ。

【分布】北海道（西南部）・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】山武市から茂原市にかけての地域と、市原市が知られている。

【保護対策】観賞用の採取を行わない。自然的な湿地を保全する。

【文献】千植誌 2003：912.902



【写真】2008.9.3 山武市 能勢正代  
（大場達之／天野誠）





## A ムカゴソウ ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Herminium lanceum* (Thunb.) Vuijk var. *longicrure* (C.Wright) H.Hara

【種の特性】 夏緑多年生草本。茎は20～40cm。葉は単葉で細く2～3枚が互生。花は夏に咲き淡黄緑色で唇弁のみが細長く先端は3裂するが、中裂片はごく短い。虫媒で風散布。湿原と湿った土手の草地などに生える。[H～G]

【分布】 北海道・本州。朝鮮、中国、ウスリー、アムール。

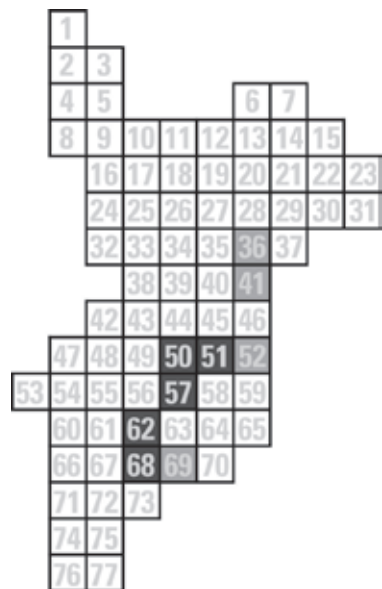
【県内の状況】 茂原市～長生村の湿地と、山武市から清澄山にかけての丘陵に分布するが、個体数は少ない。

【保護対策】 湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：913,903

【写真】 2000.7.5 市原市 平田和弘

(大場達之/天野誠)



## A カゲロウラン ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Hetaeria agyokuana* (Hukuy.) Nackej.

【種の特性】 常緑多年草。茎は地表を這い先端は直立し、3枚ほどの葉を集めつる。葉は濃緑色で縁が波打つ。9月頃葉の集まりの中心から高さ15～25cmの花茎を出す。側萼片は緑色でやや下方に開出する。上萼片は赤みを帯びた緑色、内花被片は淡黄色。照葉樹林のやや乾いた尾根筋などに生える。(H)

【分布】 本州（関東南部）・伊豆諸島・四国・九州。台湾。

【県内の状況】 2002年に館山市の数ヶ所で発見された。近接する伊豆大島には、かなり大きな群落があるので、その方面から比較的近年に由来したと考えられる。オオシマシスランと混生して

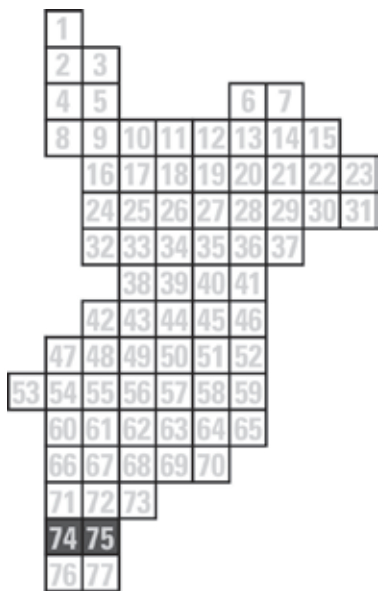
見られ、花の時期も同じである。

【保護対策】 鑑賞目的などの採取を行わない。

【文献】 迫田昌宏・玉井明子・中尾茂樹 2003 千植資料(2003)19:146-147 / 千植誌 2003：906,918

【写真】 2008. 館山市 大場達之

(大場達之/天野誠)



## A ヒメノヤガラ ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Hetaeria sikokiana* (Makino & F.Maek.) Tuyama

**【種の特性】** 小型で無葉菌根性の多年生草本。高さ5～15cmで無葉。花は7～8月に咲き、筒状で平開しない。虫媒で風散布。全体に赤褐色を帯びる。尾根筋のモミ林あるいはスギ林の林床に生える。カクレミノースダジイ群目。[G]

**【分布】** 本州・四国・九州。

**【県内の状況】** 清澄山周辺には古くから知られているが、近年鴨川市からも発見された。個体数は極めて少ない。1995年に生育を確認している。

**【保護対策】** 生育地である森林の環境を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 前川文夫 1981 原色日本のラン：248。／千植誌 2003：918,906

**【写真】** 1996.7. 君津市 大場達之

(大場達之／天野誠)



## A ギボウシラン ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Liparis auriculata* Blume ex Miq.

**【種の特性】** 多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。クモキリソウに似て葉が幅広く、基部が心形になる。夏緑林に生える。[H]

**【分布】** 北海道・本州・四国・九州。

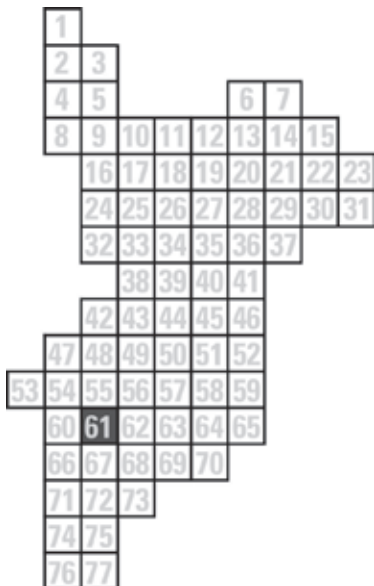
**【県内の状況】** 1977年に高岩山の産地が報告されている。

**【保護対策】** 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

**【文献】** 浅野貞夫 1977 ギボウシラン房総半島南部に自生する。植物採集ニュース 89：53-54。／千植誌 2003：920,908

**【写真】** 八丈島 能勢保所蔵標本

(大場達之／天野誠)



## A ジガバチソウ ラン科

2009	B
2017	A
2023	A

*Liparis krameri* Franch. & Sav.

【種の特性】 多年生草本。葉は2枚で葉の縁は細かく波曲する。花は6月頃に咲き緑がかった紫褐色。虫媒で、風散布。[H]

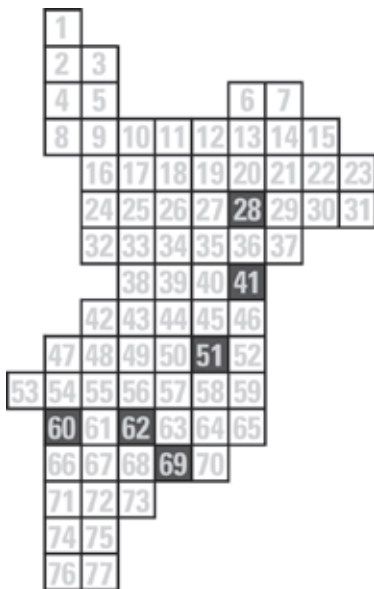
【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 県内の主として太平洋側の各地から報告があるが、確実な産地は少ない。花期以外の観察記録はクモキリソウの誤認の可能性がある。

【保護対策】 鑑賞目的などの採取を行わない。

【文献】 千植誌 2003：920, 908

【写真】 1986.6.14 大網白里市 福田洋  
(大場達之／天野誠)



## A ヒメフタバラン ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Listera japonica* Blume

【種の特性】 小形の多年生草本。葉は単葉で茎の中間に2枚向かい合ってつく。花茎は細く、細毛がある。花は3～4月に咲き帯紫褐色。照葉樹林、モミ林あるいはスギ林などに生える。虫媒で風散布。

【分布】 本州・四国・九州・琉球。

【県内の状況】 清澄山、高岩山およびその周辺から報告されており、どこでも個体数は少ない。

【保護対策】 鑑賞目的などの採取をしない。

【文献】 千植誌 2003：914, 904

【写真】 1995.4.9 君津市 福田洋  
(大場達之／天野誠)



## A ニラバラン ラン科

2009	B
2017	A
2023	A

*Microtis unifolia* (G.Forst.) Rchb.f.

**【種の特性】** 多年生草本。湿ったあぜ道や土手、海岸のクロマツ林の下などに生える。葉は単葉で根生、細く円柱状。虫媒で風散布。群生することが多い。地下に丸い球根をつくる。[G]

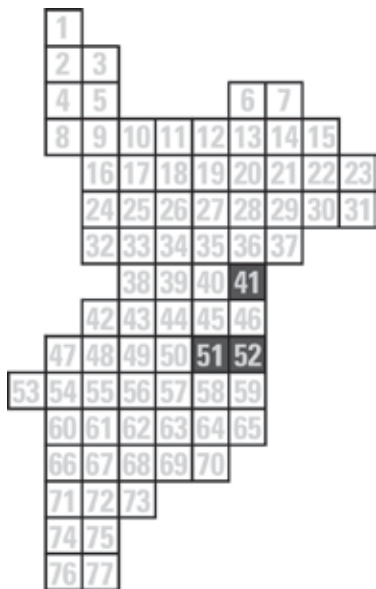
**【分布】** 本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球。南アジア、オーストラリア、ニュージーランド。

**【県内の状況】** 九十九里浜平野で記録され、山武市、長生村、一宮町から報告があるが、近年は採集されていない。

**【保護対策】** 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

**【文献】** 能勢保 1951 千葉県のラン科植物. 千植誌基礎資料 1(1):44-50 / 正宗巖敬・里見信生 1965 北陸の植物 13(3) : 65 / 千植誌 2003 : 915, 905

**【写真】** 1995. 一宮町 大場達之 (大場達之/天野誠)



## A フウラン ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Neofinetia falcata* (Thunb.) Hu

**【種の特性】** 常緑多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。6月に白色で長い距をもった香り高い花をつける。照葉樹などの樹幹・樹枝に着生する。岩に着生することもある。[E]

**【分布】** 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。中国。

**【県内の状況】** かつては社寺や民家の樹木に着生するものが見られたが、大気汚染・着生する樹木の減少、環境の乾燥化、選択的採取によって著しく減少している。

**【保護対策】** 観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

**【文献】** 正宗巖敬・里見信生 1963 北陸の植物 12(2) : 33. / 千植誌 2003 : 923,910

**【写真】** 2007.7.5 睦沢町 谷城勝弘 (大場達之/天野誠)



## A ツクシサカネラン ラン科

2009	
2017	X
2023	A

*Neottia kiushiana* Hashim. & Hatus.

【種の特性】 菌類に寄生する多年生草本。照葉樹の腐植土に生える。茎は高さ 20cm ほど、地下の根茎から 1～数本の茎を出し基部に無葉緑の鱗片状の葉がある。花は 6月に咲き、花被片は白色透明でのちに淡い褐色に変わる。[G]

【分布】 関東、本州中部（愛知県北部）、九州南部。韓国（済州島）。

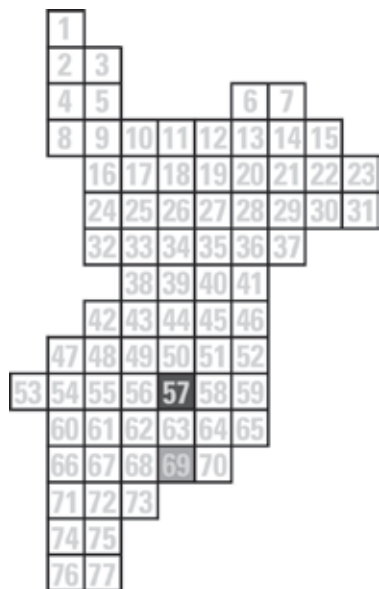
【県内の状況】 1958年に清澄山で採集され、サカネラン属の1種と同定されていたが詳しく研究されず、のちに鹿児島県鶴田町で採集されツクシサカネランとして記載された種と同一種であることが明らかにされた（遊川ら 2009）。2010年代に大多喜町で、写真で記録されている。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 遊川知久 2014 ツクシサカネラン In 岩科司・海老原淳編 ウォッチング日本の固有植物 14-17

【写真】 1958.6.15 清澄山 清水大典採集国立科学博物館所蔵標本 TNS 307293. 大場達之

(大場達之/天野誠 追補)



## A ムカゴサイシン ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Nervilia nipponica* Makino

【種の特性】 多年生の小形草本。地下に塊茎があり、塊茎から直上する地下の茎の途中から横に細い地下茎を出し、その先端に新しい塊茎をつけ、数個体がやや集まって生える。葉は花の後にでて五角状円形で1枚。花は5月で、細い褐色の花茎の先に1花をつけ、やや下向きに半開状態で咲く。萼片は緑褐色、内花被片は白色で紅紫色の斑紋がある。虫媒。風散布。夏緑樹の二次林とヒノキ林の下で見つかった。(G)

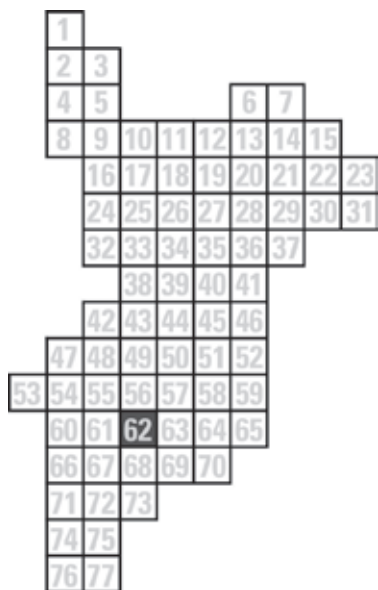
【分布】 本州（関東以南）・伊豆諸島・四国・九州・琉球。千葉県周辺では伊豆大島、東京都目黒区、栃木県、神奈川県三浦半島などでの記録があるが極めて稀である。

【県内の状況】 君津市で 2007年に発見された。

【保護対策】 無用の採集を慎む。自生地周辺の環境を保持する。

【文献】 大野啓一 2007 房総半島におけるムカゴサイシンの発見. 千葉県植物誌資料 23: 197-198

【写真】 2008.5.28 君津市 大場達之 (大場達之/天野誠)



## A アワチドリ ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Orchis graminifolia* (Rchb.f.) Tang & F.T.Wang var. *suzukiana* Ohwi

**【種の特性】** 小型の多年生草本。葉は単葉で根生。虫媒で風散布。地下に丸い球根をつける。花は淡紅紫色に濃い紅紫色の斑点がある。花期は6月。日陰から半日陰の岩場の岩隙などに生える。イワキンバイ群目。[E]

**【分布】** 本州。房総半島に固有。

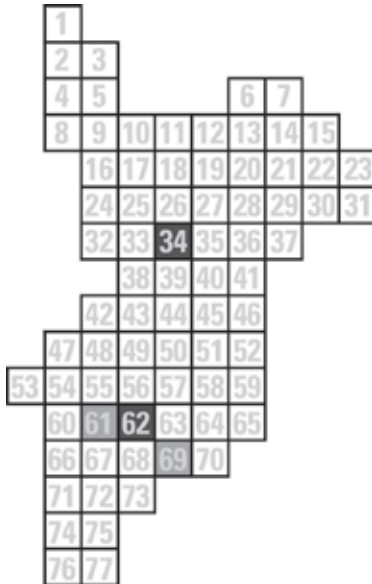
**【県内の状況】** 房総丘陵南部に多くの産地が知られていた。はじめウチョウランとして知られていたが、採集品をもとにウチョウランの変種として識別した。ウチョウランの地方変異の一つである。観賞用の採取のため激減し、現在確実な産地は知られていない。高価に取り引きされるために、かつては岩場にザイルを用いて根こそぎ採取していたという。現在でも県内外の山草屋において高価に販売されている。このほか本種に近似するものが鴨川市にあり、山草家の間でガンコランと呼ばれているというが、植物学的な検討は行われておらず、現地では絶滅し、山草愛好家の間で栽培品のみが残っている。

**【保護対策】** 観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。本来の生育地は急峻な崖で、通常は人為が及ばぬ場所であるから、採取行為を停止すれば個体群が復活する可能性が高い。

**【文献】** 大井次郎 1969 アワチドリ。植物研究雑誌 44(2):47 / 橋本保・神田淳 1981 原色野生ラン: 32 / 大場達之 1996 千葉県自然誌本編 1: 311-312. / 千植誌 2003

**【写真】** 1998. 君津市 尾崎煙雄

(大場達之 / 天野誠)



## A コケイラン ラン科

2009	B
2017	A
2023	A

*Oreorchis patens* (Lindl.) Lindl.

**【種の特性】** 中形の多年生草本。主にブナ帯の湿った夏緑樹林の下に生える。地下に球状の偽茎があり、葉は細長く1~2枚。花は5月に総状花序をなして咲き、淡黄褐色、唇弁は白色。虫媒、風散布。[G]

**【分布】** 北海道・本州・四国・九州。南千島、サハリン、朝鮮、中国東北部、ウスリー、カムチャッカ。

**【県内の状況】** 富里市内で2003年に1個体のみが発見された。種子の飛来による偶発的な分布とも考えられ、今後精査が必要である。

**【保護対策】** 採取を行わない。

**【文献】** 折目庸雄 2008 増補訂正富里の植物 / 千植誌 2003: 921, 909

**【写真】** 1982 長野県 大場達之

(大場達之 / 天野誠)



## A ミズチドリ ラン科

2009	B
2017	A
2023	A

*Platanthera hologlottis* Maxim.

【種の特性】中からやや大形の多年生草本。高さ60～80cm。葉は単葉で4～5枚が互生。花は6～7月に咲き白色の花を密に総状につける。虫媒で風散布。湿原に生える。ヨシ群綱。[G]

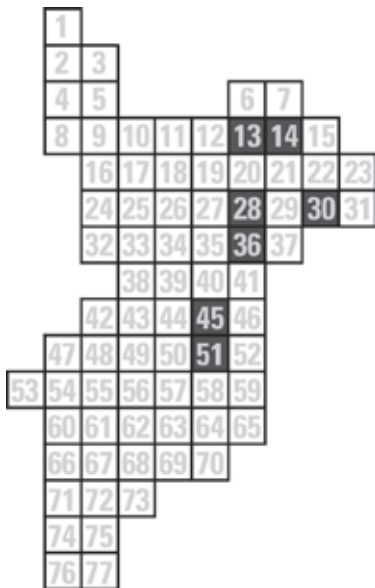
【分布】北海道・本州・四国・九州。千島、朝鮮、中国東北部、東シベリア。

【県内の状況】栗山川流域と、山武市から茂原市にかけての九十九里低地、利根川沿岸の一部に分布が限られている。まとめて生え、花が目立つので、盗掘を受けやすい。

【保護対策】鑑賞などの目的などの採取をやめる。湿原の環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 912, 903

【写真】2000 山武市 大場達之  
(大場達之/天野誠)



## A イイヌマムカゴ ラン科

2009	
2017	X
2023	A

*Platanthera iinumae* (Makino) Makino

【種の特性】小型の多年生草本。大きな葉は二枚で、長楕円形で厚い。花は3mmで、唇弁は三裂し、距は棍棒状。虫媒で、風散布。花期は、7月から8月。湿地に生育する。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州

【県内の状況】清澄山で1932年、1938年8月、1956年7月29日に採集された標本(CBM BS-237807、160705、166277)がある。また君津市で、採集した記録が、千植誌1956と新千葉植誌1975(採集された年は不明)に記載されている。1994年に調査した時には、発見できなかった。標本の新しい記録はない。

【保護対策】生育地の林縁を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 399 / 新千植誌 75 445 / 三石山郷土環境保全地域(1994) 107 / 千植誌 2003 913-914

【写真】1932 清澄山 標本: CBM BS-234807

(天野誠)



## A カシノキラン ラン科

2009	X
2017	A
2023	A

*Saccolabium japonicum* Makino

【種の特性】常緑多年生草本。葉は単葉で互生。花は淡黄色、虫媒で風散布。照葉樹林の樹幹に着生する。[E]

【分布】本州（中南部）・本州・四国・九州・琉球。台湾。

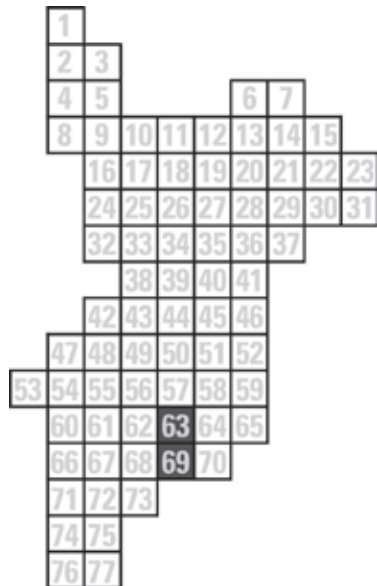
【県内の状況】清澄山に知られているが盗採のために激減した。最新の記録は清澄山での採集標本である（2016.5.7 CBM BS-371413）。

【保護対策】かつての生育環境を良好に維持する。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】倉田悟 1951 千葉県清澄山のラン科植物。演習林8：75 / 正宗巖敬・里見信生 1968 北陸の植物16(4)：95 / 千植誌 1975：445. / 千植誌 2003：923,910

【写真】1998. 宮崎県 大場達之

(大場達之/天野誠)



## A マツラン ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Saccolabium matsuran* Makino

【種の特性】常緑多年生草本。主にモミあるいはカヤの樹幹に着生。葉は互生し質厚く、密につき暗紫色の斑点がある。花は5～6月、黄緑色で暗紫色の斑がある。虫媒で風散布。(E)

【分布】本州（宮城県以南）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】かつては九十九里浜のクロマツ林に多く見られたという。清澄山と三石山で記録されているが、激減し絶滅の可能性が考えられたが、2007年に君津市で自生地が発見された（台風による落下個体）。

【保護対策】園芸目的などの採取を行わない。自生地の環境を良好に保全する。

【文献】千植誌 2003：923,910

【写真】1985 奈良県 大場達之

(大場達之/天野誠)



## A オオハクウンラン ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

*Vexillabium fissum* F.Maek.

**【種の特性】** 小型の常緑多年生草本。葉は単葉で互生。花は7月に咲き白色で唇弁が目立つ。虫媒で風散布。ハクウンランによく似ているが全体に大形である。ハクウンランと同種と考える説もある。ハクウンランはシイ・カシ帯上部からブナ帯下部のやや明るい夏緑林の中に生えるが、オオハクウンランは暗い照葉樹林あるいは竹林の下の厚い腐植層のあるところに生える。カクレミノースダジイ群目。[Ch]

**【分布】** 本州（伊豆諸島、房総半島、三浦半島）。

**【県内の状況】** 清澄山、千葉市からの報告がある。小形で目立たない植物で群れて生えることが少ないので記録されることが少ないが、実際の分布はさらに広いと考えられる。

**【保護対策】** 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしない。

**【文献】** 新千植誌 1975：445 / 千植誌 2003：917, pl.907

**【写真】** (左) 1985 三浦半島 大場達之 / (右) 1997 千葉市 小田嶋晴子

(大場達之 / 天野誠)



## A ユウスゲ アスフォデラ科

2009	X
2017	A
2023	A

*Hemerocallis vespertina* H.Hara

**【種の特性】** 多年生草本。葉は単葉で互生。花は夕刻に咲き出し、レモン黄色で、香りがある。虫媒で重力散布。自然なススキ草原などに生える。低地遺存ブナ帯要素。ススキ群綱。[G]

**【分布】** 本州・四国・九州。

**【県内の状況】** 1971年に館山市の道路法面の草地から報告したが、1997年の採集地の確認において発見されなかった。絶滅したものと考えられる。

**【保護対策】** 回復は難しい。日本のブナ帯には各地に分布し、シイ・カシ帯にも点々と知られているが、それらは場所ごとに草丈、花の色、形、香りなどに変異が見られ、房総半島の物がどのような地域変異型であったかは明らかでない。たとえ近くとはいえ、別の自生地から種子などを導入して復活を測るのは慎重な検討を要する。

**【文献】** 浅野貞夫 1971 房総半島にユウスゲが自生する。植物採集ニュース 58：94 / 千植誌 2003：685, 679

**【写真】** 1990.8. 京都府 大場達之 (大場達之 / 天野誠)



## A トダスゲ カヤツリグサ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Carex aequalta* Kük.

【種の特性】多年生草本。風媒で重力散布。頂小穂は線形で次の雌小穂より短い。果胞は卵円形で膨らみ、短い嘴がある。河畔の草地に生育する。

【分布】本州・九州（稀）。中国。

【県内の状況】横芝光町で確認された（2008.5.25 CBM BS-259722）。10m<sup>2</sup>程の範囲に30個体前後の生育がある。生育地は夏季にはヨシ、オギなどの大型多年草が繁茂するが、年に1回の刈り取りまたは野焼きが行われ、スゲ類をはじめとする小型草本の生育が維持されている。同所は春にはヒキノカサ、エキサイゼリ、コヒロハハナヤスリ、ハナムグラなどの稀少種の群生がある。

【保護対策】トダスゲは日本で極めて稀な存在であり、同所的に生育するヒキノカサ、エキサイゼリなども保護対応すべき稀少種である。このような複数の種が同所的に生育する当該の箇所を保護地として管理してゆくことが望ましい。

【文献】市原・谷城（未発表）：千葉県のとダスゲ

【写真】2008.5.25  
横芝光町 谷城勝弘  
(谷城勝弘/天野誠  
追補)



## A ベンケイヤワラスゲ カヤツリグサ科

2009	
2017	
2023	A

*Carex benkei* Tak.Shimizu

【種の特性】多年生草本。ヤワラスゲ *Carex transversa* Boott やアワボスゲ *C. nipposinica* Ohwi に似るが、茎の基部はほとんど赤紫色に着色せず、雌鱗片は芒を除いた部分の長さが果胞とほぼ同長。果実の頂部にしばしば環状の付属体構造をもつ。[HH]

【分布】本州（茨城、千葉、三重、和歌山、京都、山口）、四国（香川）、九州（佐賀、大分、熊本）。中国。

【県内の状況】2010年5月に横芝光町で2個体の生育が確認された。その後河川敷での刈り払いが中断され、3年後には生育の確認が困難となった。

【保護対策】生育地の河川敷における刈り払いなどの管理を継続し、小型草本が維持される環境を創出することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 2012 千葉県初記録のベンケイヤワラスゲ. 千葉生物誌. 62(1) 39./ Shimizu T. 2009. *Carex benkei*, a new species of *Carex* (Cyperaceae) from Japan and China. *Acta Phytotax. Geobot.* 60(1): 41-46

【写真】2011.5.1 横芝光町  
谷城勝弘  
(谷城勝弘)



## A ヤマアゼスゲ カヤツリグサ科

2009	B
2017	A
2023	A

*Carex heterolepis* Bunge

**【種の特性】** 多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。果胞は脈も毛もなく、上端は急に短いくちばしとなり、口部は2歯状。風媒で水散布。[HH] ヨシ群綱。

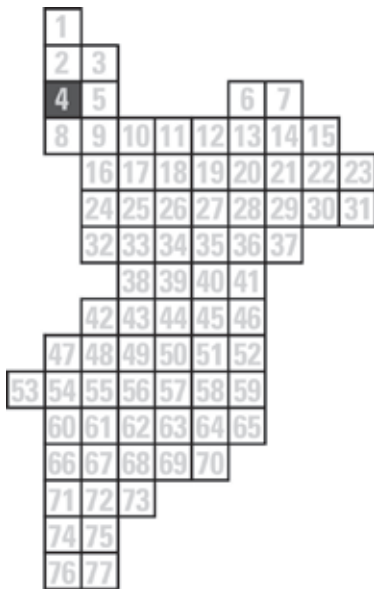
**【分布】** 北海道・本州・九州。朝鮮、中国。

**【県内の状況】** 野田市の確認記録がある。報告書によれば、生育地は江戸川を横切る野田線の南側のヨシ原で、ウマスゲ、アゼスゲ、エナシヒゴクサ、カンエンガヤツリなどの多くのカヤツリグサ科が見られたという。本種の生育本拠地は北関東域の山地にあり、利根川上流域に生育する個体または種子が流下して一時的に定着したものと考えられる。

**【保護対策】** 湿地を保全することが望ましい。

**【文献】** 土屋守 1983 千葉県野田市のヤマアゼスゲとカンエンガヤツリ. レポート日本の植物 16 : 149-150 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物. 新版千葉県の生物 : 37-50 / 千植誌 2003 : 830 / 千植写真 2003 : 370

**【写真】** 1990  
群馬県 谷城勝弘  
(谷城勝弘)



## A ムジナスゲ カヤツリグサ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Carex lasiocarpa* Ehrh. var. *occultans* (Franch.) Kük.

**【種の特性】** 多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。葉幅 1.5 ~ 3mm。地下走出枝が長く伸びて繁殖する。果胞に密毛がある。湿地性。ホソバノヨツバムグラ大形スゲ群団。[HH]

**【分布】** 北海道・本州（中北部）に稀産。千島、サハリン、朝鮮、シベリア東部。千葉県は分布の南限。

**【県内の状況】** 1988年に多古町で発見された（1989.4.16 CBM BS-145391）。ムジナスゲは湿原中央部のカモノハシによる谷地坊主の発達した凹地を中心に点在している。2008年の調査では本種の生育が確認できなかった（谷城・市原、未発表）。定期的刈り取りの中止によって、消滅した可能性がある。

**【保護対策】** 生育地はヨシ・スゲ類が優占し、毎年冬期にヨシの刈り取りが継続されてきた箇所である。

刈り取りによってヨシ、セイタカアワダチソウなどの高茎草本の繁茂が抑えられ、小型の草本類の生育が維持されてきた。刈り取り管理を継続するとともに複数の県内稀少種を育む多古光湿原を保護・保全の重点地域とすることが望ましい。

**【文献】** 伊藤至 1988 高等植物分布資料 (126) ムジナスゲ. 植物研究雑誌 64(2) / 谷城 1990 調査会目録 : 114 / 谷城勝弘 1991 調査会目録 : 167 / 谷城勝弘 1993 調査会目録 : 250 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物. 新版千葉県の生物 : 37-50 / 千植誌 2003 : 855,843 / 谷城勝弘 2004 栗山川中流部の湿原の植物. 千葉県自然環境保全学術調査報告書. 千葉県環境生活部自然保護課 : 7-29 / 千植写真 2005 : 360

**【写真】** 1991.5.10 多古光湿原 谷城勝弘

(谷城勝弘)



**A アズマスゲ** カヤツリグサ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Carex lasiolepis* Franch.

**【種の特性】** 常緑多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。全草に毛が密生する。森林性。乾燥した夏緑林または照葉樹林の林床、特に尾根筋に見られる。低地遺存ブナ帯要素。[H]

**【分布】** 北海道・本州・九州。

**【県内の状況】** 清澄山における2点の採集品が千葉県立中央博物館に収蔵されている(1963.3.27 CBM BS-12091)。日本スゲ属植物図譜(第68図)には清澄山産のものが用いられている。神奈川県立生命の星・地球博物館には1953年4月9日採集の標本がある(KPM12553)。清澄山産のものはかつての寒冷な時代の遺存と思われる。清澄山系の継続的な調査によって2005年に再発見された。

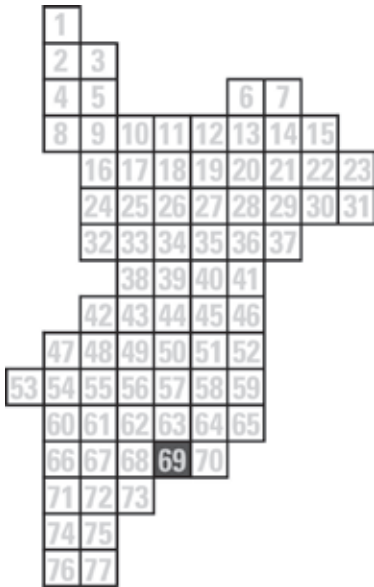
**【保護対策】** 清澄山系の尾根筋には生育地が残っている可能性があるため、この地域一帯の保護が望ましい。

**【文献】** 千植誌 1958: 410

／谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物・新版千葉県の生物: 37-50 千植誌 2003: 845,843

**【写真】** 2005.3.31 清澄山 谷城勝弘

(谷城勝弘)



**A カタスゲ** カヤツリグサ科

2009	A
2017	B
2023	A

*Carex macrandrolepis* H.Lév.

**【種の特性】** 多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。根茎は長く匍匐し、暗褐色の繊維が著しくつく。森林性または草地性。[H]

**【分布】** 本州(千葉県以西)・伊豆大島・九州。朝鮮南部、台湾。

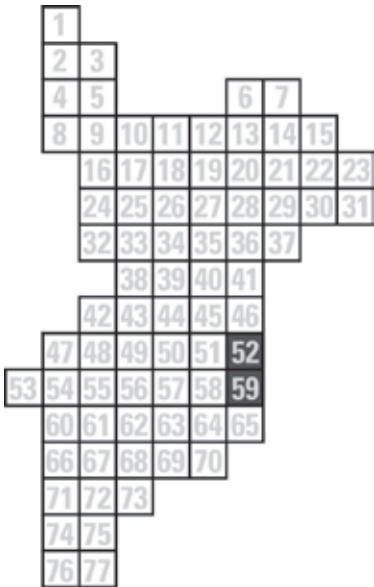
**【県内の状況】** 1991年にいすみ市で確認された(1991.5.4 CBM BS-144498)。生育地周辺では際立って個体数が多く、林内や生垣にも生える。周辺域への広がりには少なく、生育範囲は3ha以内と推定される。

**【保護対策】** 生育環境を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 谷城勝弘 1992 調査会目録: 159 / 谷城勝弘 1993 調査会目録: 246 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物: 37-50 / 千植誌 2003: 843,846。 / 千植写真集 2005: 360

**【写真】** 1996.5.24 いすみ市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



## A ヌマクロボスゲ カヤツリグサ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Carex meyeriana* Kunth

**【種の特性】** 多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。細くて硬い種で、葉は灰緑色で幅1～1.5mm。湿地性。[HH] ホソバノヨツバムグラ-大形スゲ群団。

**【分布】** 本州（中北部）・九州の湿原。朝鮮、中国（東北）、シベリア東部。

**【県内の状況】** 1988年に多古町で確認された(1988.4.24 CBM BS-79643)。1990年代までは湿原でのヨシの刈り取り作業が広範囲に継続されていたが、2000年代は刈り取り範囲が急減した。そのため、ヨシ、セイタカアワダチソウなどの大型草本が繁茂し、消滅する個体が急増した。

**【保護対策】** 多古光湿原はヨシ・スゲ類の優占する湿地で、毎年冬期にヨシの刈り取りが継続されてきた。刈り取りによってヨシの純群落への移行が抑えられ、小型の草本類は生育を維持してきた。本県における稀少種の維持のために刈り取り継続の方策を検討することが望ましい。

**【文献】** 谷城勝弘 1987 栗山川中流部の湿原。千葉県自然環境保全地域等適地調査報告書Ⅱ：265-297 / 伊藤至 1988 千葉県の新記録エゾツリスゲとヌマクロボスゲ。レポート日本の植物 37：165 / 谷城 1990 調査会目録：113 / 谷城 1991 調査会目録：164 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原。千葉県自然環境保全学術調査報告書：7-56 / 谷城 1993 調査会目録：249 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：116 / 谷城 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物：37-50 / 千植誌 2003：832,822 / 谷城勝弘 2004 栗山川中流部の湿原の植物。千葉県自然環境保全学術調査報告書。千葉県環境生活部自然保護課 7-29 / 千植写真 2005：360

**【写真】** 1993.5.5 多古光湿原 谷城勝弘

(谷城勝弘)



## A ビロードスゲ カヤツリグサ科

2009	A
2017	A
2023	B

*Carex miyabei* Franch.

**【種の特性】** 多年生草本。疎らに叢生して長い根茎をつける。果胞はピロード状の毛が密生し、嘴は長い。風媒で、重力散布。[H]

**【分布】** 北海道・本州・九州。

**【県内の状況】** 佐倉市で確認された(2008.5.11 CBM BS-259784)。生育地は鹿島川支流に位置し、セイタカアワダチソウ、オギ、アズマネササなどが繁茂する放棄湿地である。生育範囲は幅3～4m、長さ20m以上に及ぶ。

**【保護対策】** 生育地は放置され、大型多年草の侵入が顕著である。刈り取りなどの管理を実施し、保全することが望ましい。

**【文献】** 木村研一 2008 佐倉市においてピロードスゲを確認。千葉生物誌 58(1): 26

**【写真】** 2008.5.11 佐倉市

谷城勝弘

(谷城勝弘)



## A タシロスゲ カヤツリグサ科

*Carex sociata* Boott

2009	
2017	
2023	A

**【種の特性】** 多年性草本。葉は硬く暗緑色で縁はざらつき、有花茎よりも長い。基部の鞘は遷移に分解する。頂小穂は雄性、雌性の側小穂は1節に1～4個をつける。果胞は長さ約3mm、有毛で口部は2歯。果実の先端は短い円柱状となる。[H]

**【分布】** 九州南部（宮崎県、鹿児島県）、琉球。台湾。

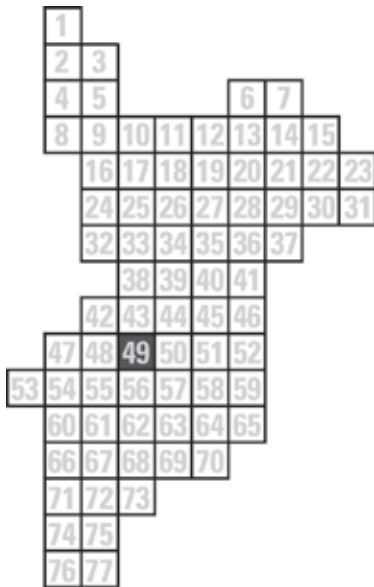
**【県内の状況】** 2018年4月に木更津市のヒノキ林で2個体の生育が確認された。2020年に同地を調査した際は種子発芽によると思われる3株の幼個体も確認された。

**【保護対策】** 生育地おける刈り払いなどの管理を継続し、小型草本が維持される環境を創出することが望ましい。

**【文献】** 谷城勝弘 2020 千葉県初産のタシロスゲを木更津市で発見。千生誌。69(2):41-42

**【写真】** 2018.5.10

木更津市 谷城勝弘  
(谷城勝弘)



## A ムギガラガヤツリ カヤツリグサ科

*Cyperus unioloides* R.Br.

2009	A
2017	A
2023	A

**【種の特性】** 中形の夏緑多年草。地下に横走る短い地下茎があり、秆は直立し高さ40～60cm。秆の貴部から出る葉は秆よりも短く幅3～4mm、枯葉は著しく螺旋状。花は9月。小穂は扁平で秆の上端に集まり短い柄があり、別に1～2個の長い柄の先に3～4個の小穂をつける、小穂は長さ15mm、5mmほど。小穂の鱗片は基部半ば花軸をつつみ、鱗片の着点は裸出している。花柱は先端2裂。雄蕊は3本。花糸は花後伸張して扁平となる。瘦果は黒色でやや光沢があり、低いコブ状の凹凸がある。

**【分布】** 本州（千葉県以西）・四国西部・九州。世界の熱帯に広く分布。栃木県からの報告もあるが、これは標本を検したところ、近似したタチガヤツリであった。

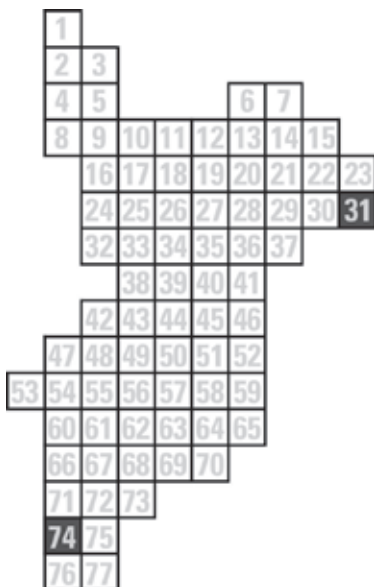
**【県内の状況】** 銚子市で1951年9月2日に採集され、2004年9月16日に同じ場所で再発見した。

**【保護対策】** 自生地の湿地を保全する。

**【文献】** 大場達之 2004 53年ぶりに再発見された銚子のムギガラガヤツリ。千植誌資料 20:163-164

**【写真】** 2004.9.16 銚子市 大場達之

(大場達之/天野誠)



## A ヤリハリイ カヤツリグサ科

2009	B
2017	A
2023	A

*Eleocharis congesta* D.Don var. *subvivipara* Fisch.

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。穂は線状披針形で結果率は極めて低い。湿地性。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、インド。

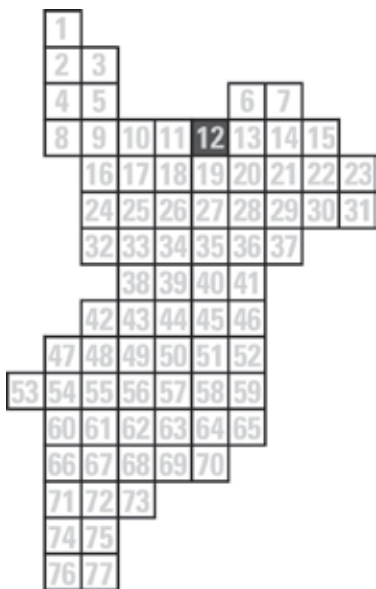
【県内の状況】銚子市（メッシュは特定できない）での記録があるが、その後は確認されていない。稔性の低さや細長く伸びる穂の形状から判断して、雑種の可能性がある。成田市で1990年7月20日に採集された複数株のコセイタカハリイの中にヤリハリイと考えられるものが含まれていた。

【保護対策】近年急激に減少し続ける湿地を良好な状態で維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：415 / 千植誌 1975：460 / 千植誌 2003：868

【写真】1998 成田市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



## A オオヌマハリイ カヤツリグサ科

2009	B
2017	A
2023	A

*Eleocharis mamillata* Lindb. var. *cyclocarpa* Kitag.

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。稈は2～5mmで中空で柔らかい。刺針は果実の2倍長。花柱脚は扁平な三角。[HH] ヨシ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、濟州島、中国、北欧。

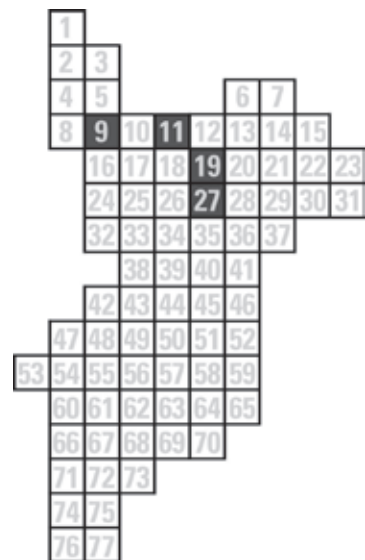
【県内の状況】県内に複数の記録があるが、コツブヌマハリイ、クロハリイ、セイタカハリイなど他のハリイ属を誤同定したものが多く含まれる。県内産唯一の標本は多古町（1997.5.24 CBM BS-125082）である。生育地では確認当時2m<sup>2</sup>程度の範囲を占めていた。毎年数度の耕運が実施され、水位は常に高く維持されており、ミズナラ、クロハリイ、オオハリイ、タタラカンガレイ、チョウセンハリイなどの生育が同所的に確認された。現地は後にヒメガマ、ヨシなどの高茎草本の侵入による遷移が進み、個体は消滅した。一部が横芝光町湿性植物園に移植されて保護、育成されている。

【保護対策】生育地の環境を維持する方策を検討することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：415 / 新千植誌 1975：460 / 千植誌 2003：867,871

【写真】1997.6.8 多古町 谷城勝弘

(谷城勝弘)



## A ハタケテンツキ カヤツリグサ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Fimbristylis stauntonii* Debeaux & Franch.

**【種の特性】**一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。トネテンツキに似るが、鱗片は1.0mm、果実は0.7mmと小さい。柱頭はトネテンツキのように鱗片からあまり突出しない。湿地性。アゼナ群団。[H]

**【分布】**本州・九州(稀)。

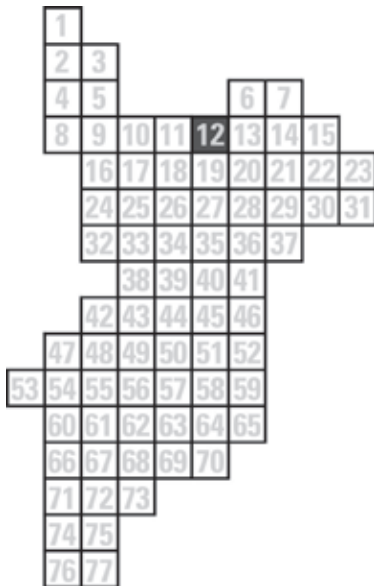
**【県内の状況】**成田市で採集された標本がある(1985.9.15 CBM BS-84078)。当地は、後の遷移の進行に伴ってヨシ、セイタカアワダチソウなどの大型多年草が侵入して本種の生育に適切な環境が失われた。また2014年9月、野田市の江戸川河川敷で新たに発見された。

**【保護対策】**旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、表土を攪乱するなどの試験的植生発掘を試みることも有効である。湿地環境を良好に維持することが望ましい。

**【文献】**小崎昭則 1991 千葉県で見つけたハタケテンツキ. スゲの会会報 2: 12-15 / 千植誌 2003: 861,851. / 千植写真 2005: 361 / 岩槻秀明 2016 江戸川河川敷(野田市)でハタケテンツキを記録 千植誌 66(2):13-14

**【写真】**2002.10 栃木県 谷城勝弘

(谷城勝弘)



## A クロタマガヤツリ カヤツリグサ科

2009	X
2017	X
2023	A

*Fuirena ciliaris* (L.) Roxb..

**【種の特性】**一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。全草毛が多く、鱗片黒緑色。湿地性。タウコギ群綱。[Th]

**【分布】**本州(千葉県以西)・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド。

**【県内の状況】**東金市(1929.9.25 CBM BS-26278)、同市(1950.10.08 CBM BS-2935)、同市(1956.9.6 CBM BS-7572)、同市(1957.10.13 CBM BS-252445)、山武市(1931.10.20 CBM BS-26335)の標本が千葉県立中央博物館に収蔵されている。山武市で(2017.8.11. CBM BS-391601)で確認されている。

**【保護対策】**旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みることを望ましい。

**【文献】**千植誌 1958: 417 / 新千植誌 1975: 462. / 千植誌 2003: 860,851

**【写真】**1956.9.16 東金市 標本:CBM BS-7572

(谷城勝弘)



## A イトイヌノハナヒゲ カヤツリグサ科

2009	B
2017	A
2023	A

*Rhynchospora faberi* C.B.Clarke

**【種の特性】** 多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。果実は広倒卵形で刺針は太く、下向き粗造。風媒で付着散布。[H] ミミカキグサイヌノハナヒゲ群目。

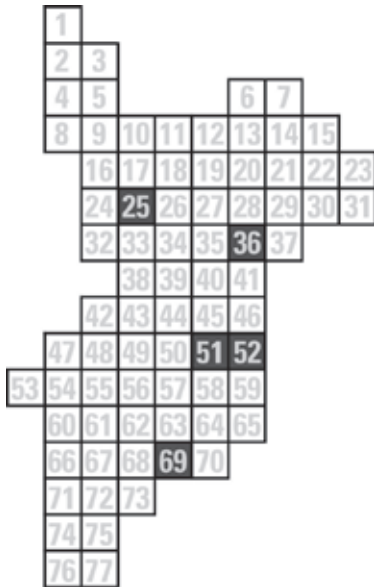
**【分布】** 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

**【県内の状況】** 成東・東金食虫植物群落と長生村周辺の湿地に生育する。近似種のコイヌノハナヒゲ、ヒメイヌノハナヒゲ、イヌノハナヒゲなどと混生することが多いので、確認には精査を要する。個体数は極めて少ない。従来記録はヒメイヌノハナヒゲを誤同定したものが多く含まれる。

**【保護対策】** 定期的な刈り取り管理を継続し、湿地群落の遷移を抑えることが望ましい。

**【文献】** 千植誌 1958 : 417 / 千植誌 1975 : 462 / 千植誌 2003 : 859,850

**【写真】** 1990.8.28 長生村 谷城勝弘 (谷城勝弘)



## A オオイヌノハナヒゲ カヤツリグサ科

2009	B
2017	A
2023	A

*Rhynchospora fauriei* Franch.

**【種の特性】** 多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。イヌノハナヒゲによく似ているが、刺針はそれより長く、ほぼ平滑である。風媒で、付着散布。[HH] ミミカキグサイヌノハナヒゲ群目。

**【分布】** 北海道・本州・九州。イヌノハナヒゲよりも寒冷地を分布の本拠としている。

**【県内の状況】** 千葉県植物誌 (1958) に山武市、新版千葉県植物誌 (1975) に山武市、養老溪谷の記録がある。現在は長生村と山武市にのみ少数個体が確認される。古い記録は近似種の誤同定の可能性もある。

**【保護対策】** 現生育地の環境を良好に維持し、適切な管理をすることが望ましい。旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、再生を促すことが望ましい。

**【文献】** 千植誌 1958 : 417 / 千植誌 1975 : 462 / 岩瀬・谷城・野口・久保田 1998 長生村湿地帯の植物. 千葉生物誌 48(1) : 6-22 / 千植誌 2003 : 857,850

**【写真】** 1992 長生村 谷城勝弘 (谷城勝弘)



**A コイヌノハナヒゲ カヤツリグサ科**

2009	A
2017	A
2023	A

*Rhynchospora fujiana* Makino

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で付着散布。小穂は5～6mm。果実は狭倒卵形で長さ2mmくらい。刺針は6本で直立、果実より少し長く平滑である。湿地性（丘陵地性）。ミミカキグサーイヌノハナヒゲ群目。[H]

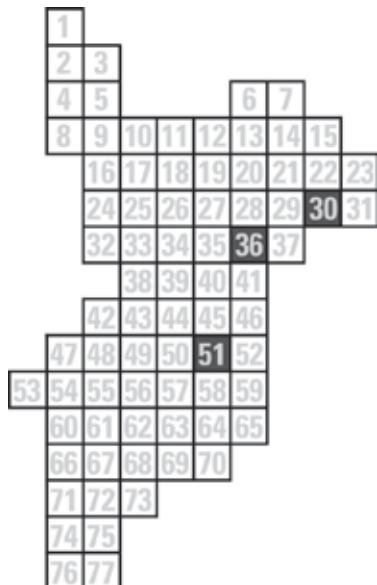
【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】千植誌(1958, 2003)、新版千植誌(1975)に茂原市の記録があるが、イトイヌノハナヒゲやヒメイヌノハナヒゲにも似ているので、誤同定の可能性がある。旭市に少数個体が生育し、成東・東金食虫植物群落に多産する。

【保護対策】現生育地を管理し、生育可能な環境を維持することが望ましい。旭市の崖湿地は、町指定の保護対象とされている。

【文献】千植誌 1958：417／新千植誌 1975：462／千植誌 2003：859,850.／千植写真 2005：361

【写真】1992.9.7 旭市 谷城勝弘



(谷城勝弘)



**A コホタルイ カヤツリグサ科**

2009	X
2017	A
2023	A

*Schoenoplectiella komarovii* (Roshev.) J.jung et H.K.Choi

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。茎は円柱状、柱頭2。小穂は卵形、果実は1.2～1.5mmで両面形。[HH] 湿地性。

【分布】北海道・本州北部。朝鮮、中国、ウスリー。千葉県は分布の南限。

【県内の状況】1989年に成田市で3株の生育が確認されたが、放置による遷移の進行により数年後には消滅した。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みることを望ましく、今後生育が確認された場所は適切に管理していくことが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1990 調査会目録 129  
／谷城勝弘 1992 調査会目録：172.／千植誌 2003：882,874

【写真】1989.8.17 成田市 谷城勝弘  
(谷城勝弘)



## A シズイ カヤツリグサ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Scirpus nipponicus* Makino

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。根茎は長い。葉は扁平。刺針4。柱頭2。ヨシ群綱。湿地性。[H]

【分布】北海道・四国・九州。中国、ウスリー。

【県内の状況】市川市の標本(1983.8 TNS-3516-Type)に基づいて記載された。都市化に伴う環境の変化で当時の生育地では消滅した可能性が高い。1991年、長生村において本種の群落が発見された。長生村には休耕田が多数存在しており、シズイはこの中の2ヶ所の休耕田で群生している。周辺域への拡大は認められず、地域的特性の強い種と判断される。

【保護対策】現生育地の環境を良好に管理することが望ましい。

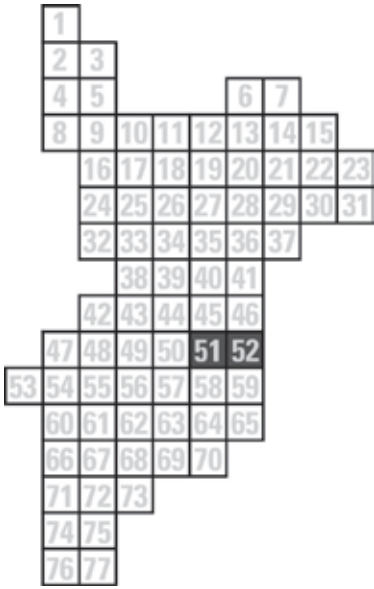
【文献】牧野富太郎 1904 植物学雑誌 18:112 / 千植誌 1958:417  
 / 新千植誌 1975:463 / 岩瀬・谷城・野口・久保田 1998 長生

村湿地帯の植物. 千葉  
 生物誌 48(1):6-22 /  
 千植誌 2003:879,874.

／千植写真 2005:361

【写真】1993.8.10

長生村 谷城勝弘  
 (谷城勝弘)



## A ミカワシンジュガヤ カヤツリグサ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Scleria mikawana* Makino

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で互生、葉鞘は無翼で、葉は硬い。風媒で付着散布。果実は無毛で光沢はない。湿地性。ミミカキグサイヌノハナヒゲ群綱。[Th]

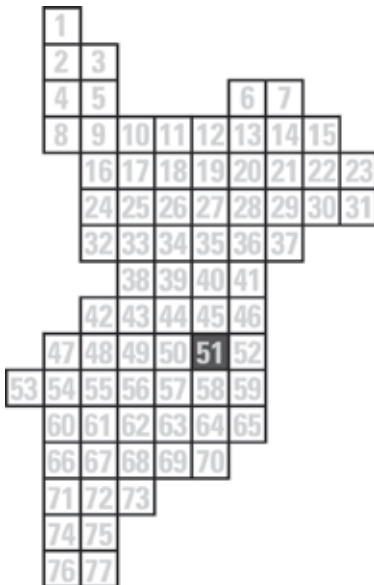
【分布】本州（関東以西）・九州。インド、オーストラリア。

【県内の状況】古くから茂原市・長生村の湿地に生育することが知られていたが、1990年代に長生村で再発見された。同地は工場用地として埋め立て予定であったが、県内有数の湿地性の稀少種が複数生育していたため、保護対策が検討された。その結果、稀少種を含む表土を長生村内に移植して保護・育成している。

【保護対策】湿地環境を良好に維持し管理することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:418 / 新千植誌  
 1975:463 / 岩瀬・谷城 1992 千葉県長生  
 村藪塚に残存する湿地群落. p.11 / 岩瀬・  
 谷城・野口・久保田 1998 長生村湿地帯  
 の植物. 千葉生物誌 48(1):6-22 / 千植誌  
 2003:856,849 / 千植写真 2005:361

【写真】2000.8.28 長生村 谷城勝弘  
 (谷城勝弘)





## A タチネズミガヤ イネ科

2009	
2017	A
2023	A

*Muhlenbergia hakonensis* (Hack.) Makino

**【種の特性】** 小型の多年生草本。丈夫な根茎があり、茎は単生する。葉身は線形で、斜上する。花序は頂生する。花序の枝は軸に密着する。小穂の護穎に長い芒がある。風媒で、重力散布。花期は、8月～9月。常緑樹林の林床に生育する。[H]

**【分布】** 本州・四国・九州。朝鮮（済州島）。

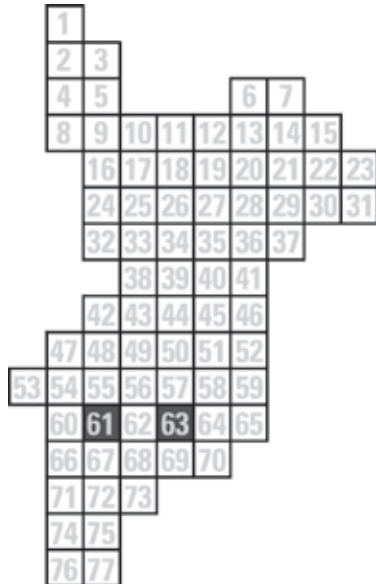
**【県内の状況】** 君津市で、1989年11月8日に採集された標本（CBM BS-242531）と君津市で、2011年9月4日に採集された標本（CBM BS-316681）がある。東京大学千葉演習林の標本庫には、君津市で1929年10月に採集された標本、同市で1930年8月4日に採集された標本と同市で1970年9月24日に採集された標本が収蔵されている。

**【保護対策】** 生育地を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 千植誌 1958:42 / 新千植誌 1975:469 / 千植誌 2003:748 / 演習林(東大) 2017 10

**【写真】** 2011.9.14 君津市 標本: CBM BS-316681

(天野誠)



## A キダチノネズミガヤ イネ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Muhlenbergia ramosa* (Hack.) Makino

**【種の特性】** 多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で風散布。長い根茎を持つ。良く似たネズミガヤは極く短い根茎しかない。温帯林に生育する。花期は8～10月。[H]

**【分布】** 本州（関東以西）・四国・九州。中国中部。西日本には比較的に見られるが、分布東端の茨城、千葉、埼玉、神奈川県では、稀な植物である。

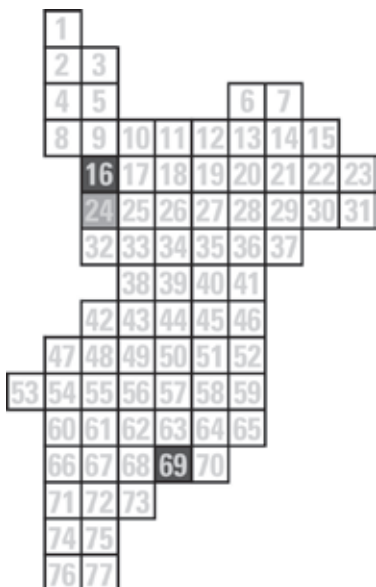
**【県内の状況】** 清澄山、松戸市で1930年頃の記録があり、標本では市川市（1929年 東京大学総合研究博物館）、松戸市（1986.04.23 神奈川県立生命の星・地球博物館）があるが、ネズミガヤと誤認され見逃されている可能性がある。

**【保護対策】** 山林の生育環境を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 本田正次 1933 松戸附近植物目録. 千葉高等園藝学校學術報告 第2号: 61-92 / 千植誌 1958: 424. / 千植誌 2003: 740,748

**【写真】** 1943.8.28 愛知県 標本: CBM BS-238306

(木村陽子)



## A エダウチチヂミザサ イネ科

2009	
2017	C
2023	A

*Oplismenus compositus* (L.) P.Beauv.

【種の特性】 中型の多年生草本。高さ30～60cm、下部は這う。葉の長さは、4から10cmで、ケチヂミザサより大きい。長楕円状披針形で、先端は急に尖る。下部の小花序は伸びて枝状になる。花序の軸にほとんど毛がない。風媒で、動物外散布。林縁に生育する。[H]

【分布】 伊豆七島・小笠原・四国・九州・琉球。中国、南アジア。

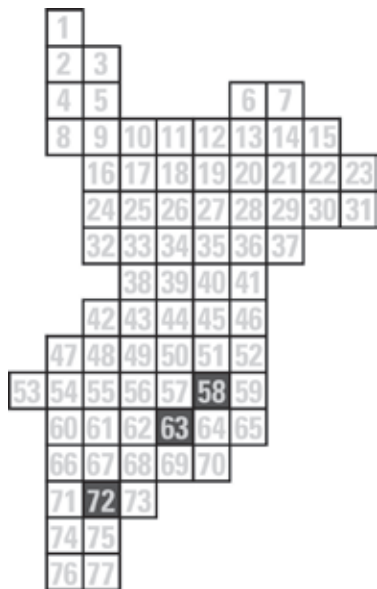
【県内の状況】 君津市で2012年9月27日に採集された標本（CBM BS-330793）と大多喜町で2011年11月4日に採集された標本（CBM BS-316443）と南房総市で1997年9月25日に採集された標本（CBM BS-276173）がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 改訂新版日本の野生植物 2 2016 90

【写真】 2011.11.4 大多喜町 標本：CBM BS-316443

(天野誠)



## A ヨコハマダケ イネ科

2009	
2017	C
2023	A

*Pleioblastus matsunoi* Nakai

【種の特性】 大型の竹笹類。高さ2～3m。枝を分枝する。稈鞘は無毛。葉鞘は上向きの長い粗毛が散在する。葉身は狭披針形。葉の両面は無毛。風媒で、重力散布。海岸付近の林縁に生育する。[N]

【分布】 本州（関東南部）。

【県内の状況】 主に安房地方の海岸付近に分布する。南房総市で1935年7月14日に採集された標本（CBM BS-177711）と館山市で1935年の9月8日に採集された標本（CBM BS-206833）と鴨川市で1948年7月11日に採集された標本（CBM BS-376576）、富津市で1989年8月16日に採集された標本（CBM BS-151113）

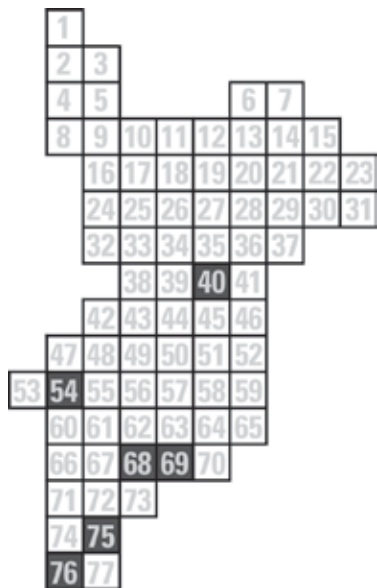
などがある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:429 / 新千植誌 1975:474 / 千植誌 2013:808 / 日本タケ科植物図鑑 1996 173

【写真】 1956.6.24 南房総市 標本：CBM BS-178201

(天野誠)



## A イタチガヤ イネ科

2009	
2017	A
2023	A

*Pogonatherum crinitum* (Thunb.) Kunth

【種の特性】小型の多年生草本。茎は叢生する。葉身は線形で、斜上する。花序は頂生する。小穂の第二包穎と護穎に長い芒がある。風媒で、重力散布。花期は、8月～11月。崖下の湿った所に生育する。[H]

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、中国（南部）、インド、インドネシア。

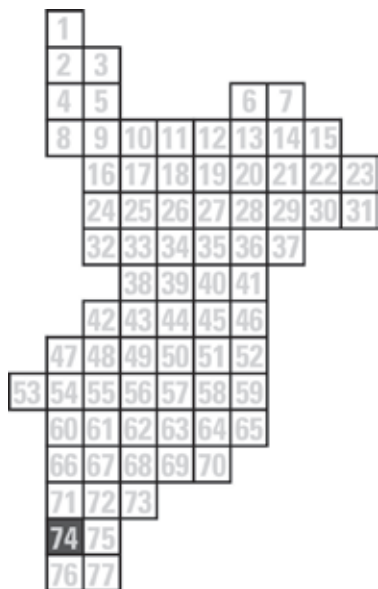
【県内の状況】館山市で、2008年11月1日に採集された標本（CBM BS-291057）と館山市で、2009年1月13日に採集された標本（CBM BS-386778）がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】増補日本イネ科植物図譜（1993）p.694-695

【写真】2008.11.5 館山市 標本：CBM BS-291057

（天野誠）



## A コガシアズマザサ イネ科

2009	
2017	B
2023	A

*Sasaella kogasensis* (Nakai) Nakai ex Koidz.

【種の特性】大型の竹笹類。高さ1～2m。上方で枝を分枝する、枝は1節から1本出る。稈鞘は長毛と下向き細毛が密生する。葉鞘も同様。葉身は長楕円状披針形で、先端は急に尖る。葉の下面は軟毛が密生する。風媒で、重力散布。林縁に密生する。[N]

【分布】本州（関東・東北）。

【県内の状況】佐倉市で2004年4月11日に採集された標本（CBM BS-267438）の他、同市の1メッシュで採集された標本があり、その他に2メッシュで記録されている。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千葉県植物誌 2003 807 / 日本タケ科植物図鑑 1996 158

【写真】1993.5.26 佐倉市 標本：CBM BS-254315

（天野誠）



## A ヤマトミクリ ガマ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Sparganium fallax* Graebn.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。花序の分岐はなく、雌性頭花の全部または一部は腋上性である。果実は紡錘形で中央がくびれる。湿地性または浅い水中に生える。ヨシ群綱。[HH]

【分布】本州・四国・九州。アジア東部。

【県内の状況】芝山町（1932.5.19 CBM BS-610）の標本があるが、生育地の現状は不明である。かつて柏市の公園内のため池に多数個体が生育していたとする情報がある。1995年に八千代市で確認された（CBM BS-117957）群落は現在県内で唯一生育確認



される所である。群落の維持のため、水路の管理を目的とした刈り取りや除去から回避するよう周辺住民の理解と協力を得ることが必要である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】岩瀬徹 1989 千葉県のミクリ属について. 千生誌 39(1) : 30-31 / 大野 1996 調査会目録 : 4 / 千植誌 2003 : 814,801 / 千植物写真集 2005 : 359

【写真】1999.6.13 八千代市 谷城勝弘 (谷城勝弘)



## A ナガエミクリ ガマ科

2009	A
2017	B
2023	A

*Sparganium japonicum* Rothert

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。花序は分岐せず、最下の雌性頭花に柄がある。果実は細長く、先端は嘴状に尖る。湿地性または浅い水中に生える。[HH]

【分布】日本全国。アジア極東地域。

【県内の状況】古くは東金市の標本（1956.7.22 CBM BS-7366）があるが、現在は同地で確認できない。1999年に富里市（CBM BS-164395）で、次いで2001年に香取市で群落を確認している。現在確認される県内の生育地は前記の2ヶ所だけである。

【保護対策】生育可能な環境を維持するとともに、河川管理に伴う清掃等の目的によって除去することのないように特別な保護策をとることが望ましい。



【文献】岩瀬徹 1989 千葉県のミクリ属について. 千生誌 39(1) : 30-31 / 角野康郎 1994 日本水草図鑑 : 80 / 千植誌 2003 : 814,801 / 千植写真集 2005 : 359

【写真】2001.8.7 富里市 谷城勝弘 (谷城勝弘)



## A ヒメミクリ ガマ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Sparganium subglobosum* Morong

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。葉幅3～7mm。果実は倒卵形で小柄がない。湿地性。ヨシ群綱。[HH]

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。東アジア、インド、オーストラリア、ニュージーランド。

【県内の状況】 山武市、長生村、成田市、匝瑳市などに生育が知られている。長生村には1990年代まで多数個体が生育する所があったが工場用地造成に伴う盛土によって消滅した。この個体の一部は長生村内に移植、育成されている。成田市の個体は遷移が進行してヨシが繁茂し、消滅した。匝瑳市の休耕田ではその後の耕耘で消滅した。山武市の現状は不明である。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持し、刈り取りなどの管理によって大型草本群落への遷移の進行を阻止することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958 : 433 / 新千植誌 1975 : 479 / 角野康郎 (1994) 日本水草図鑑 : 8 / 谷城 1995 調査会目録 : 122 / 千植誌 2003 : 814,801

／千植写真集 2005 : 360

【写真】 1999.7.10

匝瑳市 谷城勝弘  
(谷城勝弘)



## A ヤマブキソウ ケシ科

2009	B
2017	A
2023	A

*Hylomecon japonica* (Thunb.) Prantl & Kündig

【種の特性】 中形の多年生草本。葉は3出複葉で互生。4月に大きな4弁で黄色の花を咲かせる。ケヤキ林あるいは竹林などの腐植の多い湿った林の柔らかい土壌に群生する。虫媒で風散布。ブナ群綱。[G]

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 佐倉市と山武市（町内の位置は特定できないので分布図には表示していない）などに知られる。開花時には極めて目立つので観賞用に採取される危険が大きい。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975 : 419

【写真】 1996. 佐倉市 大場達之  
(大場達之/天野誠)





## A オキナグサ キンボウゲ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Pulsatilla cernua* (Thunb.) Berchtold & J.Presl

【種の特性】 多年生草本。葉は複3出複葉で互生。虫媒で風散布。乾き気味のシバ草地、砂礫の多い河原などに生える。ススキ群綱。[G]

【分布】 本州・四国・九州。済州島。

【県内の状況】 かつて放牧牧場の多い時代には広く見られ珍しいものではなかったが、半自然草地の管理が疎かになってから急速に減少し、現在確認できる産地は印西市など極めて限られている。目立つ草なので記録・採集されることが多く、標本も多く残っている。

【保護対策】 人為的な刈り取りにより管理された半自然の草地を保全することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975：423 / 引田園子 2000 オキナグサの自生地とその受難。千植資料 16：123. / 小野靖郎 2006 オキナグサとの出会い 千植資料 16：124 / 千植誌 2003：188,196

【写真】 印西市 大場達之

(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



## A ツメレンゲ ベンケイソウ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Orostachys japonicus* (Maxim.) A.Berger

【種の特性】 通常、直径5 cm程度のロゼットを形成する常緑の一回稔性多年生草本。海岸や山地の岩場などに生える。実見した千葉県個体は際だって小さい。開花株は未見。以下は他産地の標本から記載である。太い主根から細い根を出す。葉は披針形で、先は刺状になる、らせん葉序。葉は全縁で、無毛、多肉。花は秋に咲く。花は密な総状花序につく。花柄は約1 mm。花は5数性で、萼片は狭卵形で、鋭頭。花弁は、倒披針形。白色で、長さ約4 mm。雄しべの数は10本、葯の色は黄色。離心心皮は5つ。果実は蒴果で、熟すと上部から裂ける。虫媒で、風散布。エゾオオバコーウシノケサ群綱。[H]

【分布】 本州。

【県内の状況】 御宿町で記録されている。太平洋岸の分布の東限。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【写真】 2007.10.2  
山梨県 石川和宏  
(大場達之 / 天野 誠 追補)



**A ハマビシ ハマビシ科**

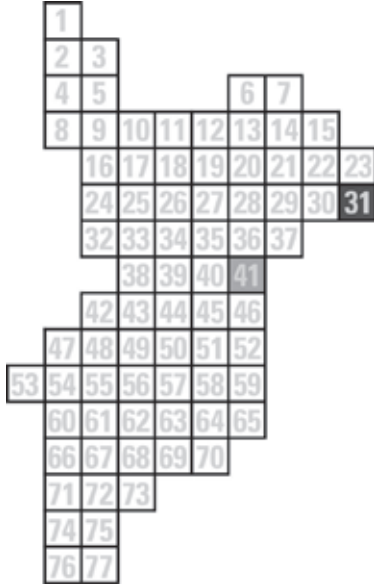
2009	B
2017	A
2023	A

*Tribulus terrestris* L.

**【種の特性】** 小形の一年生草本。葉は羽状複葉で互生。乾燥した熱帯に広く分布する雑草で、亜熱帯や温帯南部などでも、夏の気温の高くなる環境にも点々と分布する。路傍あるいは畑に生える。日本のものは偶生的に海岸の砂地に生えたものであろう。虫媒で付着散布。オヒシバ群団。[Th]

**【分布】** 本州（関東以西）・四国・九州。世界の熱帯と温帯。

**【県内の状況】** 銚子市でわずかに保全されているほか、南房総市の標本もあるがメッシュ不明である。



**【保護対策】** 海岸の開けた明るい砂地で保全することが望ましい。

**【文献】** 千植誌 2003 : 315, 321

**【写真】** 1951.7.24 南房総市 標本 : CBM BS-168131

(大場達之/天野誠)



最重要保護  
A

**A ミヤコオトギリ オトギリソウ科**

2009	
2017	A
2023	A

*Hypericum kinashianum* Koidz.

**【種の特性】** 小型の多年生草本。茎は円柱形。葉身には黒点がある。果実の表面の模様正方形から六角形。虫媒で、風散布。花期は、7月～8月。山の谷間に生育する。[H]

**【分布】** 本州・四国・九州。

**【県内の状況】** 富津市で、1992年10月25日に採集された標本（CBM BS-160460）と鴨川市で、1992年10月31日に採集された標本（CBM BS-153795）がある。

**【保護対策】** 生育地を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 日本の野生植物3. (2016) 245-246



**【写真】** 1992.10.25 富津市 標本 : CBM BS-160460 (天野誠)



## A マツバニンジン アマ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Linum stelleroides* Planch.

【種の特性】直立性の細く硬い一年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。ススキ草原あるいはその周辺の裸地などに生える。最近では帰化のキバナノマツバニンジンが多い。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー、アムール。

【県内の状況】かつて半自然のススキ草原が多かった頃には各地で記録されていたが、普通なものではなかった。近年の記録はなく、絶滅した可能性が高い。最も新しい記録は（1984 柏市 CBM BS-82867）である。また船橋市の埋め立て

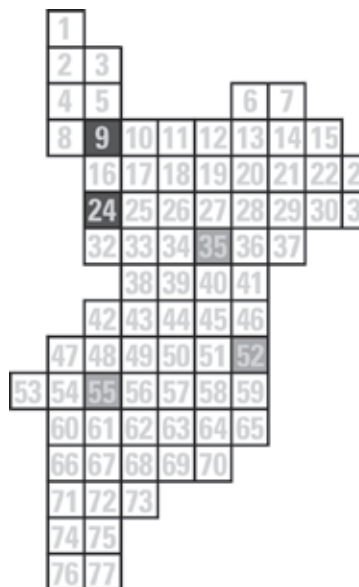
地で採集されている（平塚市博物館蔵）が、これはマツバニンジン近似の外来品である可能性がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：404-405  
／千植誌 2003：316, 322

【写真】1984.8.14 柏市 標本：CBM BS-82867

（天野 誠）



## A ナガバノスミレサイシン スミレ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Viola bisetii* Maxim.

【種の特性】小型の多年生草本。地下に横走る太い地下茎がある。葉は単葉で根生。葉の先は鋭く尖り、基部は心形である。虫媒で虫散布。[G]

【分布】本州（関東以西）、四国。太平洋側に分布域をもつ。

【県内の状況】関東地方の低山地には普通であるが、県内では嶺岡山地のみに知られている。最も新しいデータは1955年であったが、2005年と2006年に嶺岡山地で採集された。千葉県のは全体小型で、花茎は葉よりも著しく高く伸びる。変種レベルで区別されるべきものと考えられる。2019年木更津市で採集されている。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：378, 385

【写真】鴨川市 福田洋

（大場達之／谷城  
勝弘 追補）



## A エイザンスミレ スミレ科

2009	
2017	
2023	A

*Viola eizanensis* (Makino) Makino

**【種の特性】**小型の夏緑性多年生草本。高さ夏期、20cm程度。葉は全て根生する。花時の葉は細裂するが、夏期は3裂または5裂し、粗い鋸歯がある。花は4月ころ咲き、白または淡紅色。果実は卵形で、3裂し茶色の種子を飛ばす。夏期には、閉鎖花をつける。虫媒で自動散布及びアリ散布。[G]

**【分布】**本州・四国・九州。

**【県内の状況】**千葉市で文献記録があり、袖ヶ浦市で1998年に標本が採集されている。再び2013年6月17日、袖ヶ浦市で発見された。北向きのスギや常緑樹の混じる雑木林と農道間の緩い斜面に生育する。周辺の都県の山地にかなり広く分布するが県内では極めて稀。

**【保護対策】**自生地を現在の管理の状況で維持する。除草剤を撒かれないように土地所有者に注意喚起が必要。

**【文献】**千植誌 2003：378, 385

**【写真】**2023.3.31 秩父市 木村陽子

(天野誠)



## A ナガバタチツボスミレ スミレ科

2009	
2017	A
2023	A

*Viola ovato-oblonga* (Miq.) Makino

**【種の特性】**小型の多年生草本。高さ10～30cm。根生葉は卵形だが、茎葉は、狭卵形になる。茎葉の長さは25～30mm、托葉は細く切れ込む。虫媒で、自力散布。花期は、3月～4月。落葉樹林の林床に生育する。[H]

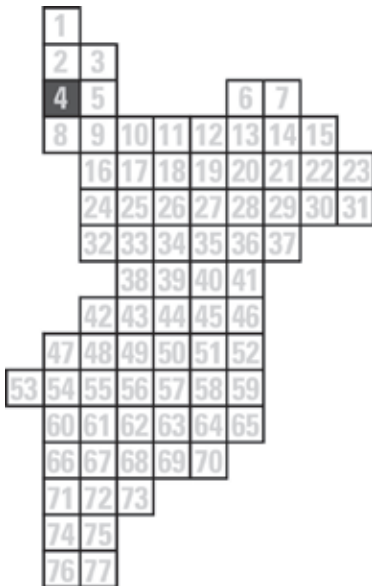
**【分布】**本州・四国・九州。朝鮮（南部）。

**【県内の状況】**野田市で2012年4月30日に採集された標本（CBM BS-357602）と同市で2013年3月26日に採集された標本（CBM BS-355987）と同市で2015年4月15日に採集された標本（CBM BS-364566）がある。

**【保護対策】**生育地を良好に維持することが望ましい。

**【文献】**千植誌資料 2013 274-276 / 改訂新版日本の野生植物 3 2017 226

**【写真】**2015.4.15 野田市 標本：CBM BS-364566  
(天野誠)



A タチスミレ スミレ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Viola raddeana* Regel

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で虫散布。大形のすみれで、高さ 50cm 以上になる。花は 6 月に咲く。河川氾濫源のオギ群落の中に生える。オギーオン群団。[H]

【分布】 本州（関東、近畿）・九州。朝鮮、中国、アムール。

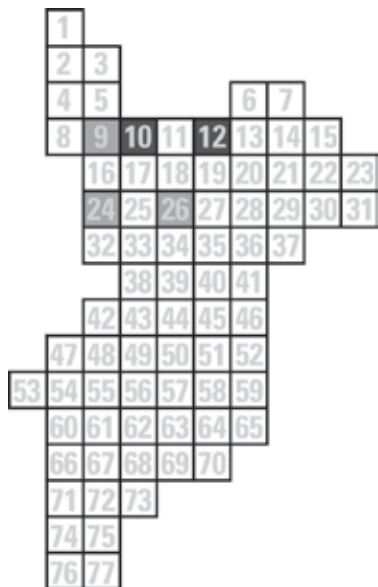
【県内の状況】 利根川水系の各地に知られ、市川市、手賀沼、我孫子市、香取市などからの記録がある。1985 年に我孫子市での記録が最新のデータである。

【保護対策】 河川氾濫原の自然植生を保全することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：377,382

【写真】 1998. 栃木県 大場達之

(大場達之/天野誠)



A マキノスミレ スミレ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Viola violacea* Makino var. *makinoi* (H.Boissieu) Hiyama ex F.Maek.

【種の特性】 多年生草本。シハイスミレに似るが、ほぼ垂直に葉を立て、表面は濃緑色で光沢があり裏面の紫色は淡い。花はシハイスミレよりも濃い紅紫色。

【分布】 本州（青森県～兵庫県）。

【県内の状況】 葉身は日本海側の典型的なものに比べ、幅がやや広い。市原市で発見された（2002.4.6 CBM BS-183642）。生育地は標高約 70m の雑木林で、100 株ほどが群生する所と他に 2 箇所ほど少数の個体が生育している。

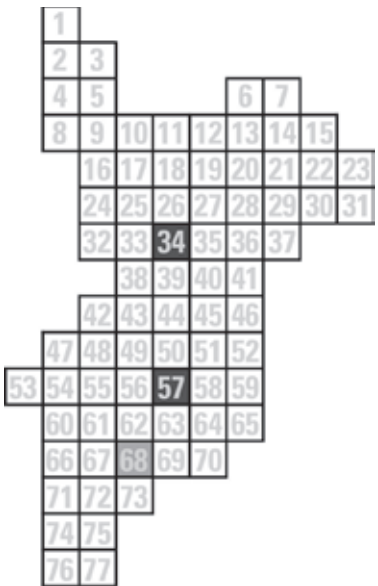
【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：380,384

【写真】

2003.4.9 市原市  
福田洋

(谷城勝弘)



## A ヒカゲスミレ スミレ科

2009	C
2017	A
2023	A

*Viola yezoensis* Maxim.

【種の特性】多型の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で虫散布。ケヤキ群団。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】八千代市で1998年4月8日に標本(CBM BS-148680)が採集されている。佐倉市で報告されている。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 379, 385

【写真】1993.4.12 八千代市 標本 : CBM BS-148680

(谷城勝弘)



最重要保護  
A

## A ヒロハクサフジ マメ科

2009	X
2017	X
2023	A

*Vicia japonica* A.Gray

【種の特性】多年生草本。葉は羽状複葉で互生し、葉軸の先端は巻ひげになる。虫媒で重力散布。花は紅紫色、終わり頃には青みがかってくる。植物体上に毛が多い。砂浜の後背地に生える。[H]

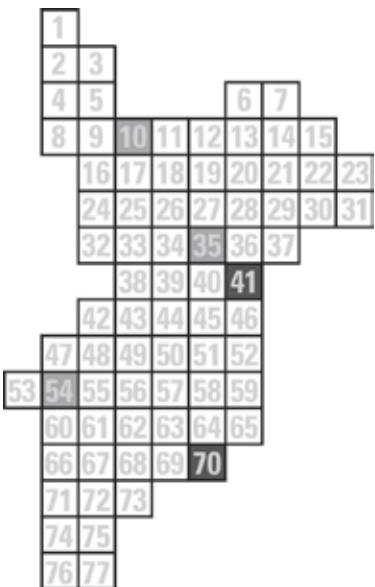
【分布】北海道・本州（近畿以東）・南千島。サハリン、朝鮮。

【県内の状況】1951年6月24日に富津市で標本が採集(CBM BS-3281)されて以来、ほかに採集された標本はなく、生育の確認もされていない。本種は、県内では、これまでしばしば同属のノハラクサフジと誤認されてきた。両者は花柱の形態の違いで容易に識別できる。ヒロハクサフジでは花柱が背腹方向に扁平であるが、ノハラクサフジでは円柱形である。富津岬の対岸の三浦半島観音崎には現在もヒロハクサフジが見られる。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】遠藤泰彦・大橋広好 1994 植物研究雑誌 69 : 379-382 / 千植誌 2003 : 309, 317

【写真】1998 神奈川県 大場達之 (遠藤泰彦/大場達之 追補)



## A ヒナノカンザシ ヒメハギ科

2009	B
2017	A
2023	A

*Salomonina oblongifolia* DC.

【種の特性】小形の一年生草本。茎は直立し、少数の枝を鋭角に出す。花は8～9月。穂状に紫色の小さな花を多くつける。葉は単葉で互生。虫媒で重力散布。[Th] ホシクサーコイヌノハナヒゲ群団。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、台湾、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】湿原中の小裸地、あるいは草原の周縁の一年草群落などに生え九十九里低地に知られる。

【保護対策】自然～半自然湿原の保全。

【文献】千植誌 2003：344, 337

【写真】1991.8.16 長生村 谷城勝弘  
(大場達之/天野誠)



## A カラハナソウ アサ科

2009	
2017	A
2023	A

*Humulus lupulus* L. var. *cordifolius* (Miq.) Maxim. ex Franch. & Sav.

【種の特性】大型のつる性多年生草本。高さは2m以上になる。茎には、下向きの棘毛があり、他の植物を這い上る。葉は卵円形で、心形。雌雄異株。雌花序は、楕円球で、長さ2～3cm。種子は2.5～3mmで、大きい。風媒で、重力散布。花期は、8月から9月。山地の林縁に生育する。[H]

【分布】北海道・本州。千島列島（南部）、中国（北部）。

【県内の状況】柏市で1990年10月2日に採集された標本（CBM BS-138919）と八千代市で1999年11月5日に採集された標本（CBM BS-168475）と野田市で1997年9月13日に採集された標本（CBM BS-140636）がある。遺存的分布で、個体数も少ないので、集団の存続が危ぶまれる。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌資料 2000 110 / 千植誌 2003 116

【写真】2016.9.26 野田市 岩槻秀明

(天野誠)



A オオクマヤナギ クロウメモドキ科

2009	X
2017	X
2023	A

*Berchemia magna* (Makino) Koidz.

【種の特性】 つる生の夏緑低木～垂高木。葉は互生、長さ4～10 cm、乾くと黄色くなる。

花は7～8月。円錐花序で花は小さく淡黄緑色。果実は赤から黒色に熟す。

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。中国。

【県内の状況】 清澄山からのみ報告があり、千葉県立中央博物館には君津市 (CBM BS-9347) と清澄山 (CBM BS-9561) の標本があるが、この標本は1958年9月7日の同一日に採集されもので同一箇所と推定される。

【保護対策】 林縁低木の草食獣による食害を防ぐ。

【文献】 千植誌 1958 : 355 / 千植誌 2003 : 356, 360

【写真】 1958.9.7 君津市 標本 : CBM BS-9347  
(大場達之/天野誠)



最重要保護  
A

A ヤマブキショウマ バラ科

2009	B
2017	A
2023	A

*Aruncus dioicus* (Walter) Fernald var. *tenuifolius* (Nakai) H.Hara

【種の特性】 雌雄異株の多年生草本。高さは100 cm 近くなる。花は6～8月。

葉は2回3出複葉で互生し、根出葉もある。虫媒で風散布。オニシモツケーオオイタドリ群団。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮（北部）、中国。

【県内の状況】 県内では稀で、長柄町 (1975 CBM BS-143453) と鋸南町 (200210.4 CBM BS-196525) などで標本が採集されている。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 269, 266

【写真】 1975 長柄町 標本 : CBM BS-143453

(御巫由紀)



## A エドヒガン バラ科

2009	D
2017	A
2023	A

*Cerasus spachiana* Lavallée ex H.Otto f. *ascendens* (Makino) H.Ohba

【種の特性】夏緑性の高木。樹皮は灰褐色で不規則に縦に裂ける。葉は狭倒卵形～楕円形で側脈が多い。花柱に開出毛が顕著。花は3月下旬。{MM}

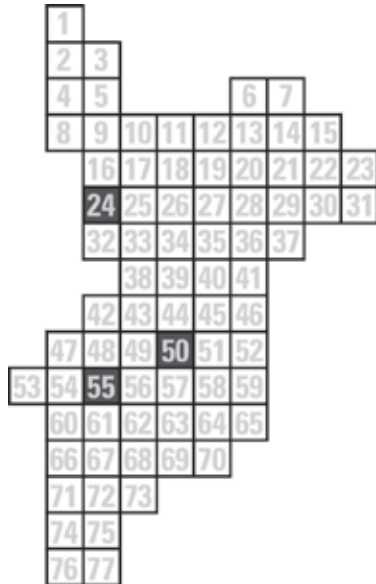
【分布】本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】県内では自生と思われる標本が数点。船橋市(2003.6.8 CBM BS-202398)、富津市(1999.12.10 CBM BS-186041)、市原市(1992.5.29 CBM BS-54982)等で採集されている。

【保護対策】自生と考えられる個体を保存する。

【文献】千植誌 2003:288, 283

【写真】2006.3.25 船橋市 木村陽子



(御巫由紀)



## A オオダイコンソウ バラ科

2009	B
2017	A
2023	A

*Geum aleppicum* Jacq.

【種の特性】山地の明るい草原を好む中型の多年生草本。高さは60～100 cm。

花は7～9月。茎葉は3出葉、根生葉は羽状複葉。虫媒で付着散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮(北部)、中国。

【県内の状況】県内では稀で、市原市(1989.7.31 CBM BS-86006)、佐倉市(2004.7.31 CBM BS-207852)の標本がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】長田潔 1958 千生誌/千植誌 2003:275, 279

【写真】1954.8.15 北海道 標本:CBM BS-105090



(御巫由紀)



A ヤマナシ バラ科

2009	
2017	A
2023	A

*Pyrus pyrifolia* (Burm.f.) Nakai

【種の特性】落葉高木。高さ5～10m。葉は卵形から狭卵形、縁に鋭鋸歯がある。花は、白色で花柱は5本。果実に萼片は残らない。虫媒で、動物散布。林に生育する。{MM}

【分布】本州、四国、九州。

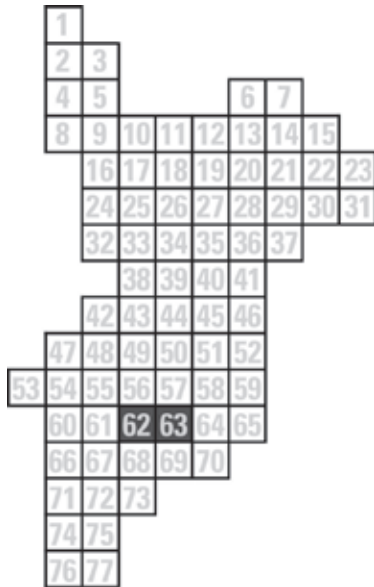
【県内の状況】多古町で1987年11月15日に採集された標本（CBM BS-189096）と、大多喜町で2009年8月18日に採集された標本（CBM BS-282481）と君津市で2007年9月6日に採集された標本（CBM BS-267974）がある。

【保護対策】生育地の林を良好に維持することが望ましい。

【文献】改訂新版日本の野生植物3 2016 81

【写真】2009.8.18 大多喜町 標本：CBM BS-282481

(天野誠)



A バライチゴ バラ科

2009	B
2017	B
2023	A

*Rubus illecebrosus* Focke

【種の特性】夏緑性の低木。葉は3～7小葉からなる羽状複葉。花は白色、6～7月。

果実は球形ないし広楕円形で紅熟する。虫媒で食散布。[Ch]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州

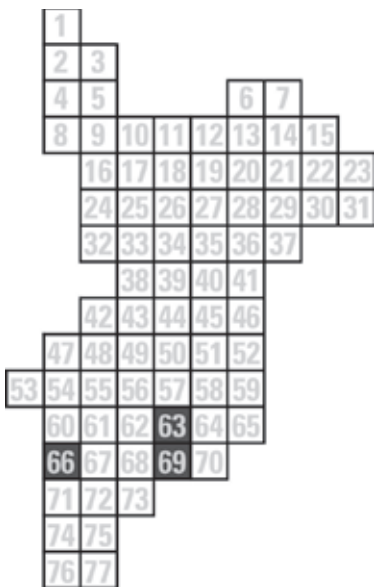
【県内の状況】県内では稀で、南房総市（1989）の標本がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：271,267

【写真】1951.6.26 静岡県 標本：CBM BS-152617

(御巫由紀)



## A ナンキンナカマド バラ科

2009	B
2017	B
2023	A

*Sorbus gracilis* (Siebold & Zucc.) C.Koch

【種の特性】 夏緑低木。葉は羽状複葉で互生。花弁は淡黄褐色で早落性。乾きやすい尾根筋などに生える。虫媒で重力散布。[M]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。中国、マレーシア。

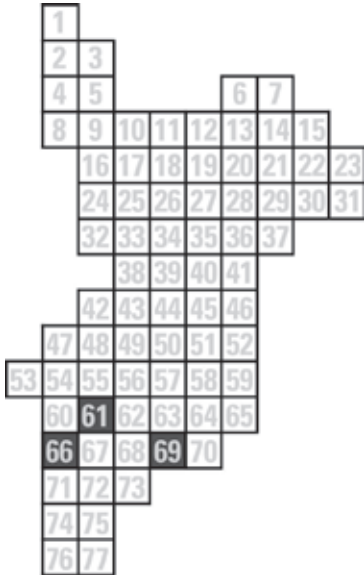
【県内の状況】 報告が少なく、標本は清澄山（1929.8.5 CBM BS-27190）、鋸山（1997.10.25 CBM BS-160466）および高宕山（2004.5.2 CBM BS-267205）のみである。

【保護対策】 現在の生育状況を調査する必要がある。

【文献】 千植誌 2003：290, 284

【写真】 2004.5.2 高宕山 木村陽子

(御巫由紀)



## A コヤブマオ イラクサ科

2009	
2017	X
2023	A

*Boehmeria minor* Satake

【種の特性】 大型の多年生草本。ラセイタソウとコアカソの交雑に由来する無融合性植物。葉は革質で厚く、卵円形から菱状楕円形。風媒で、重力散布。花期は、8月～9月。林縁に生育する。[H]

【分布】 本州。

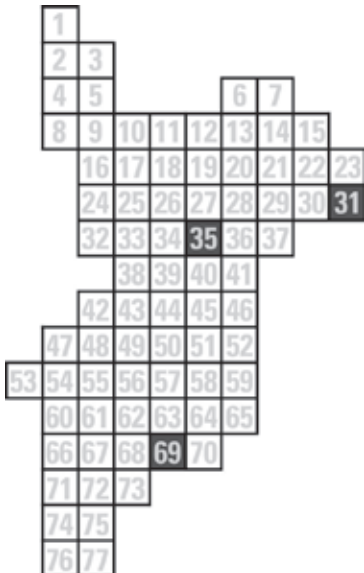
【県内の状況】 山武市で1932年9月4日に採集された標本（CBM BS-491）と鴨川市で1951年8月23日に採集された標本（CBM BS-210875）と銚子市で2012年7月22日に採集された標本（CBM BS-330560）がある。

【保護対策】 生育地の石垣などを良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003:128

【写真】 1951.8.23 鴨川市 標本：CBM BS-210875

(天野誠)





## A イヌブナ ブナ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Fagus japonica* Maxim.

**【種の特性】** 夏緑高木。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。主として太平洋側のブナ帯下部に見られ、モミ、ブナなど混交林をつくることが多い。低地遺存ブナ帯要素。ツガ群目。[MM]

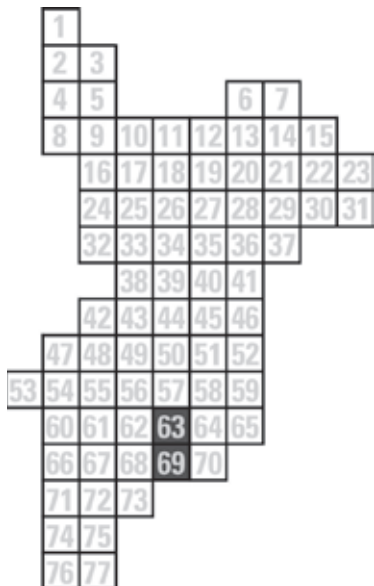
**【分布】** 本州（太平洋側）・四国・九州。

**【県内の状況】** 清澄山系でわずかな個体が発見されている。

**【保護対策】** 生育環境を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 新千植誌 1975：437 / 千植誌 2003：110, 108

**【写真】** 2000 東京都 大場達之  
(大場達之 / 天野誠)



## A ヒメキカシグサ ミソハギ科

2009	X
2017	X
2023	A

*Rotala elatinomorpha* Makino

**【種の特性】** 小型の一年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で水散布。キカシグサの水の深いところに生えた一型という説もある。しかし、東京大学の標本は栽培したものを標本にしたにもかかわらず本来の形態を保っていることからすると独立種の可能性が高い。湿地に生える。アゼナ群団。[Th]

**【分布】** 本州（千葉）・四国（高知）。

**【県内の状況】** 1902年に高知県と佐倉市のものを基準標本として記載されたが、その後ほかの地域からは採集されていない。基準標本は東京都立大学牧野標本館に収蔵されており、高知県のものが正基準標本に選定されている(MAK-152329)。佐倉市ではその後も採集されている。千葉県植物誌(1958)の巻頭にはヒメキカシグサが図説された。これは前記の採集品に基づいたものであろう。新版千葉県植物誌(1975)に「牧野富太郎博士、Sep.10、1953、佐倉市に採集、typeの一つ」とあるが採集されたのは1895年である。

**【保護対策】** 生育地周辺の詳細調査により発見できる可能性がある。発見されなくても埋土種子として残っている可能性があるので裸地を新しく作るなどして、再生を促すことも考えられる。

**【文献】** 牧野富太郎 1910 植物学雑誌 100-101 / 渡辺清彦 1958 千植誌 1958：9 / 新千植誌 1975：394 / 千植誌 2003：392, 388 / 平凡社版 日本の野生植物 II pl.238にあるヒメキカシグサの写真はヒメミソハギなので注意が必要である

**【写真】** 1961 印旛沼 東京都立大学牧野標本館所属標本  
(大場達之 / 天野誠)



## A オオアカバナ アカバナ科

2009	
2017	
2023	A

*Epilobium hirsutum* L. var. *villosum* (Thunb.) Hausskn. ex H.Hara

**【種の特性】** 大型の多年生草本で茎は直立し高さ 1.5m 近くになる。地下茎を長くのびし、しばしば群生する。茎や葉は軟毛を密生する。花期は 6～8 月。花弁は長さ 10～20mm の紅紫色で大きく目立つ。柱頭は 4 裂で開出する。国内分布は中部～東北に稀とされてきたが、2019 年には横浜市の谷戸にある放棄水田で新たに生育が確認された（佐々木・和田 2020）[H]

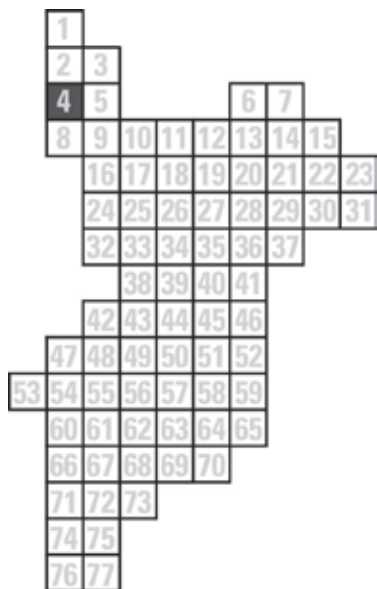
**【分布】** 本州（中部以北）。ユーラシア～アフリカ北部の温帯。

**【県内の状況】** 2020 年に野田市の休耕田で新たに生育が確認された。

**【保護対策】** 生育環境を良好に維持することが望ましい。開発、除草剤の使用などは控える。また遷移の進行による草原化にも留意が必要。類似する生育環境を精査することで新たな産地が発見される可能性がある。

**【文献】** 佐々木・和田 2020

**【写真】** 2020.8.2 野田市 岩槻秀明  
(岩槻秀明)



## A ハマアカザ ヒユ科

2009	
2017	A
2023	A

*Atriplex subcordata* Kitag.

**【種の特性】** 中型の一年生草本。葉は互生に着き、下部の葉は披針形で、上部の葉は三角形で厚い。果実は菱形で幅 5 mm。風媒で、重力散布。花期は、8 月～10 月。海岸の砂地に生育する。オカヒジキ群綱。[Th] 九州。朝鮮、中国。

**【分布】** 北海道・本州。朝鮮、千島列島、サハリン。

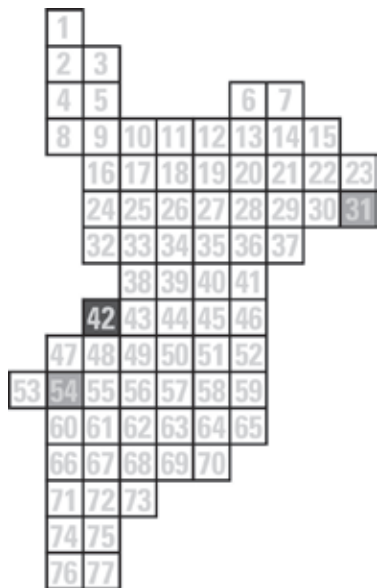
**【県内の状況】** 富津市で、1951 年 9 月 6 日に採集された標本（CBM BS-191510）と銚子市で 1959 年 7 月 12 日に採集された標本（CBM BS-10049）と袖ヶ浦市で、1995 年 10 月 25 日に採集された標本（CBM BS-143883）がある。

**【保護対策】** 生育地の砂泥地を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 千植誌 1958:384 / 新千植誌 75:429 / 千植誌 2003:168

**【写真】** 1959.7.12 銚子市 標本：CBM BS-10049

(天野誠)



## A カワラアカザ ヒユ科

2009	
2017	
2023	A

*Chenopodium virgatum* Thunb.

【種の特性】 中型の一年性草本。高さ 20～60cm。茎は直立する。葉は、長楕円形で長さ 15～30mm。花序はほぼ分枝しない。花序の軸に白い毛がある。風媒で、重力散布。花期は、7月～10月。川原や砂浜に生育する。[Th]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、ウスリー。

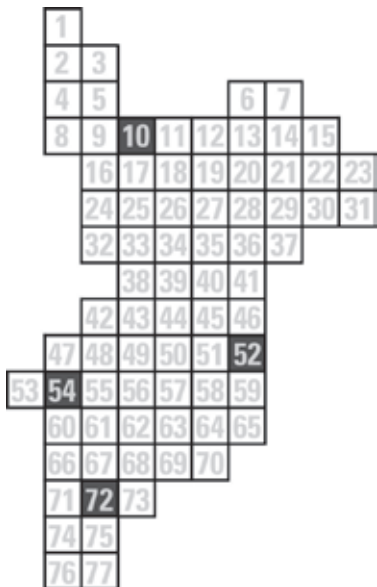
【県内の状況】 富津市で、1999年10月6日に採集された標本（CBM BS-184370）と南房総市で、1999年7月4日に採集された標本（CBM BS-185992）と柏市で、1997年9月6日に採集された標本（CBM BS-128170）がある。新千植誌 75では、マルバアカザと同種として、市川市、柏市、船橋市、銚子市、長生村、一宮町、館山市に記録がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい

【文献】 千植誌 1958:385 / 新千植誌 1975:429  
/ 千植誌 2003 166 / 改訂新版日本の野生植物  
3 2017 138

【写真】 1999.7.4 南房総市 標本: CBM BS-185992

(天野誠)



## A オオヤマフスマ ナデシコ科

2009	B
2017	A
2023	A

*Moehringia lateriflora* (L.) Fenzl

【種の特性】 高さ 8～15 cm の夏緑の小型多年生草本。北方の乾いた芝地や明るい夏緑林の林床に生える。数本の茎を立て、基部で枝分かれする。茎は円筒形で十字対生。葉は楕円形で、鈍頭、基部は楔形で、無柄、長さ 8～18 mm。葉は全縁で、葉脈と縁にわずかに毛がある。花は上部の葉腋に単生する。花は 5 数性で、萼片は楕円形、鈍頭、長さ 2～2.5 mm。花弁は、狭倒卵形で全縁、白色で、長さ 5～6 mm。果実は蒴果で、卵形、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。北半球温帯。県内では北総に点在する。

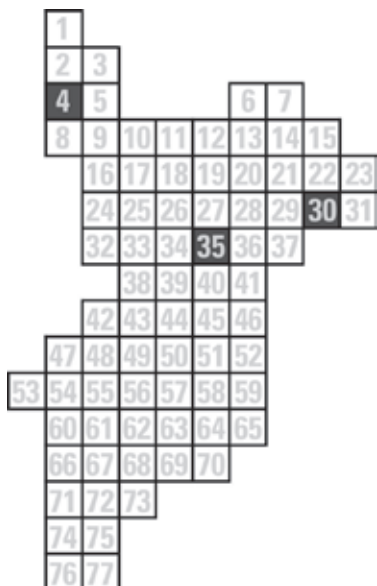
【県内の状況】 銚子市（1933.6.1 CBM BS-269）に分布することは古くからよく知られているが、野田市（1981.4.29 CBM BS-139236）、千葉市などの内陸部でも報告されている。

【保護対策】 自生地の草地を保全することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975 : 425 / 土屋守 1999 野田市の植物 (1) : 千生物誌 50(1) : 14

【写真】 1933.6.1 銚子市 標本: CBM BS-1269

(天野 誠)



## A ヒナワチガイソウ ナデシコ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Pseudostellaria heterantha* (Maxim.) Pax var. *linearifolia* (Takeda) Nemoto

**【種の特性】** 高さ7～12 cmの夏緑の小型多年生草本。明るい夏緑林に生える。肥大して紡錘形の根を1～3本つける。茎は単生、葉は対生。葉は狭楕円形から線形で、鋭頭、基部は楔形で、無柄、長さ3～5 cm。葉は全縁で、葉脈と縁にわずかに毛がある。花は上部の葉腋に単生する。花は5数性で、萼片は披針形、鋭頭、長さ2～2.5 mm。花弁は、狭倒卵形で全縁、白色で、長さ5～6 mm。果実は蒴果で、卵形、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で重力散布。ワチガイソウに似て葉が細い。夏緑林に生える。[G] 低地遺存ブナ帯要素。

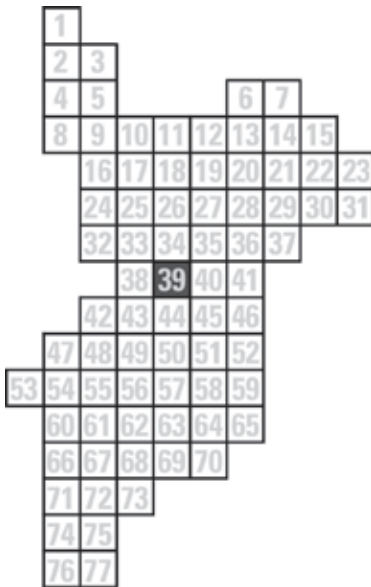
**【分布】** 本州・四国。従来は茨城県、東京都から知られていたが、千葉県のほか高知県、京都府、静岡県、山梨県、埼玉県などにもヒナワチガイソウに相当するものがあるという（善養寺・天野 1995）。

**【県内の状況】** 千葉市の雑木林で採集された（1993.05.01 CBM BS-77693）。

**【保護対策】** 生育環境を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 檜山庫三 1965 武蔵野の植物 45 / 善養寺聡彦・天野誠 1995 千葉県新産のヒナワチガイソウの分布と生育環境. 千葉県立中央博物館研究報告 3(2) : 165-166. / 千植誌 2003 : 156,174

**【写真】** 2003. 千葉市 平田和弘 (大場達之 / 天野 誠 追補)



## A イトハコベ ナデシコ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Stellaria filicaulis* Makino

**【種の特性】** 高さ25～50 cmの夏緑の多年生草本。大きな河の氾濫原に生える。オギなどの茂みに他の草によりかかって生える。茎は無毛、ほぼ直立する。葉は線形で、鋭尖頭、対生する。ほぼ無柄。葉は全縁で、無毛。花は初夏に咲く。花は上部の葉腋に単生する。花柄は長く5 cmに達することがある。花は5数性で、萼片は披針形で、鋭尖頭、白膜の縁取りがある。花弁は、倒披針形で深く2裂する。白色で、長さ約6 mm。雄しべの数は10本のことが多い。果実は蒴果で、楕円球。虫媒で風散布。ヨシ群網。[H]。

**【分布】** 本州（東北、関東）。朝鮮、中国。

**【県内の状況】** 利根川沿岸及び印旛沼畔に古くから知られていたが近年は全く報告がない。絶滅した可能性が高い。現在多古光湿原に自生が知られている。

**【保護対策】** 利根川上流の渡良瀬遊水池に自生が知られており、利根川流域の自然的な氾濫原の植生を保全することによって自然的な再定着が期待できる。

**【文献】** 篠崎信四郎 1929 東京植物同好会の下総手賀沼採集行. 植物研究雑誌 6 : 362-366 / 新千植誌 1975 : 427 では、7ヶ所の産地を挙げ、「普通」としている. / 千植誌 2003 : 155,173

**【写真】** 1939.6. 佐倉市 標本 : CBM BS-131975

(大場達之 / 天野 誠 追補)



## A シロバナナガバノイシモチソウ モウセンゴケ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Drosera indica* L.f. *albiflora* Makino

**【種の特性】** 食虫性の一年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。花の赤いナガバノイシモチソウは伊勢湾沿岸などに見られるが、千葉県にあるものはすべてシロバナである。ホシクサーコイヌノハナヒゲ群団。[Th]

**【分布】** 本州、九州。花の赤いナガバノイシモチソウは伊勢湾沿岸などに見られるが、千葉県にあるものはすべてシロバナである。熱帯アジア、オーストラリア、アフリカ。

**【県内の状況】** 1880年8月に長生村で採集したものがシロバナナガバノイシモチソウの日本での初記録である (TI および TNS-48314)。その後 1897 年に一宮町で採集され、山武市、大網白里市、匝瑳市、茂原市、東金市などで記録されたが、現在確実な産地は成東・東金食虫植物群落と長生村の

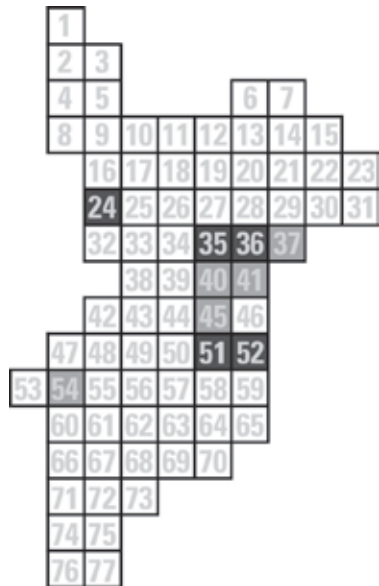
2地点のみである。後者は工業団地の造成地に埋土種子集団から発生したもので、開発により失われる運命にある。また東京湾側では富津市で 1965 年に確認されているが、環境の変化により絶滅した。従って現在安定した生育地は成東・東金食虫植物群落のみである。かつての生育地には埋土種子が残されていると考えられ、生育地を再生させることは可能である。

**【保護対策】** 湿地環境を良好に維持し、観賞用の採取・販売・栽培をしない。

**【文献】** 小宮定志・柴田千晶 1994 総説ナガバノイシモチソウ. 日本歯科大学紀要 (一般教育系) 23: 125-155 / 千植誌 2003: 220, 223 (ナガバノイシモチソウとして)

**【写真】** 1988 山武市 谷城勝弘

(大場達之/天野誠)



## A ウナギツカミ タデ科

2009	
2017	A
2023	A

*Persicaria aestiva* Ohki

**【種の特性】** 中型の一年生草本。高さ 40 ~ 90cm。茎は斜上し、上部で分枝する。茎には逆棘がある。葉は、矢尻形。花序は頭状花序。虫媒で、重力散布。花期は、5月~7月。湿地に生育する。[Th]

**【分布】** 北海道・本州。千島列島 (南部)、朝鮮、中国、ヒマラヤ、シベリア、ロシア (極東)。

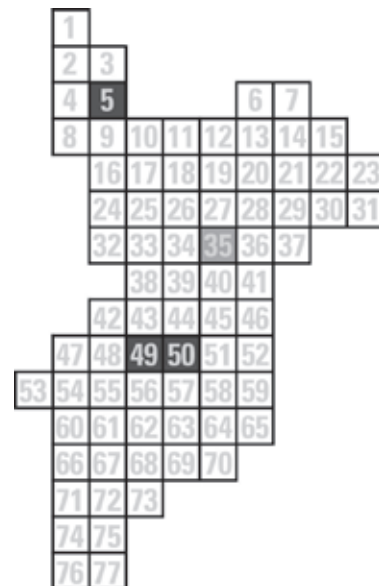
**【県内の状況】** 山武市で 1934 年 5 月 31 日に採集された標本 (CBM BS-379455) と長南町で 1960 年に採集された標本 (CBM BS-143450) と野田市で 1998 年 6 月 21 日、1999 年 5 月 30 日、(CBM BS-164811、CBM BS-262911) に採集された標本と木更津で 2018 年 6 月 6 日に採集された標本 (CBM BS-408119) がある。他に船橋市、成田市、山武市、市川市に記録がある。

**【保護対策】** 生育地を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 千植誌 2003 144

**【写真】** 2018.6.6 木更津市 標本: CBM BS-408119

(天野誠)



A シラカワタデ タデ科

2009	
2017	
2023	A

*Persicaria maculosa* Gray subsp. *hirticaulis* (Danser) S.Ekman & Knutsson var. *amblyophylla* (H.Hara) Yonek.

**【種の特性】**大型の一年生草本で、肥沃や農耕地などに生え、近縁種のおオイヌタデやハルタデなどと混生することも多い。ハルタデの変種とされ、葉が倒卵状長楕円形で先端が急に凸端となり、その特徴的な葉形から、母種とは容易に識別できる。またハルタデ（オオハルタデ含む）に比べるとより大型で、生育の良い個体は茎の高さが1.5～2mにも達する。分布がきわめて特異的で、国内の既知の産地は栃木、福島、宮城の3県のみであった。和名は発見地の福島県白河市にちなむ。シロザ群綱 [Th]

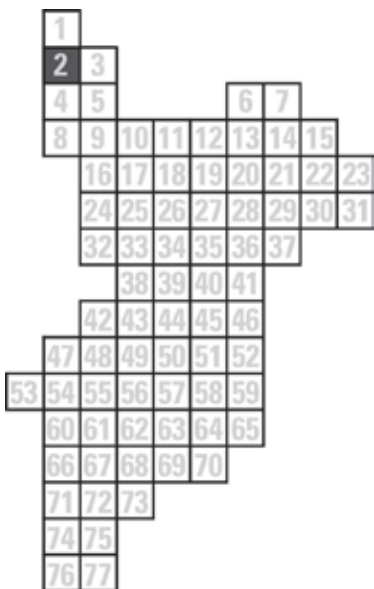
**【分布】**本州（東北地方南部～関東）。朝鮮。

**【県内の状況】**2018年野田市で生育が確認された（標本情報）。複数の休耕地で群生しているほか、周辺の路傍などにも少数散見される。今回野田市の産地が新たに発見されたことで、分布の南限を更新したものと考えられる。

**【保護対策】**生育環境を良好に維持することが望ましい。適度な草刈りは必要だが、除草剤の使用はなるべく控える。

**【文献】**改訂新版日本の野生植物4 2017 97 / 2018 レッドデータブックとちぎ 2018

**【写真】**2019.6.6 野田市 岩槻秀明 (岩槻秀明)



最重要保護 A

A ノダイオウ タデ科

2009	
2017	A
2023	A

*Rumex longifolia* DC.

**【種の特性】**大型の多年生草本。茎は、60～170cm。下部の茎葉は、三角状卵形で柄がある。長卵形から卵形、低鋸歯がある。翼状萼片の縁は低鋸縁か全縁、中脈にこぶはない。風媒で、重力散布。花期は、6月から8月。湿地に生育する。[H]

**【分布】**北海道、本州。

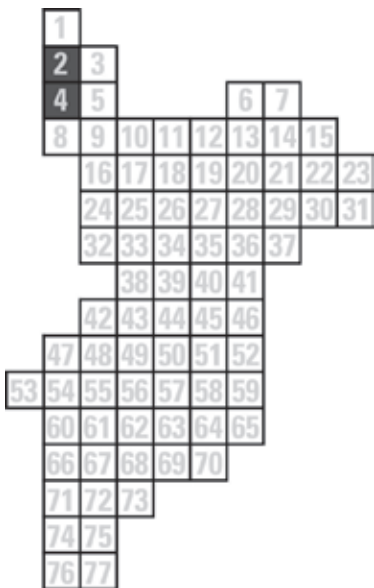
**【県内の状況】**野田市で2012年5月25日に確認している。

**【保護対策】**生育地の湿地林を良好に維持することが望ましい。

**【文献】**千植資料2 8 2013 273,274 / 改訂新版日本の野生植物3 2016 263

**【写真】**2021.6.12 野田市 岩槻秀明

(天野誠)



## A コアジサイ アジサイ科

2009	B
2017	A
2023	A

*Hydrangea hirta* (Thunb.) Siebold

**【種の特性】** 高さ約1～2mの夏緑の小型低木。山地の湿った夏緑林の林床に生える。数本の有髄の幹を叢生する。茎は円筒形で十字対生。樹皮は細かく縦に裂ける。葉は楕円形で、鋭頭、大きな鋭鋸歯がある。基部は楔形で、有柄、葉身は長さ3.5～7.5cm。枝先に密な複散房花序を付ける。装飾花はない。花は5数性で、萼片は卵形で、鋭頭、長さ約0.5mm。花弁は、狭倒卵形で全縁、薄紫色で、長さ約1.5mm。雄しべは長さ約2.5mmで、よく目立つ。雌しべは3心皮で、離生。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。ブナ群綱[N]

**【分布】** 本州（関東以西）・四国。

**【県内の状況】** 長生村（1965.7.25 CBM BS-226890）と船橋市（2001.5.30 CBM BS-181179）の標本があり、柏市に記録がある。

**【保護対策】** 生育環境を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 千植誌 2003：258, 265

**【写真】** 1985 神奈川県 大場達之  
(大場達之/天野 誠  
追補)



## A ヒトツバイチャクソウ ツツジ科

2009	
2017	A
2023	A

*Pyrola japonica* Klenzke var. *subaphylla* (Maxim.) H.Andres

**【種の特性】** 小型の多年生草本。葉はないか、小さいものが一枚。全体が赤みがかかることが多い。虫媒で、風散布。花期は、6月～7月。林床のやや湿った所に生育する。[G]

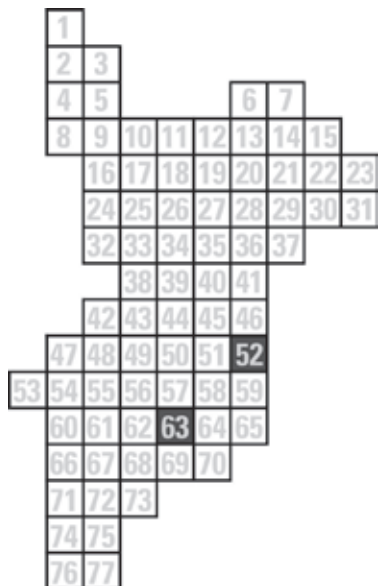
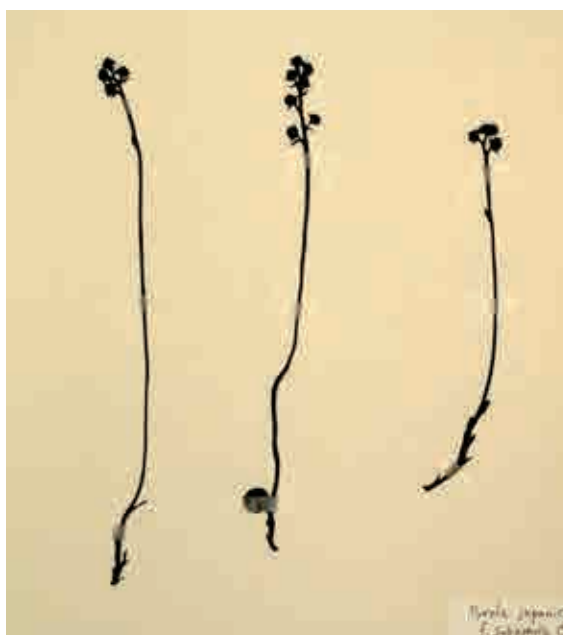
**【分布】** 北海道・本州

**【県内の状況】** 大多喜町で、1996年6月13日に採集された標本（CBM BS-119579）と一宮町で、1999年6月10日に採集された標本（CBM BS-161359）がある。

**【保護対策】** 生育地を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 千植誌 2003：430

**【写真】** 1996.6.13 大多喜町 標本：CBM  
BS-119579  
(天野誠)



## A マルバノイチヤクソウ ツツジ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Pyrola nephrophylla* (Andres) Andres

**【種の特性】** 小形の常緑多年生草本。地下茎は地中を横走，根生葉はロゼット状に集まり，偏円形で長さ1.5～3.5 cm，幅1.5～3.5 cm。花は5～7月。花茎は高さ10～15 cmで，白色の花を下向きに4～7花をつける。虫媒で風散布。(H)。主にブナ帯のやや乾いた夏緑林，モミ林の林床に生える。低地ブナ帯遺存要素と考えられる。

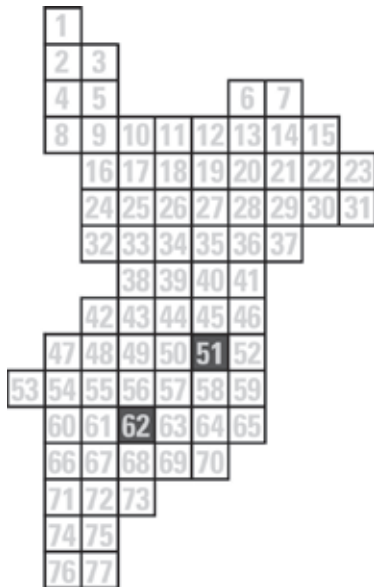
**【分布】** 北海道・本州・四国・九州，南千島。

**【県内の状況】** 八街市と茂原市から記録があり，最近では君津市で1995年6月7日に採集されている (CBM BS-152903)。

**【保護対策】** 生育環境である乾き気味の林を計画的に保全する。

**【文献】** 千植誌 1958 : 44, pl.8:64 図 / 千植誌 2003 : 430, 418

**【写真】** 1984 長野県 大場達之 (大場達之 / 天野誠)



## A バイカツツジ ツツジ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Rhododendron semibarbatum* Maxim.

**【種の特性】** 夏緑低木。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。ブナ帯の乾いた夏緑林や夏緑・針葉混交林に生える。低地遺存ブナ帯要素。[N]

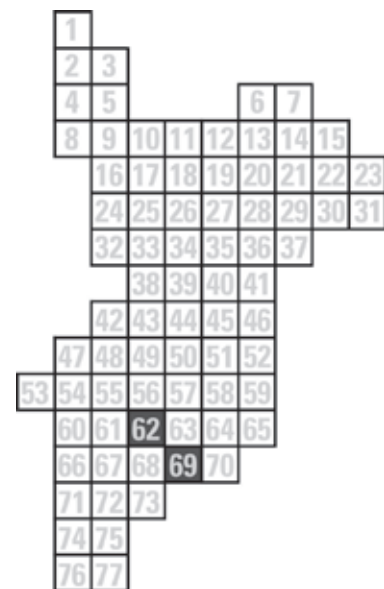
**【分布】** 北海道 (南部)・本州・四国・九州。

**【県内の状況】** 清澄山・三石山付近で採集されているが少ない。

**【保護対策】** 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしない。

**【文献】** Yamazaki, T. 1996 A revision of the Genus *Rhododendron* in Japan, Taiwan, Korea and Sakhalin. p.29-31. / 千植誌 2003 : 432, 419

**【写真】** 1990.5 千葉市栽培 大場達之 (大場達之 / 天野誠)



## A コカモメヅル キョウチクトウ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Tylophora floribunda* Miq.

【種の特性】多年生つる草本。葉は単葉で対生し卵心形。花は7～8月に咲き、紅紫色で花弁の上面に細かな毛が多い。虫媒で風散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】流山市と横芝光町から確認されている希な植物である。

【保護対策】生育地の環境の改変を防ぐ。

【文献】千植誌 2003：464, 455 / 木村陽子・蓮見和子 2004 千葉県で再発見されたコカモメヅル. 千資料 20：149-150

【写真】2004. 流山市  
木村陽子  
(大場達之/天野誠)



## B キヌタソウ アカネ科

2009	B
2017	A
2023	A

*Galium kinuta* Nakai & H.Hara

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で輪生。虫媒で重力散布。明るい疎林の林縁などに生える。

【分布】本州・四国。中国。

【県内の状況】柏市、市川市、船橋市、鎌ヶ谷市など県北西部から確認されているが近年の確認報告はない。既知生育地ではいずれも市街化が著しく、生育地の多くは失われた可能性が高い。

【保護対策】生育地を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：466,459

【写真】1988.8.11 滋賀県 石川和宏  
(大場達之/谷城勝弘 追補)



## A オククルマムグラ アカネ科

2009	
2017	A
2023	A

*Galium trifloriforme* Komar.

【種の特性】小型の多年生草本。茎はやや斜上するか直立する。分果には、長毛が生える。虫媒で、重力散布。花期は、6月～7月。溪流脇のやや湿った所に生育する。[H]

【分布】北海道・本州・九州。朝鮮、中国（東北部）、千島列島（南部）、サハリン。

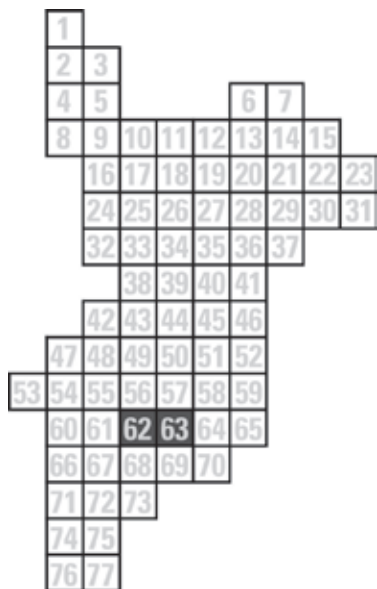
【県内の状況】鴨川市で、2010年5月26日に採集された標本（CBM BS-298050）のみである。君津市、堂沢林道でも目視されている。個体数はいずれも十株以下である。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌資料 2012 268

【写真】1995.5.28 宮城県 CBM BS-99190

(天野誠)



最重要保護  
A

## A オオハシカグサ アカネ科

2009	
2017	A
2023	A

*Neanotis hirsuta* (L.f.) W.H.Lewis var. *glabra* (Honda) H.Hara

【種の特性】一年生草本。林縁や路傍などのやや湿った半日陰地に生える。ハシカグサの変種で、萼筒が無毛。ハシカグサに比べると全体的に大きく、地を這いながら節々から発根する。茎はやや多汁質でやわらかく折れやすい。葉はほぼ無毛で光沢がある。[Th]

【分布】本州（東北、中部の日本海側）。

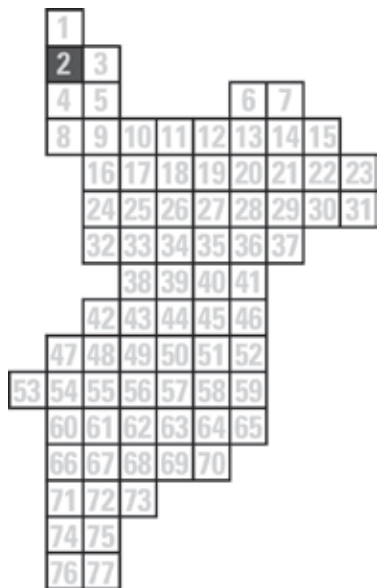
【県内の状況】野田市に点々と生育が見られる。谷津林縁の水路べりやあぜなどに自生するものの、いずれも個体数は少ない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。適度な草刈りは必要だが、除草剤の使用はなるべく控える。

【文献】岩槻秀明. 2009 野田市でオオハシカグサ発見. 千植資料 25 : 245-246

【写真】2019.9.30 野田市 岩槻秀明

(岩槻秀明)



**A ヤマトグサ アカネ科**

2009	B
2017	B
2023	A

*Theligonum japonicum* Okubo & Makino

**【種の特徴】** 小形の多年生草本で高さ 10～25 cm。茎に下向きの毛をつける毛条がある。葉は単葉で対生し卵形。花は 4～6 月。雌雄異花で、雄花は花被片 3 個、雄しべは 20～25 個で長い柄で垂れ下がる。雌花は小形で葉腋につく。風媒で重力散布。シオジ-ハルニレ群目。[H]

**【分布】** 本州・四国・九州。

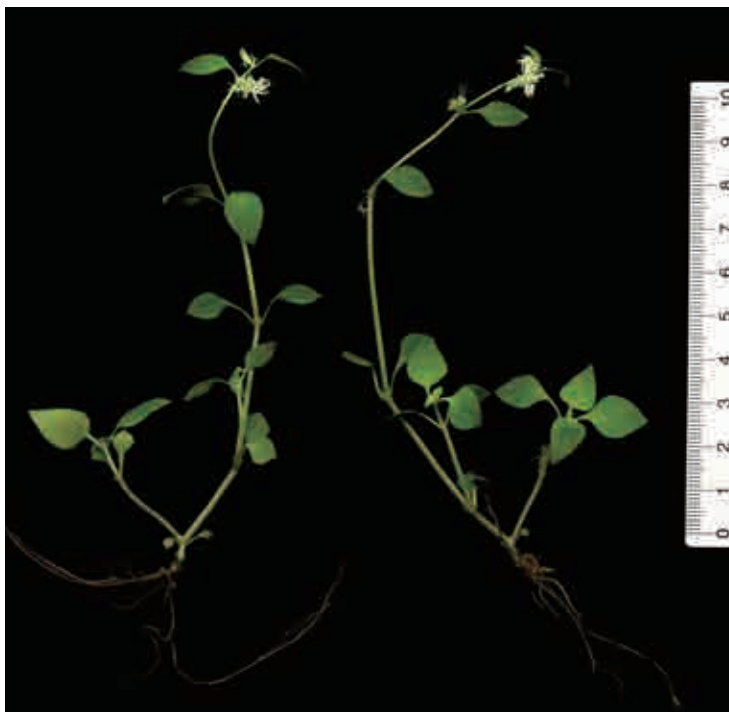
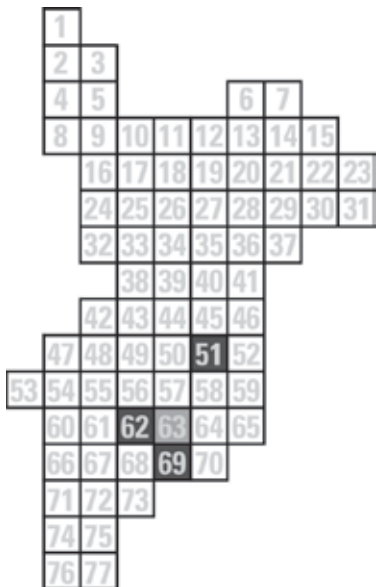
**【県内の状況】** 暗い湿った林の下に生え、清澄山周辺に見られたが、現在は草食獣の食害のため確認できない。

**【保護対策】** 草食獣の頭数を適正にコントロールする。

**【文献】** 千植誌 2003：406, 401

**【写真】** 1998. 清澄山 大場達之

(大場達之/天野誠)



**A ハグロソウ キツネノマゴ科**

2009	B
2017	B
2023	A

*Peristrophe japonica* (Thunb.) Bremek.

**【種の特徴】** 多年生草本。林床に群れて生える。葉は単葉で対生。花は 7～10 月に咲き紅紫色で、花被の上下の 2 裂片が目立つ。虫媒で自力散布。日陰の林縁。[H]

**【分布】** 本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮、中国。

**【県内の状況】** 山武市などのスギ植林中に見られるが少ない。館山市からの報告もある。

**【保護対策】** 目立った花をつけるので、観賞用などの採集を防止する。

**【文献】** 千植誌 2003：542, 531

**【写真】** 1999.8.29 山武市 大場達之  
(大場達之/天野誠)



最重要保護 A

A イワタバコ イワタバコ科

2009	
2017	B
2023	A

*Conandron ramondioides* Siebold & Zucc.

**【種の特性】** 小型の多年生草本。葉は楕円形で、1枚か2枚。葉が狭卵形、基部は丸く、左右相称。葉の裏に毛がない。葉腋から花茎を出し、2から20個の花を付ける。花冠は直径1.5cmで5裂する。花期は、7月～8月。虫媒で、風散布。湿った崖に生育する。[H]

**【分布】** 本州・四国・九州

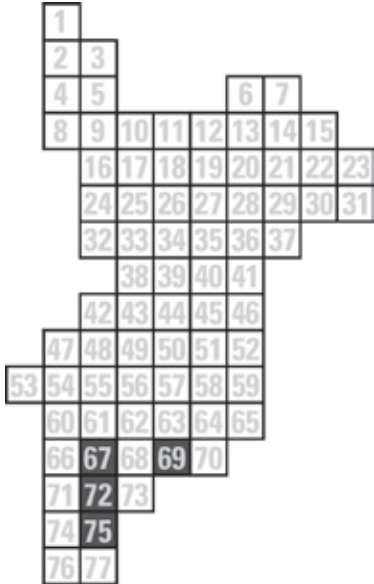
**【県内の状況】** 南房総市で2009年6月11日に採集された標本（CBM BS-301767）と同市で2009年7月7日に採集された標本（CBM BS-287203）と鴨川市で1997年5月11日（CBM BS-140927）に採集された標本と南房総市で1996年11月10日に採集された標本（CBM BS-109342）がある。

**【保護対策】** 生育地を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 千植誌 1958 325 / 新千植誌 1975 371 / 千植誌 2013 543 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017 68

**【写真】** 2009.6.11 南房総市 標本：CBM BS-287203

(天野誠)



A カワミドリ シソ科

2009	
2017	A
2023	A

*Agastache rugosa* (Fisch. & C.A.Mey.) Kuntze

**【種の特性】** 中型の多年生草本。全体に芳香がある。茎は高さ40～100cm、断面は四角い。葉は広卵形から卵心形。穂は頂生、花冠は紅紫色で、下唇は3裂する。虫媒で、重力散布。花期は、8月～10月。林縁に生育する。[H]

**【分布】** 北海道、本州、四国、九州。

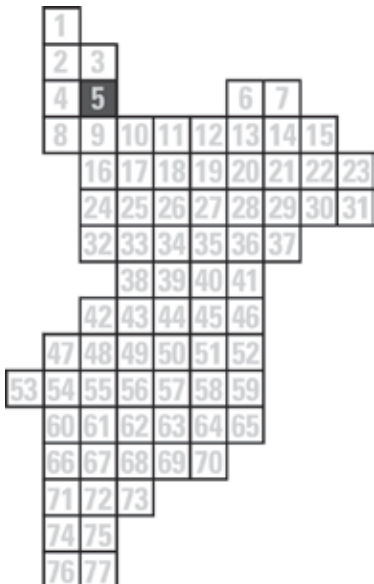
**【県内の状況】** 千葉市で、2009年9月23日に採集された標本（CBM BS-282801）と野田市で、2008年9月13日に採集された標本（CBM BS-302297）がある。

**【保護対策】** 生育地の草地を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 千植誌 1958 367 / 新千植誌 1975 409 / 千植誌 2003 309 / 改訂新版日本の野生植物 2 2016 299

**【写真】** 2009.9.23 千葉市 標本：CBM BS-282801

(天野誠)



## A ヤマクルマバナ シソ科

2009	
2017	B
2023	A

*Clinopodium chinense* (Benth.) Kuntze subsp. *glabrescens* (Nakai) H.Hara

【種の特性】 中型の多年性草本。茎は高さ 20～80cm、断面は四角い。葉は卵形から狭卵形。輪散花序で、花は密集する。花冠は、クルマバナより小さく長さ 6～8mm で、淡紅紫色。で、下唇の中央裂片は幅より長さが短い。虫媒で、重力散布。花期は、8月～9月。林縁に生育する。[H]

【分布】 北海道、本州、四国、九州。

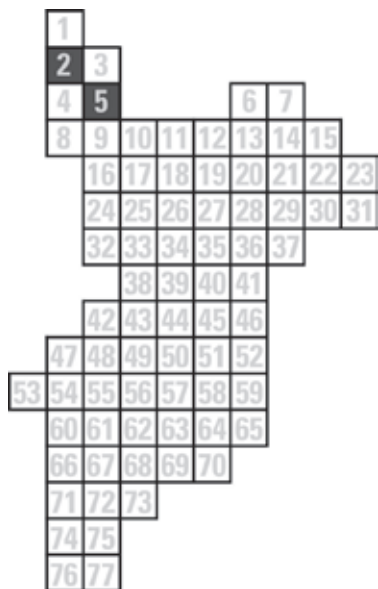
【県内の状況】 野田市で 2009 年 4 月 18 日に、同市で 2009 年 7 月 11 日に、同市で 2010 年 4 月 3 日に確認している。

【保護対策】 生育地の河川敷を良好に維持することが望ましい。

【文献】 木村陽子・岩槻秀明 2010 千植誌資料 26 259 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017 131

【写真】 2012.7.18 野田市 岩槻秀明

(天野誠)



## A ミヤマトウバナ シソ科

2009	
2017	A
2023	A

*Clinopodium sachalinense* (F.Schm.) Koidz.

【種の特性】 中型の多年生草本。高さ 30～50cm。茎は根茎から斜上してから直立する。葉は、長楕円形で長さ 30～50mm、裏の腺点は目立たない。萼には短毛がわずかに生える。虫媒で、重力散布。花期は、9月～10月。落葉樹林の林床に生育する。[H]

【分布】 北海道・本州。千島列島（南部）、サハリン。

【県内の状況】 鴨川市で 1937 年 8 月 15 日に採集された標本 (CBM BS-178791) と君津市で 1990 年 9 月 11 日に採集された標本 (CBM BS-384920) と同市で 1993 年 10 月 21 日に採集された標本 (CBM BS-109520) と多古町で 1997 年 9 月 24 日に採集された標本 (CBM BS-125970) がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958 331 / 新千植誌 1975 376 / 千植誌 2003 505 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017 133

【写真】 1997.9.24 多古町 標本: CBM BS-125970

(天野誠)



## A マネキグサ シソ科

2009	B
2017	A
2023	A

*Lamium ambiguum* (Makino) Ohwi

【種の特性】多年生草本。湿った夏緑林あるいはスギ植林などに生える。葉は単葉で対生。花は濃紅紫色で白く縁取られている。虫媒で重力散布。[H]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州。

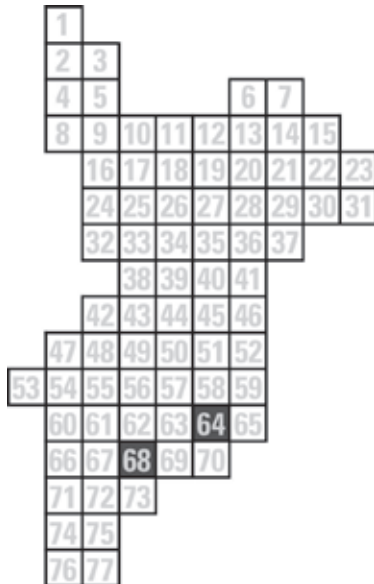
【県内の状況】高宕山系から知られている。三浦半島南部にも分布するので、それと一連の産地であろう。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：508, 511

【写真】1974 三浦半島 大場達之

(大場達之/天野誠)



## A ラショウモンカズラ シソ科

2009	C
2017	A
2023	A

*Meehania urticifolia* (Miq.) Makino

【種の特性】多年生草本。地表に匍匐枝を長く伸ばす。葉は単葉で対生鋸歯がある。花茎は直立し高さ 10～20 cm。花は 5～6 月に咲く虫媒で、重力散布。低地遺存ブナ帯要素。オニシモツケーオオヨモギ群目。[H]

【分布】北海道・本州・四国。

【県内の状況】野田市の山林で 1995 年に発見され、2008 年には鎌ヶ谷市、2013 年には佐倉市でも記録された。

【保護対策】自生地の環境を保全する。

【文献】岩槻秀明 2006 千葉県のラショウモンカズラ. 千植誌資料 21：180

【写真】2013.4.16 佐倉市 標本:CBM BS-315732

(大場達之/天野誠)



## A シラゲヒメジソ シソ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Mosla hirta* H.Hara

【種の特性】 小～中形の一年生草本。茎は高さ 20～50 cm。葉は単葉で対生。ヒメジソに似ているが、1茎と葉の表面に長い軟毛があり、鋸歯の数が多い傾向がある。虫媒で重力散布。[Th]

【分布】 本州・九州。朝鮮南部、台湾。

【県内の状況】 房総丘陵でわずかな採集例がある。館山市の記録もあるが詳細な採集地は明らかでない。

【保護対策】 半日陰の林縁に生えるものと考えられるが、その生育環境の条件を調査する必要がある。

【文献】 千植誌 1958 : 333. / 新千植誌 1975 : 378 / 千植誌 2003 : 501, 497

【写真】 1962.9.17 君津市 標本 : CBM BS-12048

(大場達之/天野誠)



## A トウゴクシソバツナミソウ シソ科

2009	
2017	A
2023	A

*Scutellaria abbreviata* H.Hara

【種の特性】 小型の多年生草本。茎は高さ 3～20 cm、開出する毛があり、上向き、または下向きの毛が混じる。葉は茎の中部より上で最も大きい。花冠は基部でほぼ直角に曲がる。虫媒で、重力散布。花期は、5月～6月。落葉樹林の林床に生育する。[H]

【分布】 本州。

【県内の状況】 成田市で、2002年6月1日に採集された標本 (CBM BS-191750) がある。

【保護対策】 生育地の林を良好に維持することが望ましい。

【文献】 改訂新版日本の野生植物 5 2017 118

【写真】 2002.6.1 成田市 標本 : CBM BS-191750

(天野誠)



## A イガタツナミソウ シソ科

2009	
2017	B
2023	A

*Scutellaria kurokawae* H.Hara

【種の特性】小型の多年生草本。茎は高さ10～30cm、開出する毛がある。節間は普通、葉よりも長い。葉裏は紫色を帯びる。花冠は基部でほぼ直角に曲がる。花はまばら。虫媒で、重力散布。花期は、5月～6月。落葉樹林の林床に生育する。[H]

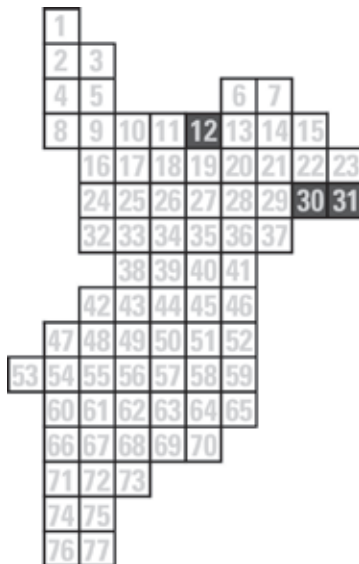
【分布】本州・四国。

【県内の状況】成田市で、2003年5月31日に採集された標本（CBM BS-229525）と銚子市で、2003年5月18日に採集された標本（CBM BS-306390）と銚子市で、2013年6月6日に採集された標本（CBM BS-336519）がある。

【保護対策】生育地の林を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 491 / 日本の野生植物 3 1981 77

【写真】2009.5.26 成田市 谷城勝弘



(天野誠)



## A デワノタツナミソウ シソ科

2009	
2017	A
2023	A

*Scutellaria muramatsui* H.Hara

【種の特性】小型の多年生草本。高さ20～30cm。茎には下向きの短い毛がある。葉は、三角状卵形で長さ15～35mm、4～8の丸い鋸歯がある。花冠の唇弁に紫の斑点がない。虫媒で、重力散布。花期は、5月～6月。落葉樹林の林床に生育する。[H]

【分布】本州

【県内の状況】長生村で1966年5月4日と6月4日に採集された標本（CBM BS-227310, CBM BS-227319）と市原市で1999年6月24日に採集された標本（CBM BS-208893）と同市で2000年6月5日に採集された標本（CBM BS-276750）がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】改訂新版日本の野生植物 5 2017 118

【写真】1966.5.4 長生村 標本: CBM BS-227310

(天野誠)



A ノタヌキモ タヌキモ科

2009	B
2017	A
2023	A

*Utricularia aurea* Lour.

【種の特性】 浮遊性の一年生草本。葉は羽状複葉で互生し、立体的に羽状に分裂し筆状になる。花は夏、花茎に鱗片葉はなく、花柄は花のあと肥厚し垂れ下がる。虫媒で水散布。タヌキモと混同されることが多い。[Th] ウキクサ群綱。かつては水田の水路などに多く見られた。

【分布】 本州・四国。朝鮮、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】 手賀沼、印旛沼、市川市、流山市などで記録され、最新記録年は1961年、現状は不明で絶滅している可能性が高い。

【保護対策】 低地において水田の排水から切り離された淡水水面を確保することが重要である。

【文献】 Komiya, S. & C. Shibata 1979 Distribution of the Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ. 9 : 196-197 / 千植誌 2003 : 545, 549

【写真】 1952.9.29 三重県桑名郡 標本 : CBM BS-137748

(大場達之/天野誠)



A チョウシタヌキモ タヌキモ科

2009	
2017	A
2023	A

*Utricularia australis* R.Br. f. *fixa* Komiya & C.Shibata

【種の特性】 小型の多年性草本。浮遊性で、根を持たない。長さ50cmに達する。葉は細かく分かれ、捕虫嚢を付ける。花茎は10cm程度。花数1~5個。夏に箒状の殖芽を付ける。虫媒で、重力散布。花期は、9月。湿地に生育する。[HH]

【分布】 本州

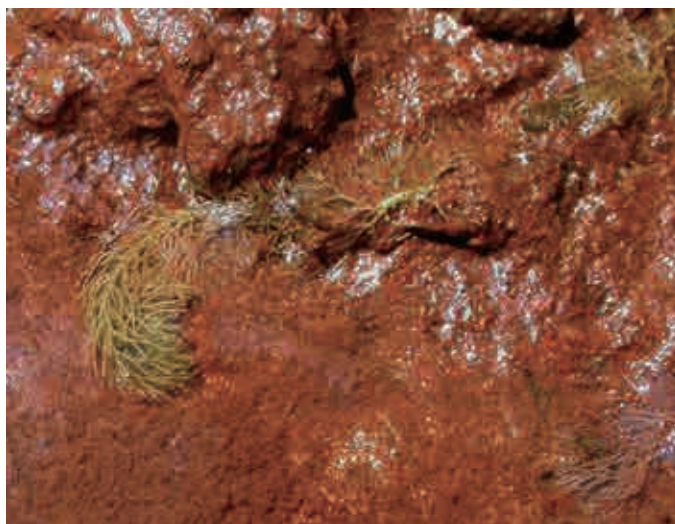
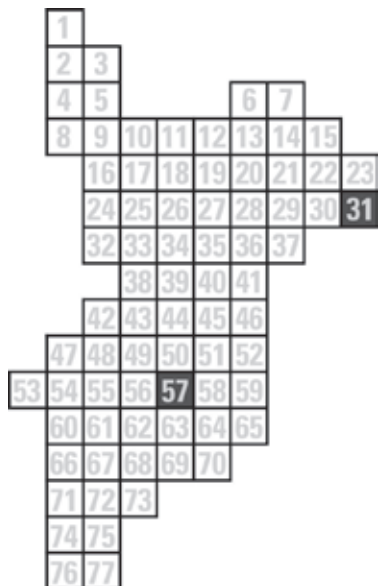
【県内の状況】 銚子市で1989年9月17日に採集された標本(CBM BS-110642)と市原市で1992年9月23日(CBM BS-345674)に採集された標本と同市で1992年9月9日に採集された標本(CBM BS-353372)と大多喜町で2005年6月16日に採集された標本(CBM BS-269652)がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 546

【写真】 2010.9.11 銚子市 谷城勝弘

(天野誠)



## A ママコナ ハマウツボ科

2009	B
2017	A
2023	A

*Melampyrum roseum* Maxim. var. *japonicum* Franch. & Sav.

【種の特性】一年生草本。少し乾いた二次林に生え、アカマツ林などの酸性土壌に見られることが多い。高さ10～25cmほど。葉は単葉で対生。花は紅紫色。虫媒で風散布。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

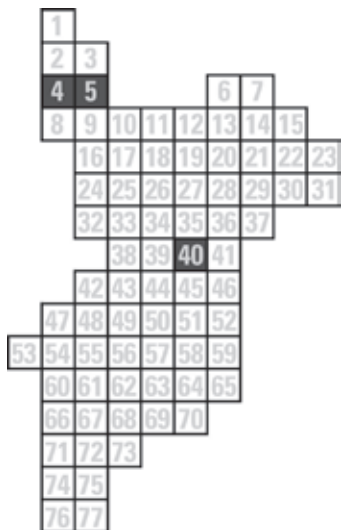
【県内の状況】野田市、市川市、大網白里市などの報告があるが、千葉県立中央博物館で確認できる標本はすべて野田市で採集されたものである。野田市で1996年6月25日に採集された標本がもっとも最近における記録である。

【保護対策】半寄生の一年草で、貧栄養に傾いた、やや明るい林を好むので、林床の落ち葉かきなどが行われなくなった現在では、生育に好適な環境の維持が難しい。里山公園のような持続的に林床が管理できるような林を保持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：537,527

【写真】2005.7.10 野田市 岩槻秀明

(大場達之/天野誠)



## A ハマウツボ ハマウツボ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Orobanche coerulescens* Stephan

【種の特性】寄生・無葉緑性の一年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で重力散布。砂浜のカワラヨモギの根に寄生する。内陸の草地に生えるものをオカウツボ f. *nipponica* Kitam. といい、花序などの毛が少ないというが中間形が多く区別は難しい。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、アムール、ウスリー、シベリア、東ヨーロッパ。

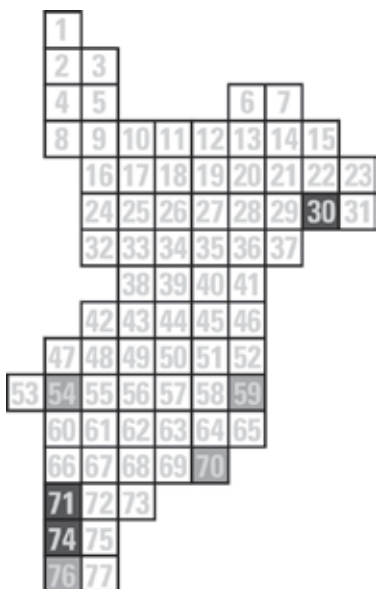
【県内の状況】かつては東京湾沿岸から九十九里にかけての砂浜に多く見られたが、埋め立て、道路建設による砂浜の縮小、砂質の変化などによりハマヨモギが生えるような砂丘後背地の環境が失われ、激減している。現在確認できるのは館山市、銚子市などにすぎない。

【保護対策】砂浜の多年生植物群落の発達するゾーン、特にネコノシターケカモノハシ群集より後背部の植生を保護することが望ましい。九十九里などでは道路建設、クロマツ植栽によってハマウツボの生育環境が失われている。自然の海岸植生を再現することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：371. / 千植誌 2003：532,543

【写真】1998.5.9 館山市 山井廣

(大場達之/天野誠)



## A オカウツボ ハマウツボ科

2009	
2017	A
2023	A

*Orobanche coeulescens* Stephan f. *nipponica* (Makino) Kitam.

【種の特性】 寄生・無葉緑性の一年生草本。オトコヨモギに寄生する。ハマウツボより、毛が少ない。葉は単葉で互生。虫媒で、重力散布。花期は、5月から6月。乾いた草地に生育する。[G]

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 山武市で採集された標本 (CBM BS-25624) と成田市で1932年5月29日に採集された標本 (CBM BS-734) と旭市で1937年6月27日に採集された標本 (CBM BS-183791) と銚子市で2012年6月18日に採集された標本 (CBM BS-331407) と千葉市で2008年5月30日に採集された標本 (CBM BS-295266) がある。



【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:326 / 新千植誌 1975:371 / 千植誌 2003:544 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:156

【写真】 2012.6.18 銚子市 標本: CBM BS-331407

(天野誠)



## A キヨスミウツボ ハマウツボ科

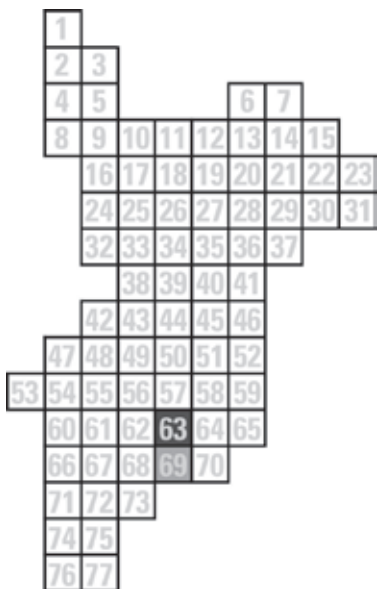
2009	X
2017	X
2023	A

*Phacellanthus tubiflorus* Siebold & Zucc.

【種の特性】 寄生・無葉緑性の多年生草本。虫媒で重力散布。タマアジサイなどの根に寄生する。茎は叢生し5~6月に白い花を咲かせる。フサザクラータマアジサイ群集。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、サハリン、ロシア極東部。

【県内の状況】 1882年に清澄山で採集された標本が東京大学に収蔵されている。これをもとにキヨスミウツボと命名した。湿った谷筋のタマアジサイの根元に生える。千葉県植物誌 (1958) に採集記録が見られる。最近市原市で発見された。



【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 津山尚 1947 東亜産キヨスミウツボ属に就いて。植物研究雑誌 21(712): 131-136 / 中西收・小林禧樹・黒崎史平 2006 キヨスミウツボの生活. 108pp. 兵庫県植物誌研究会

【写真】 1986 神奈川県 大場達之

(大場達之/天野誠 追補)



**A スズメノハコベ** ハエドクソウ科

2009	
2017	A
2023	A

*Microcarpaea minim* (K.D.Koening ex Retz.) Merr.

**【種の特性】** 小型の一年生草本。茎は分岐し、無毛。葉は、無柄で広線形から狭楕円形。花は、一節に一個、萼は5枚、花冠は長さ2mmで、萼と同長。虫媒で、重力散布。花期は、7月～10月。水田や湿地に生育する。アゼナ群団。  
[Th]

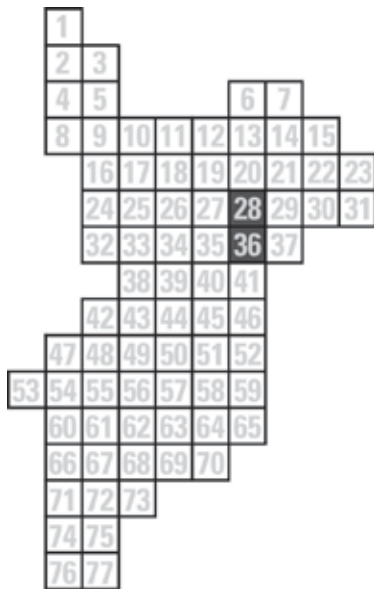
**【分布】** 本州、四国、九州。

**【県内の状況】** 芝山町で1996年11月5日に採集された標本（CBM BS-122418）と、東金市で2002年10月22日に採集された標本（CBM BS-194546）がある。

**【保護対策】** 水田雑草なので、生育地で除草剤を使わないようにする。

**【文献】** 千植誌 1958 327 / 新千植誌 1975 373  
/ 千植誌 2003 534 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017 146

**【写真】** 1996.11.5 芝山町  
標本：CBM BS-172418



(天野誠)



**A オオアブノメ** オオバコ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Gratiola japonica* Miq.

**【種の特性】** 一年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で水散布。高さ10～20cmで葉腋に柄のない花を付ける。水田及び湿地に生える。アゼナ群団。[Th]

**【県内の状況】** 本州・九州。朝鮮、アムール、ウスリー。

**【保護対策】** 水田に生えるが昔から普通の植物ではなく、限られたところのみ見られる。本種に限らず水田に生える一年草の保護は難しい。

**【文献】** 千葉県自然環境保全学術調査報告書 1987. / 千植誌 2003 : 530,541

**【写真】** 22020.6.7 野田市 岩槻秀明

(大場達之/天野誠)



**A ウンラン** オオバコ科

2009	B
2017	B
2023	A

*Linaria japonica* Miq.

【種の特性】多年生草本。高さ5～15cmほどで、砂浜に匍匐して広がる。葉は単葉で対生、粉白色を帯びている。花は単黄色で唇弁はオレンジ色。茨城県以北の砂浜には普通で、千葉県は太平洋岸における南限にあたる。虫媒で風散布。コウボウムギ群団。[G]

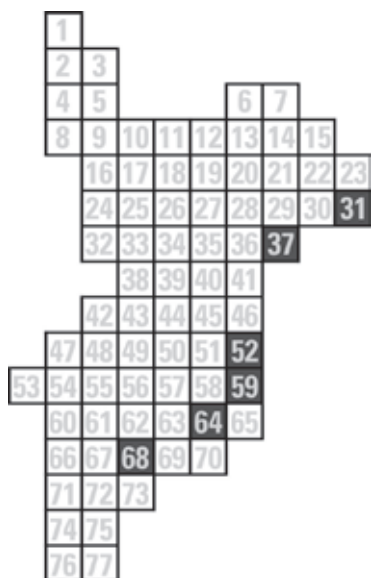
【分布】北海道・本州・四国。朝鮮、中国、サハリン、千島、ウスリー。

【県内の状況】海流で北方から由来する種類で、銚子市に記録が多く、ついで九十九里浜に点々と記録があり、御宿町からも記録がある。

【保護対策】自然的な砂浜のうち、コウボウムギ群落の中や、その周辺に生える植物なので、自然的な砂浜を保ち、海岸前線から内陸に至る植生構造を、本来あるべき動的安定状態に保つことが必要である。千葉県では自然分布の南限であり、海況などにより群落の消長が激しいが、それが自然分布の状態であるから、故意にウンランだけの個体数を増加させるような人為的干渉はつしむべきである。

【文献】千植誌 2003：535, 526

【写真】2013 銚子市 谷城勝弘  
(大場達之／天野誠)



**A ヒメトラノオ** オオバコ科

2009	B
2017	A
2023	A

*Pseudolysimachion rotundum* (Nakai) Holub var. *subintegrum* (Nakai) T.Yamaz. f. *petiolatum* (Nakai) T.Yamaz.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。[H] トダシバーススキ群団。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】北部のススキ草原に知られていたがススキ草原の衰退に伴い減少している。

【保護対策】かつての牧と同様なススキ草原を、里山公園、自然公園のような形で維持することが望ましい。稀少な種だけを分類園風に植えるのは賛成できない。

【文献】千植誌 2003：535, 525

【写真】1980 長野県 大場達之

(大場達之／天野誠)



最重要保護 A

**A イスミスズカケ オオバコ科**

*Veronicastrum noguchii* K.Uehara, K.Saiki & T.Ando

2009	
2017	A
2023	A

**【種の特性】** 多年生草本。溪谷の崖に生え、茎は下垂し、長さ70cmほど、茎の先端は新苗となる。葉は単葉で互生し、枝とともに冬を越して春に枯れる。葉裏はしばしば紅紫色を帯びる。枝は葉柄とともに開出した褐色の毛がある。虫媒で風散布と考えられるが、千葉県では結実が確認されていない。花は7月、葉腋に一個つつの円錐状の短い花序をつける。花冠青紫色で基部は管状で内面に白毛がある。花冠の先端は短く4裂し、開出。雄しべは4本。花柱はやや桃色を帯びる。[N]

**【分布】** 本州（千葉県）

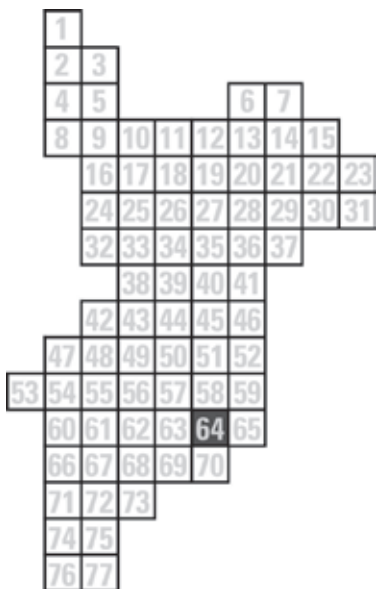
**【県内の状況】** いすみ市のみに生育する。

**【保護対策】** 生育地を良好に維持することが望ましい。希少なため、生育地を明らかにせず、盗掘を防ぐ必要がある。

**【文献】** Uehara,k, K.Saiki & T.Ando 2013 *Veroniczstrum noguchii* (sect. *Plagiostachys*, *Plataginaceae*), a new species from Jaapan. *Acta Phytot. Geobot.* 63: 64-69 / 上原浩一・斎木健一 2014. 千葉県の生物多様性センター研究報告 7 : 79-90

**【写真】** 2013.07.11 いすみ市 木村陽子

(大場達之/天野 誠 追補)



**A キタミソウ ゴマノハグサ科**

*Limosella aquatica* L.

2009	
2017	
2023	A

**【種の特性】** 小型の一年生草本。茎の高さはのびてもせいぜい5cmほどで、葉は根生状につく。長い葉柄の先に細長いへら状の葉をつける。葉の長さは葉柄部も含め1.5～5cm。葉のわきに直径2～3mmの星形の花を咲かせる。花色は白色だがときにやや赤みを帯びることもある。減水裸地の泥地に生える。県内の個体群は、季節に関係なく減水裸地が生じたタイミングで発生し、花期も不定である。種子は微細であり、水流や渡り鳥によって分布が拡散していると推定される。そのため今後も新たな産地が見つかる可能性がある。タウコギ群綱 [Th]

**【分布】** 北海道、本州、九州。北半球の温帯～寒帯に広く分布。

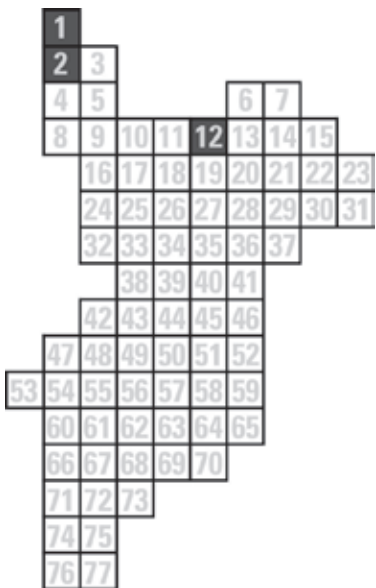
**【県内の状況】** 利根川、江戸川河川敷では、減水裸地となっている場所で散発的に見出され、一部大きな群落となっているところもある。2020年には利根川河川敷にて新たな生育が確認された。

**【保護対策】** 利根川および江戸川の河道近くの減水裸地および、調整池の環境を良好に維持することが好ましい。調整池については現状が保たれる限り、個体群も維持されると考えられるが、外来種の繁茂等、植生環境の変化には留意が必要。

**【文献】** 伊藤彩乃・小幡和男・岩槻秀明・上條隆志 2019 千葉県および茨城県におけるキタミソウ（ゴマノハグサ科）の新産地 茨城県自然博物館 22:45-49

**【写真】** 2022.11.28 野田市 岩槻秀明

(岩槻秀明)



## A シマクサギ クマツヅラ科

2009	
2017	A
2023	A

*Clerodendrum izuinsulare* K.Inoue, M.Haseg. & S.Kobay.

**【種の特性】** 落葉性低木。高さ2から3m。葉は対生、毛は少ない。花冠裂片は短く長さ8から10mm、雄蕊は花冠から0.5から1.5cmとやや短く超出する。虫媒で、鳥散布。花期は、10月。林縁に生育する。[M]

**【分布】** 本州

**【県内の状況】** 千葉市で、2002年10月8日に採集された標本（CBM BS-207945）と同市で、2002年10月8日に採集された標本（CBM BS-207944）がある。また、館山市で、2008年9月3日に採集された標本（CBM BS-281893）と同市で、2007年8月27日に採集された標本（CBM BS-287420）がある。道端に生育しているので、伐採の恐れがあり、個体数も

少ないので、存続が危ぶまれる。

**【保護対策】** 生育地を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 千植誌 2003 486

**【写真】** 2002.10.8 千葉市 標本: CBM BS-207945  
(天野誠)



## A マメダオシ ヒルガオ科

2009	
2017	A
2023	A

*Cuscuta australis* R.Br.

**【種の特性】** 寄生・つる性の一年生草本。茎は、ネナシカズラより細く、1mm。花は頭状に付く。花柱は2本。虫媒で、重力散布。花期は、7月～10月。日当たりの良い草原や海岸に生育する。{Th}

**【分布】** 北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、東南アジア、オーストラリア。

**【県内の状況】** 香取市で1996年10月30日に採集された標本（CBM BS-282916）と富津市で1977年8月4日に採集された標本（CBM BS-236774）と船橋市で1973年9月30日に採集された標本（CBM BS-284071）と千葉市で1971年10月5日に採集された標本（CBM BS-182780）がある。

**【保護対策】** 生育地を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 千植誌 1958:336 / 新千植誌 1975:381 / 千植誌 2003:478 / 改訂新版 日本の野生植物 5 2017 26

**【写真】** 1973.9.30 船橋市 標本: CBM BS-284072

(天野誠)



**A メジロホオズキ ナス科**

2009	
2017	A
2023	A

*Lucianthus biflora* (Lour.) Bitter

【種の特性】 中型の多年生草本。茎は高さ 60～90cm、軟毛が密に生える。葉は卵形から狭卵形。萼は 10 裂する。花冠は、白色で、皿形。液果は赤熟する。虫媒で、鳥散布。花期は、6月～10月。海近くの林縁に生育する。{H}

【分布】 本州、四国、九州。

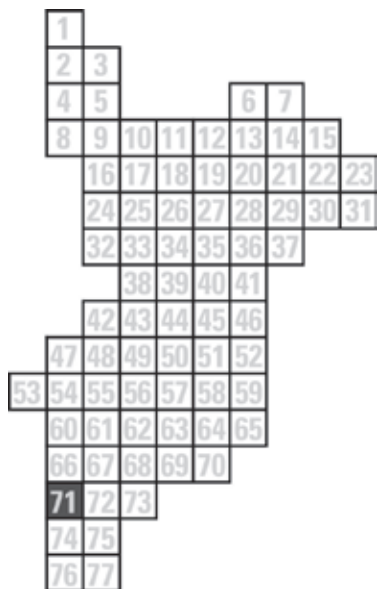
【県内の状況】 南房総市で、2011年10月4日に採集された標本が記録されている。

【保護対策】 生育地の林を良好に維持することが望ましい。

【文献】 川崎一 2012 千植誌資料 27:267-268 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017 36

【写真】 1974.12.19 三重県 標本: CBM BS-205525

(天野誠)



最重要保護  
A

**A ヤマホオズキ ナス科**

2009	A
2017	A
2023	A

*Physalis chamaesarachoides* Makino

【種の特性】 中形の夏緑多年生草本。茎は高さ 30～60 cm、上部で横に枝を張り広がる。葉は互生。単葉で粗い歯牙がある。花は 8～10月に咲き白色で下垂。果実は紅橙色に熟し、萼は果実時にホオズキ状にふくらみ、脈が翼状になって粗い歯牙がある。

{H} 虫媒で鳥散布。

【分布】 本州（関東以西）四国・九州。

【県内の状況】 房総丘陵に知られているが、極めて稀である。沢沿いの湿って肥沃な林床あるいは林縁に生える。

【保護対策】 自生環境を湿った肥沃な環境を保つ。

【文献】 久内清孝 1935 やまほおずき安房二産入。植物研究雑誌 11: 145-146. / 千植誌 2003: 514,521

【写真】 君津市 大場達之

(大場達之/天野誠)



## A オニルリソウ ムラサキ科

2009	B
2017	A
2023	A

*Cynoglossum asperrimum* Nakai

**【種の特性】** 高さ約 50 ~ 100 cm の夏緑の二年生草本。日陰から半日陰の林縁などに生える。根は長倒円錐形。茎は円筒形で、開出する剛毛が生える。上部で枝分かれする。葉は互生、長楕円形で、鋭頭、基部は楔形、やや薄く、両面に荒い毛が生える。さそり状花序を頂生および上部の葉腋につける。花冠は水色、花筒は短い、径 3 ~ 4 mm で、喉部に白色の鱗片状突起がつく。果実は楕円球で、表面に鉤状に刺が生え、1 花に 4 つつく。虫媒で付着散布。[Th] ヨモギ群網。

**【分布】** 北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

**【県内の状況】** 清澄山からの記録があるのみである。

**【保護対策】** 生育環境を良好に維持することが望ましい。

**【文献】** 新千植誌 1975 : 380. / 千植誌 2003 : 483,472

**【写真】** 1937.8.15 鴨川市 標本: CBM BS-178518

(大場達之 / 天野 誠 追補)



## A オオルリソウ ムラサキ科

2009	B
2017	X
2023	A

*Cynoglossum zeylanicum* (Vahl) Thunb.

**【種の特性】** 高さ約 50 ~ 100cm の夏緑の二年生草本。日陰から半日陰の林縁などに生える。根は長倒円錐形。茎は円筒形で、伏毛が生える。上部で枝分かれする。葉は互生、長楕円形で、鋭頭、基部は楔形、やや厚く、両面に荒い毛が生える。さそり状花序を頂生および上部の葉腋につける。花冠は水色、花筒は短い、径 3 ~ 4 mm で、喉部に白色の鱗片状突起がつく。果実は楕円球で、表面に鉤状の刺が生え、1 花に 4 つつく。虫媒で付着散布。ヨモギ群網。[Th]

**【分布】** 本州・四国。

**【県内の状況】** 清澄山と船橋市の標本がある。また奥山 (1963) には山武市の写真があり、その標本が国立科学博物館に収蔵されている。

**【保護対策】** 路傍などに偶生的に生えるものなので保護は難しい。

**【文献】** 奥山春季 1963 原色野外植物図譜 7 : 563 / 新千植誌 1975 : 371 / 千植誌 2003 : 483, 472

**【写真】** 1986 神奈川県 大場達之 (大場達之 / 天野 誠 追補)



**A モリアザミ キク科**

2009	A
2017	A
2023	A

*Cirsium discolepis* (Maxim.) Matsum.

【種の特性】中～大形の夏緑多年草。根は太くゴボウ状。茎は直立して高さ50～100cm。根生葉は倒卵状楕円形で羽状に裂け、花時に枯れている。花は9～10月に上向きに咲く。筒状花は紅紫色。瘦果は黒紫色で先端のみ黄白色。虫媒で風散布。やや乾いた草原や明るい林に生える。(H).

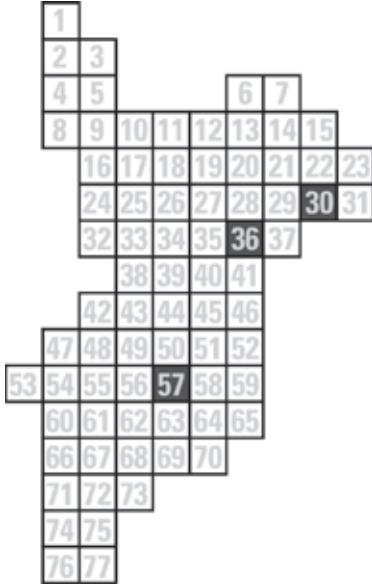
【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】市原市と東金市での記録があるのみである。

【保護対策】自然的なススキ草原を保全する。市原市での産地は雑木林を伐採した跡地で、埋土種子から復活したと考えられる。

【文献】平田和宏 2000 モリアザミー若い植林地を探してみようー。千資料 15：107-108 / 千植誌 2003：578, 569

【写真】1998. 市原市 平田和弘  
(大場達之 / 天野誠)



最重要保護  
A

**A ハマアザミ キク科**

2009	B
2017	A
2023	A

*Cirsium maritimum* Makino

【種の特性】中形～やや大形の夏緑多年草。茎は根際から分かれて地表を這う。葉は羽状に深裂し波曲する。花は8～9月、上向きに咲き紅紫色。総苞は長さ25mmほど。虫媒で海流散布。[H] ハマアザミ群集。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

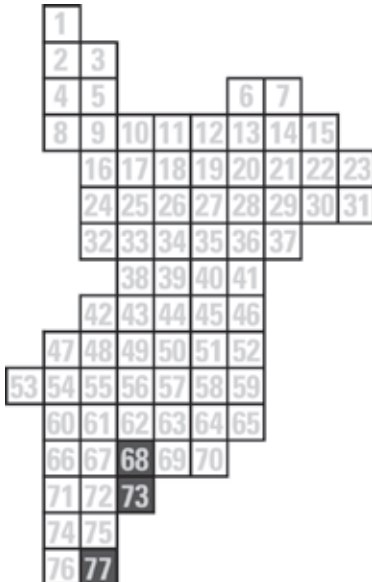
【県内の状況】鴨川市と館山市に知られているが、いずれも偶生的で、数年で波に洗われて消滅することが多い。

【保護対策】自然の砂浜あるいは礫浜の自然を保全する。

【文献】吉川代之助 1964 ハマアザミ房州に上陸。植物採集ニュース 14：13 / 斉藤吉永 1971 房州のハマアザミと千葉付近のウラギク。千生誌 20：73 / 千植誌 2003：577, 568

【写真】2004.11.13 鴨川市 福田洋

(大場達之 / 天野誠)



## A イズハハコ キク科

2009	A
2017	X
2023	A

*Conyza japonica* (Thunb.) Less.

**【種の特性】** 一～二年生草本。葉は単葉で互生し白い蜘蛛毛があり、株は灰色に見える。虫媒で風散布。全体に柔らかい毛が多い。シイ・カシ帯の日当たりの良い乾いた崖などに生え、かつては林道の法面などにも見られた。[Th]。別名ワタナ。

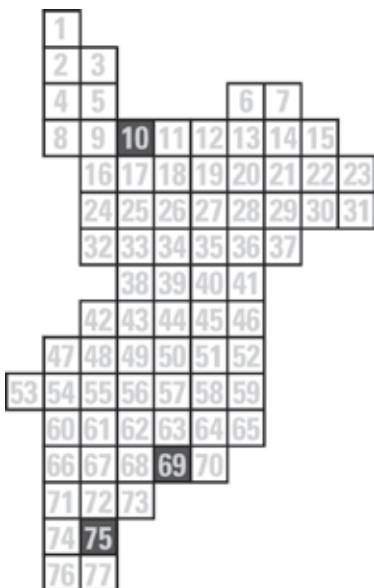
**【分布】** 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア。

**【県内の状況】** 我孫子市、長生村、南房総市、鴨川市などから報告されているが、どこでも個体数は少なく、1979年を最後として近年の報告はない。絶滅した可能性もある。遷移途中相に現れる傾向があるので保全は難しい。

**【保護対策】** 生育環境を良好に維持することが望ましい。林道法面などの過度の牧草などによる緑化を控える。

**【文献】** 新千植誌 1975：356 / 千植誌 2003：593, 583

**【写真】** 2004. 中国四川省 大場達之  
(大場達之/天野誠)



## A アズマギク キク科

2009	A
2017	A
2023	A

*Erigeron thunbergii* A.Gray

**【種の特性】** 多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。銚子の海岸に見られるアズマギクは花序の葉が幅広く基部は茎を抱き、内陸平地のものとは違った形をしている（仮にハマアズマギクと呼んでおく）。しかし本州中部のブナ帯の草地にも同じような形のアズマギクが見られるので今後の研究が必要である。シバ草原に生える。シバスケ群目。[H]

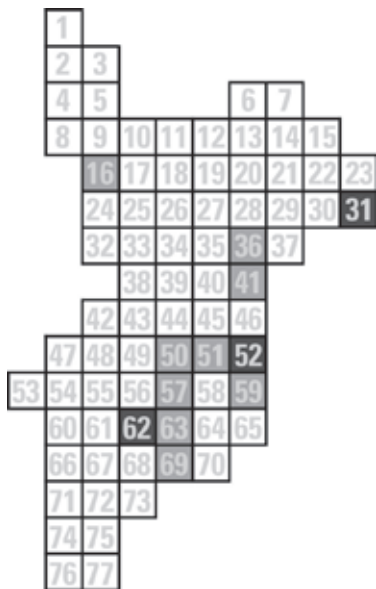
**【分布】** 本州（関東、中部以北）。

**【県内の状況】** 内陸の草地と海岸の岩場周辺に見られたが、半自然の草地の管理が放棄されたために激減している。県内における最も古い記録は1882年6月16日、松戸市での標本で東京大学に收藏されている（採集者不明）。

**【保護対策】** 生育する草地を保全することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

**【文献】** 新千植誌 1975：357 / 千植誌 2003：596, 583

**【写真】** 2002. 銚子市 木村陽子  
(大場達之/天野誠)



最重要保護 A





A オナモミ キク科

2009	
2017	A
2023	A

*Xanthium stumarium* L. subsp. *sibiricum* (Patrin & Widder) Greugter

【種の特性】 中型の一年生草本。高さ 20～100m に達する。茎は、分枝する。葉は、丸みのある三角形で、浅く 3 裂し、不規則な鋸歯がある。筒状花は小さく、白色。偽果実は、楕円球で、長さ 9～14mm。表面の棘は 1～2mm。先端の 2 本の棘は他と比べて大きい。風媒で、動物外散布。花期は、8 月～10 月。道端や空き地に生育する。[Th]

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。

【県内の状況】 県内各地に普通に見られたが、1990 年代を境に急速に目撃、採集されなくなった。千葉市で 1990 年 10 月 16 日に採集された標本 (CBM BS-99516) は、以前の標本と同じ形の偽果を付けているが、袖ヶ浦市で 1995 年 11 月 11 日に採集された標本 (CBM BS-186842) と同市で 1995 年 11 月 5 日に採集された標本 (CBM BS-186332)、一宮町で 1991 年 11 月 21 日に採集された標本 (CBM BS-375106) は、果実が長く、従来の形と異なる。また、大網白里市で 2007 年 5 月 15 日に採集された標本 (CBM BS-263009) は、先端の棘が短く、従来の形と異なる。典型的な偽果の標本は、1990 年を境に見られなくなった。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:319 / 新千植誌 1975:364 / 千植誌 2003:573

【写真】 1990.10.16 千葉市 標本: CBM BS-33516

(天野誠)



最重要保護 A

A ソバナ キキョウ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Adenophora remotiflora* (Siebold & Zucc.) Miq.

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で先は長く尖り、互生。上葉を除いて明らかな柄がある。花は杯状鐘形。虫媒で風散布。日陰の林縁に生える。低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 県内の記録は非常に少ない。市原市 (1991.11.15 CBM BS-44724) と市原市 (1992.9.15 CBM BS-46740) の標本がある。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 561, 555

【写真】 2008.8.23 長野県

谷城勝弘

(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



## A ツルギキョウ キキョウ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Campanumoea javanica* Blume var. *japonica* (Maxim.) Makino

【種の特性】 多年生つる草。根は白色、多肉で分岐する。葉は単葉で対生と互生があり、裏面は粉白を帯びる。8月～11月にかけて葉腋に1個の花が咲く。花冠は柄があって下垂する。虫媒で風散布。[G]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。台湾、中国。

【県内の状況】 市原市と睦沢町に分布が知られる。最近睦沢町で再確認された。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持し、個体を保護することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：560,555

【写真】 2005.10.1 & 04.10.2 睦沢町 谷城勝弘  
(谷城勝弘)



## A ヒメシロアサザ ミツガシワ科

2009	A
2017	A
2023	A

*Nymphoides coreana* (H.Lév.) H.Hara

【種の特性】 浮葉性の水生多年草。地中に多数の太い根を出して固着し、細い茎を水中に伸ばして節から根と、数枚の葉と、多数花を出す。葉は卵心形で長い柄があり、下面は紫色を帯びる。花は7～10月に咲き、花冠は白色で4または5裂し、径8mm、裂片の下部は縁が深く裂ける。閉鎖花は冬までつける。ガガブタに似るが葉は小形で、花冠の裂片の縁に毛状の裂片がある点が異なる。ガガブタの花は裂片の上面に毛がある。

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国東北部、プリモリア。

【県内の状況】 2005年に野田市の水田用水池で発見された。

【保護対策】 生育地周辺での除草剤などの使用を控える。

【文献】 大場富士夫 2006 野田市(旧関宿町)中戸でヒメシロアサザ発見 千植資料 21：165-167

【写真】 2005 野田市 大場富士夫  
(大場達之/天野誠)

